

それはみなさまの一生に寄り添うこと
「ずっと。」



溪仁会グループCSRレポート

CORPORATE SOCIAL RESPONSIBILITY REPORT

2013

溪仁会グループの事業理念

事業理念

安心感と満足の提供
Offering a Sense of Security and Satisfaction

信頼の確立
Building the Foundations of Trust

プロフェッショナル・マインドの追求
Attaining a Professional Mind

変革の精神
Developing the Spirit of Change

ミッション

保健・医療・福祉の各サービスをシームレスに提供し、
地域住民の生涯に亘るニーズに応え支援を行う。

サービス憲章と行動基準

私たちは、質が高く効率的なサービスを提供するため、
グループの総力を挙げ(グループ連携)、地域との関係機関との連携を密にし(地域連携)、
他の関連事業との提携を展開し(業務提携)、患者様・ご利用者様との協同活動を通じて、
満足度の高い保健・医療・福祉サービスを目指します。

そのために…

1. 私たちは、患者様やご利用者様にとって最高の満足度を追求します。 …… 顧客満足
2. 私たちは、最高のサービス品質を追求します。 …… 品質管理
3. 私たちは、人権と倫理を尊重したサービスを提供します。 …… 人権尊重
4. 私たちは、地域社会の一員として事業活動の公正性確保と遵法を徹底します。 …… 遵法精神
5. 私たちは、常に技術の向上と革新に努めます。 …… 技術変革
6. 私たちは、日々研鑽に励み、人格と知識の向上に努力します。 …… 教育研修
7. 私たちは、職種を越えたチーム活動に徹します。 …… チームワーク
8. 私たちは、サービス提供に関わる情報を公開します。 …… 情報公開
9. 私たちは、各機関との地域連携を重視し地域に根ざすサービスを供給します。 …… 地域重視
10. 私たちは、環境を保護するためにあらゆる配慮を尽くします。 …… 環境保護
11. 私たちは、お互いを尊重し、ゆとりある職場環境を追求します。 …… 職場環境
12. 私たちは、個人情報保護を保護し、守秘義務を果たします。 …… 個人情報保護

人にやさしい組織をめざして

溪仁会グループは、医療・保健・福祉を担う者の責任としてCSR活動を推進しています。
さまざまな活動を通してめざしているのは、「人にやさしい組織」であること。「絆」や「気づき」「共感」を大切にしながら、
誰にとっても誠実で、温かなコミュニケーションと思いやりのある組織風土の実現に取り組んでいます。
本レポートでは、そうした当グループのCSR活動をご紹介します。
具体的な取り組みをわかりやすく示すことで、私たちがめざす「人にやさしい組織」の姿をお伝えしたいと考えています。

溪仁会グループ CSRレポート 2013

CORPORATE
SOCIAL RESPONSIBILITY
REPORT



編集方針

溪仁会グループは、2006年度から「CSRレポート」(CSR=Corporate Social Responsibility: 企業の社会的責任)を発行し、当グループの取り組みや考え方を伝えています。

2013年度版では、コーポレートスローガンである「ずーっと。」を軸とし、事業理念やミッションに基づいた当グループの活動を象徴的かつ的確に伝えることをめざした企画構成としました。また、編集にあたってはたくさんのステークホルダーの方々にご協力いただき、より客観性が高まるように努めました。

第三者意見では、CSR分野に詳しい駿河台大学経済経営学部・同大学院経済学研究科教授 日本経営倫理学会副会長の水尾順一氏をお願いいたしました。ご協力いただいた皆さまの声は、当グループの今後の事業のあり方や活動内容の検証に役立て、CSR活動の新たな展望につなげたいと考えています。

報告の範囲

当グループの2012年度(2012年4月～2013年3月)の活動やデータを中心に、2011年度以前や2013年度以降の活動情報も記載しています。

バックナンバーについて

「CSRレポート」のバックナンバーおよび各病院・施設・事業の実績データを収載した「年次報告書」は、当グループのWebサイト上で公開しております。 URL <http://www.keijinkai.com>

次回発行について

次回CSRレポートは、2014年11月を予定しています。

●発行

医療法人溪仁会 法人本部 2013年11月

●お問い合わせ先

医療法人溪仁会 法人本部 広報室
〒006-0811
札幌市手稲区前田1条12丁目2番30号
溪仁会ビル3F
TEL 011-699-7500 FAX 011-699-7501
E-mail editor0110@keijinkai.or.jp

CONTENTS

溪仁会グループのシームレスサービス …… P04
コーポレートスローガン「ずーっと。」の意味 …… P06

特集 Human Story
「ずーっと。」を導く、明日への力 …… P07

活動報告

ずーっと。[I]
皆さまを生涯にわたって見守り続ける「ずーっと。」 …… P18
ずーっと。[II]
医療・保健・福祉を途切れることなく提供する「ずーっと。」 …… P26
ずーっと。[III]
地域の医療・保健・福祉を支えるネットワークの「ずーっと。」 …… P32
おおしまハーティケアセンター活動報告 …… P38
ずーっと。[IV]
いつまでも皆さまの近くに存在し続ける「ずーっと。」 …… P40
職員紹介 それは一人ひとりが輝いてこそ。仕事のやりがい・パワーの源 …… P46

データで見る溪仁会グループ …… P48

溪仁会グループ 施設運営概要

医療法人溪仁会

手稲溪仁会病院／手稲溪仁会クリニック …… P52
手稲家庭医療クリニック …… P54
札幌西円山病院 …… P55
定山溪病院 …… P56
溪仁会円山クリニック …… P57
泊村立茅沼診療所／喜茂別町立クリニック …… P58

社会福祉法人溪仁会

西円山敬樹園 …… P59
きもべつ喜らめきの郷／るすつ銀河の杜 …… P60
岩内コミュニティの丘(コミュニティホーム岩内／岩内ふれ愛の郷) …… P61
月寒あさがおの郷／菊水こまちの郷／手稲つむぎの杜 …… P62
コミュニティホーム(白石／八雲／美唄) …… P63
カームヒル西円山／美唄市東地区生活支援センター すまいる …… P64
溪仁会在宅ケア・総合相談センター …… P64
ハーティケアセンター(青葉／豊平／円山／手稲溪仁会／新琴似／おおしま) …… P65

関連会社等

医療法人福生会 生涯医療クリニックさっぽろ …… P66
株式会社ハーティワークス／株式会社ソーシャル／溪仁会健康保険組合 …… P67

Top Message CSRの旗印が溪仁会を支える

溪仁会グループ最高責任者 医療法人溪仁会 理事長 秋野豊明 …… P68
第三者意見 …… P70
医療・保健・福祉サービスの用語集 …… P71
溪仁会グループ施設一覧 …… P74

医療、保健、福祉をつなぎ合わせながら、あらゆるケアを途切れることなく提供しています。

私たち溪仁会グループは、1979年の創業以来、地域の皆さまの医療・保健・福祉をサポートしてまいりました。札幌市を中心に、医療法人、社会福祉法人、ヘルパーサービス、福祉用具サービス会社などを運営し、医療、保健、福祉を相互に連携させながら、生涯にわたって求められるあらゆるサービスを提供しています。

※各病院、施設、事業所等については、P74・75のグループ施設一覧に記載していますのでご参照ください。

治療とケア

乳幼児から高齢者まで、最新医療技術と機器を備え、総合医療を提供しています。



手稲溪仁会病院(手稲区)



手稲溪仁会クリニック(手稲区)



手稲家庭医療クリニック(手稲区)



泊村立茅沼診療所



喜茂別町立クリニック

地域医療支援

公立診療所の指定管理者として、地域の医療を支えています。

保健

病気の早期発見、健康管理、予防に関するサービスを提供しています。



溪仁会円山クリニック(中央区)

介護 社会復帰 生活支援

【入居支援】

住み慣れた家庭や地域で生活できるよう、介護・福祉のサービスを提供しています。

介護予防 生活支援・通所介護

【在宅支援】

病気や障がい等で介護が必要な方に、専門のスタッフが日常生活をサポートいたします。

療養とケア

看護・介護・リハビリテーションを中心とした医療サービスを提供しています。



特別養護老人ホーム
●西円山敬樹園(中央区)
●月寒あさがおの郷(豊平区)
●菊水こまちの郷(白石区)
●岩内ふれ愛の郷(岩内町)
●きもべつ喜らめきの郷(喜茂別町)



介護老人保健施設
●コミュニティホーム(白石区/八雲町/美幌市/岩内町)



ケアハウス(軽費老人ホーム)
●カムヒル西円山(中央区)



グループホーム
●西円山の丘(中央区)
●白石の郷(白石区)



デイサービス
(手稲区/中央区/豊平区/厚別区/白石区/北区/岩内町/美幌市/気仙沼市)



訪問看護ステーション
(手稲区/厚別区/岩内町/気仙沼市)



ヘルパーステーション
(中央区/白石区/西区/美幌市/八雲町/喜茂別町/気仙沼市)



福祉用具のレンタル・販売
(株式会社ハーティワークス)



札幌西円山病院(中央区)



定山溪病院(南区)

地域の皆さまとともに 溪仁会グループのあゆみ

1979年 6月 西円山病院 開院	11月 定山溪病院 老人デイケア施設基準認定	5月 手稲溪仁会クリニック 開院
1981年 5月 定山溪病院 開院	4月 コミュニティホーム八雲 開所	9月 デイサービスセンターおおしま 開設
1982年 4月 西円山敬樹園 開所	6月 株式会社ソーシャル 設立	10月 グループホーム白石の郷 開所
1987年 12月 手稲溪仁会病院 開院	1999年 4月 デイサービスセンターすまいる 開設	11月 デイサービスセンター白石の郷 開設
1989年 4月 コミュニティホーム白石 開所	ホームヘルパーステーションすまいる 事業開始	2002年 4月 手稲溪仁会デイサービス 事業開始
1990年 1月 溪仁会円山クリニック 開設	5月 訪問看護ステーションおおしま 開設	7月 グループホーム西円山の丘 開所
1993年 1月 はまなす訪問看護ステーション 開設	12月 あおばデイサービスセンター 開設	8月 豊平溪仁会デイサービス 事業開始
1994年 9月 西円山病院 老人デイケア施設基準認定	2000年 1月 円山溪仁会デイサービス 事業開始	新琴似溪仁会デイサービス 事業開始
10月 西円山敬樹園ホームヘルパーステーション 事業開始	2月 気仙沼市在宅介護支援センターおおしま 委託事業開始	2003年 4月 訪問看護ステーションあおば 開設
1995年 10月 コミュニティホーム白石ホームヘルパーステーション 事業開始	4月 コミュニティホーム美幌 開所	青葉ハーティケアセンター 開設
カムヒル西円山 開所	居宅介護支援事業所 事業開始	2004年 9月 コミュニティホーム白石
西円山敬樹園デイサービスセンター 開設	(西円山敬樹園、コミュニティホーム白石、やくも、すまいる)	ショートステイセンター 開所
		株式会社ハーティワークス 設立
		2005年 1月 手稲溪仁会病院 救命救急センター 指定
		3月 手稲溪仁会病院 救命救急センター 指定

4月 ドクターヘリ正式運航開始	2006年 4月 札幌市白石区第1地域包括支援センター 事業開始
8月 おおしまハーティケアセンター リニューアルオープン	介護予防センター 事業開始
10月 在宅ケア事業本部 設置 (2007年4月 在宅ケア事業部に名称変更)	(まへだ、定山溪、円山、曙・幌西、白石中央)
2007年 4月 ケアセンターこころ 事業開始	コミュニティホーム岩内 開所
5月 手稲溪仁会病院 救命救急センター棟 オープン	
7月 地域密着型介護老人福祉施設 菊水こまちの郷 開所	
小規模多機能型居宅介護 菊水こまちの郷 開設	

2008年 4月 岩内町地域包括支援センター 事業開始	2009年 4月 社会福祉法人南静会 「社会福祉法人溪仁会」へ名称変更
7月 居宅介護支援事業所ケアプランセンター 事業開始	10月 手稲家庭医療クリニック 開院
2009年 4月 社会福祉法人南静会 「社会福祉法人溪仁会」へ名称変更	11月 西円山病院「札幌西円山病院」へ 病院名称変更
10月 手稲家庭医療クリニック 開院	2010年 7月 手稲溪仁会病院 NICU 開設
11月 西円山病院「札幌西円山病院」へ 病院名称変更	10月 訪問看護ステーション岩内 開設
2010年 7月 手稲溪仁会病院 NICU 開設	訪問看護ステーション岩内 開設
10月 訪問看護ステーション岩内 開設	指定管理者として運営開始
2011年 8月 月寒あさがおの郷 開所	札幌市白石区第3地域包括支援センター 開設
11月 手稲溪仁会病院 地域災害拠点病院 指定	コミュニティホーム白石 訪問リハビリテーション 事業開始
デイサービスセンターまへれ 開設	5月 コミュニティホーム白石 訪問リハビリテーション 事業開始
2012年 4月 岩内ふれ愛の郷 開所	6月 きもべつ喜らめきの郷 開所
5月 コミュニティホーム岩内 ケアプランセンターさつき 事業開始	11月 医療法人稲生会 生涯医療クリニックさっぽろ 開設

「ずっと。」の意味

溪仁会グループは、地域の医療・保健・福祉を支えることを使命に、
皆さまの人生に寄り添い続けてきました。

「ずっと。」という言葉を経営の理念に掲げ、
社会のニーズに応えるためのサービスを追求しています。

この「ずっと。」には、たくさんの思いや決意が込められています。
誕生から人生の終末期まで、皆さまの一生を見守り続けること、
切れ目のない医療・保健・福祉サービスを提供すること、
より広い地域をつなぎ合わせる医療・保健・福祉のネットワーク、
信頼される組織として、いつまでも存続し続ける義務。

こうした使命を果たし、地域の皆さまに安心と満足をお約束することが、
当グループの存在意義であると考えています。

住み慣れた地域で、誰もが生き生きと
暮らし続けることのできる未来を実現するために。
溪仁会グループはいつまでも、皆さまのそばに寄り添い続けます。

皆さまを
生涯にわたって
見守り続ける
「ずっと。」

地域の
医療・保健・福祉を
支えるネットワークの
「ずっと。」

医療・保健・福祉を
途切れることなく
提供する
「ずっと。」

いつまでも
皆さまの近くに
存在し続ける
「ずっと。」



Human Story

「ずっと。」を導く、 明日への力

明確なビジョンで組織を率いる人。
生命に寄り添い、支え続ける人。
挑戦することを恐れずに、理想を追求する人。
溪仁会グループには、その使命を果たすために
力を尽くす人たちがいます。

彼らを突き動かしているのは、
ひたすらに未来への道を切り拓こうとする
純粋なプロフェッショナルマインド。
揺らぐことのない信念と行動力です。

より高みをめざして生きる人の
human storyをご紹介します。





田中 繁道

手稲溪仁会病院 院長

歩みを止めず、
挑戦し続けることで
理想とする医療の姿が
見えてくる。

Human Story

未知数の可能性を感じて
大学から手稲溪仁会病院へ

「札幌市の民間病院が、面白いことをやっている」。手稲溪仁会病院は最先端医療への取り組みを中心とする革新的な試みが全国から注目を集め、今や日本屈指の急性期総合病院として知られる存在です。救命救急センターの設立や地域医療への貢献など、民間病院ながら公的な役割も受け持つことで、独自の存在感を示しています。

田中繁道院長は2009年から同病院の陣頭指揮を執っています。院長就任以来、「地域がん診療連携拠点病院指定(2009年)」や「地域医療支援病院認定(2012年)」など、地域の生命を守る急性期総合病院としての強化に取り組んできました。また、日本の医療をリードする存在となるべく、医療の質の向上にも挑んでいます。「北海道で最高の病院に、というのがこれまでの当院の目標でした。しかし、これからは日本を代表する病院をめざしていきたい。日本の最高峰と言われるような医療機関と肩を並べるだけの実力はついてきたと自負しています」

田中院長が同病院に副院長として着任したのは1997年のことでした。それまで30年近く在籍した大学病院から民間の病院へ。そこには、新しい医療の可能性に挑戦したいという強い思いがありました。「50歳を前に、大学という組織を離れて自由にやってみたいと思うようになって。手稲

溪仁会病院はその将来性に大きな魅力を感じました」。大学病院でも臨床と研究を両立し、マネジメントも担当するなど、それなりに経験を積み、満を持してのチャレンジでした。しかし、着任当初は体重が減ったことも。「今思えばストレスだったのかな」と笑います。

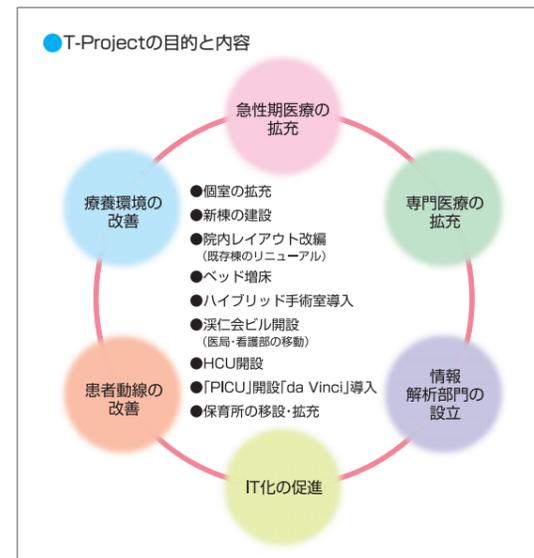
患者さまも医療現場も満足できる
最高の医療環境を実現したい

田中院長は大学病院時代から、医療現場の疲弊や大病院に偏りがちな患者さまの志向など、さまざまな問題を目にしてきました。「大学病院は紹介された患者さまを抱え込んで、スタッフは“疲れた、疲れた”と言っている。地域の医療機関からは“大学病院は患者さんを返してくれない”と言われる。これではいけないと強く感じていました」。こうした経験から、地域にある医療機関との連携の重要性を意識するようになったと言います。

田中院長は手稲溪仁会病院に着任すると、医療連携を推進するために、積極的に医師会に参加。同病院が取り組むビジョンへの理解を働きかけ、提携を結ぶ医療機関を少しずつ増やしてきました。現在、登録提携医療機関数は270を超え、札幌市全域から石狩市、小樽市など、他市町にまで拡大。地道ともいえる努力の結果が「長年の念願だった」地域医療支援病院の認定にもつながりました。

同病院は中期的な経営計画を「T(手稲溪仁会病院のT)プロジェクト」として、2017年3月末までにベッドの増床(562床→670床)や個室の拡充、PICU(小児集中治療室)の開設、院内レイアウトの改編などを予定。重症であったり、高度な専門医療を必要とする患者さまの受け入れ体制を強化します。田中院長は「将来的に外来の患者さまは、現在の7割程度になる想定です。その分、入院患者さまや救急患者さまへの対応が手厚くできる」と展望を話します。

「経営面ばかりを重視しないのが当院の特長。“いい医療をやっている”と、結果は必ず付いてくる」というのが昔からのポリシーだし、実際にそうなってきていると思います」と田中院長。「医療者としての理想と経営側の視点、その両立が難しいけれど」と楽しそうに話しながら、既にその目は2017年の先にめざすべき姿を見据えています。



医療者としてだけでなく、
一人の人間として。
「障がいをつくらない」
社会を実現したい。

医療法人稲生会
生涯医療クリニックさっぽろ
院長

土
畠
智
幸

Human
Story②



NIVが必要な子どもたちとの出会いが「障がい」とは何かを気づかせた

小児科医の土畠医師は、手稲溪仁会病院へ入職4年目の2006年に障がいを持つ子どもたちを担当するようになり、呼吸不全を抱える子どもたちに非侵襲的換気療法(Noninvasive ventilation=NIV)を開始しました。鼻マスクを介して空気を送るNIVは、気管内挿管や気管切開よりも体への負担が少なく、生活の質を高められる治療法。しかし、当時は小さなお子さんへのNIVは普及しておらず、在宅ケアに必要な支援もありませんでした。土畠医師は訪問診療による在宅支援を進めながら、「障がいは病気やけがでもたらされるのではなく、社会がそういう状態に置いているのだ」と感じ始めました。

患者さまは年々増え、さらに土畠医師を頼り成人患者さまも訪れるようになりました。手稲溪仁会病院は2008年に「小児NIVセンター」、2012年からは「小児在宅医療・人工呼吸器センター」として体制を強化。多職種チームによる継続的・包括的なケアを提供できるようになりました。しかし、多くの患者さまとかわる中、ご家族のケアが足りていない、と強く思うように。ご家族を含めた支援体制を築くために立ち上げたのが「Dプロジェクト」です。

新クリニック開設に託した思いは、
支え合う地域をつくること

このプロジェクトがめざすものは、医療・福祉の枠組みを超えて支援を考えていく“新しい社会の枠組みづくり”です。実現に向けた第一歩として、今年11月1日に「医療法人稲生会 生涯医療クリニックさっぽろ」を開設しました。従来

の診療活動に加え、小児に対する在宅支援を行っていたNPO法人「くまさんの手」と合流し、ご家族の介護負担を減らすサービスを提供します。また同クリニックは、行政や関係機関、地域の人々と共に、必要な支援のあり方を考えていく場としての役割も担います。

「稲生会」の名は、苗のころに踏まれると強くなる稲のように、困難を乗り越えた人ほど強く生きるという思いを託しました。また『実るほど頭を垂れる稲穂かな』、成長するほど謙虚であれという自分たちへの戒めでもあります。「小児科医の自分より、良い呼吸ケアをできる人はいるという思いはあります。しかし、専門医の先生などさまざまな方に、肩書は関係ない、できることをやるべきと後押しを受けました。医師としてではなく、人間として患者さまに向き合うことが大切なのだ」と

土畠医師は患者さまのご自宅を訪問する際、白衣を身につけません。医療者ではなく、同じ生活者として患者さまやご家族にかかわっていくためです。「常に誰かが誰かを気にかけて助け合う、それがめざす社会」。人と人とのつながりが社会を変える力を生むと信じ、土畠医師はプロジェクトを推し進めています。

Dプロジェクトとは

A Keijinkai's project for making a better society with **D**isabled people.
(困難を抱える人々とともに、より良い社会をつくるプロジェクト)

- D**iversity(多様性)・・・病気、障がいを含めたさまざまな違いを認め合う
- D**ialogue(対話)・・・どこが違うか、お互いの考えを知るために話し合う
- D**esign(デザイン)・・・既存の枠組みで解決できないことを解決する新たな枠組みをつくる

●診療実績の推移(小児在宅医療・人工呼吸器センター)

	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
紹介患者数	13名	17名	23名	41名	35名
新規在宅導入	5名	9名	9名	25名	25名
在宅患者数	22名	29名	43名	70名	93名(うち気管切開17名)
延べ訪問診療数	64回	116回	267回	382回	651回
予定入院	20名	44名	51名	76名	106名
緊急入院	21名	14名	12名	23名	37名

福祉という
尊い仕事に携わる職員が
誇りを持って働いていける
法人をめざして。

社会福祉法人 溪仁会 理事長

谷内好

Human Story ③



職員に優しい経営をめざすことが
地域福祉への貢献にもつながる

社会福祉法人溪仁会の谷内好理事長は、1988年に医療法人溪仁会に入職しました。その後、社会福祉法人(当時は南静会)の役員を務め、医療と福祉、双方の組織管理を経験。その中で重視したのが職員への教育でした。当時、南静会と医療法人溪仁会は、あまりかわる機会がありませんでした。「グループとしての一体感が重要なものでは」という思いから、組織横断的な会合や研修などを企画。双方の職員が交流し研鑽できる場として、現在では溪仁会グループの重要な事業の一つとなっています。

理事長に就任した2000年は、介護保険法施行の年でもありました。福祉を取り巻く環境が大きく変わる中で、谷内理事長は職員に、福祉サービスに欠かせない「人と人」のつながり、「思い」の大切さを伝え続けてきました。2009年には名称を溪仁会に統一。「社会福祉法人の職員も溪仁会グループの一員であることを自覚し、誇りと責任を持って働けるようになった」と振り返ります。

谷内理事長が大切に続けてきたもの。それは、現場で汗を流す職員への感謝の思いです。「介護サービスは、本当に尊い仕事。現場を見ると、誰もが一生懸命にやっているとつくづく感じます。その努力に少しでも報いなければならないと思います」。職員が福祉人として成長し続けられる組織にすることで、仕事のやりがいや人生の喜びを感じ



てほしい。そのためにも、キャリアに応じたチャンスを提供したいと谷内理事長は言います。「職員にとって優しい組織をめざしていけば、それがやがて福祉の質の向上にもつながるはずだと信じています」

35周年に向けた中期ビジョンで
時代を捉えた、誠実な組織運営を

同法人では、設立35周年を迎える2017年に向けた5か年の中期計画が昨年からはスタート。谷内理事長は「2025年問題が注目されていますが、そんな未来は誰にも描けない。それより着実に中期計画を立案・遂行し、時代の変化に柔軟に対応していくことが重要」と話します。

計画に基づき、今年から来年にかけて、介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)の開設が続きます。2施設は喜茂別町と留寿都村に、都市型の1施設は札幌市の手稲区に。規模やタイプは異なりますが、地域のニーズに沿った多様なサービスの提供を目標にしています。

「道内の市町村からは、溪仁会に施設を運営してほしいという要望が多く寄せられています。これは、当法人への期待というよりも、溪仁会グループに対する信頼の証だと考えています。当法人はその思いに少しでも応えるよう、地域福祉への貢献を続けていきます」

今年1月には、新たな取り組みとして札幌市の障がい者福祉事業に参入。現在は支援相談業務のみですが、機会があればさらにサービスを発展させていく予定です。

「私は福祉の実践者ではありません。だからこそ、職員を敬う気持ちを忘れてはいけなく、いつも自分に言い聞かせています。福祉に携わる職員も、そのサービスを受けるご利用者さまも、誰もが幸せになるように。「大局着眼、小局着手」を座右の銘に、組織全体を俯瞰しながら、小さなことを確実に積み重ね、理想とする福祉の姿を実現しようとしています。



きもべつ喜らめきの郷



手稲つむぎの杜
※2014年6月開設予定



すすつ銀河の杜
※2014年4月開設予定



手稲家庭医療クリニックの2階にある入院病棟「セカンドケアハウス」は、主にがんの終末期にある患者さまのためのエンド・オブ・ライフケアを提供しています。まるで自宅にいるような安らぎのある環境の中、ご家族や親しい人との時間を過ごしていただく「第二の家」であることをめざしています。

成田佳永^{かえ}師長は、1997年に手稲溪仁会病院に入職しました。主にがんの入院患者さまの看護に携わったことで、患者さまとご家族の心身に寄り添い、サポートを行う緩和ケア認定看護師を取得。がん治療における看護の技術と知識を高める努力を続けてきました。

その経験から、2012年春に手稲家庭医療クリニックの

師長として異動。終末期の患者さまが最善の時間を過ごせるように支援する、エンド・オブ・ライフケアを実践しています。「ここでは患者さまの日常に触れることができます。何かをして差し上げるという意識ではなく、一緒にいる・一緒に歩むという気持ちが大切なのだと考えています」

成田師長は、急性期とはまた違った患者さまとの密接なかかわりの中で、ご家族の絆の深さを改めて実感させられることが増えたといいます。「このセカンドケアハウスでは、患者さまがどう過ごしていきたいのかという意思や、ご家族との関係性がより前面に出てきます。私たちはその姿を見守り、さりげない会話から思いを汲み取るようにしています」

現在は、手稲溪仁会病院のがん患者サロンの開催や、がん看護ゼミナールといった学習会を担当するなど、さまざまな取り組みも行っています。「師長としてはまだまだ駆け出し」と笑いますが、師長として、緩和ケア認定看護師として、指導と実践を両立できる環境がうれしいと、あくまでも前向き。患者さまと時を重ねながら、その人らしい生き方を支える看護の在り方を考え続けています。

成田佳永

手稲家庭医療クリニック 師長

「どうありたいか」を尊重する。
終末期を迎えられた患者さまとの
濃密なかかわりの中で
教えられたこと。

Human Story 4



入院患者さまへの365日にわたるリハビリテーションの実現やシームレスな在宅ケアなど、札幌西円山病院はリハビリテーションに力を注いできました。今では200名ものリハビリスタッフを擁し、日本有数の高齢者リハビリテーション病院として知られています。

リハビリテーション部を率いる伊藤隆部長が札幌西円山病院に入職したのは1994年のこと。在籍するリハビリ職はたったの10名という、今とはほど遠い環境でした。「本州のリハビリ病院で作業療法士としての経験を積み、自信を持って入ってきたものの、ここはそれまでの病院とはまったく異なる慢性期病院。経験や知識は役に立ちませんでした」

伊藤部長はそこでくじけず、「ここを改革しよう」と奮起。スタッフを集めるために勉強会の開催や他の病院への働きかけなどを熱心に行いました。「当時、慢性期の患者さまへのリハビリは重視されていませんでした。それを変えようというのですから、周囲とはぶつかり、よくケンカもしました」と笑います。

2004年には診療技術部から独立して、リハビリテーション部を設立。そのころからスタッフが急増し、2006年には100名を超えるまでになりました。また、専従する病棟ごとに理学療法士・作業療法士・言語聴覚士がチームで活動する体制を導入するなど、他の病院に先駆けた革新的な取り組みを行いました。

「治療効果という意味では、慢性期のリハビリテーションのエビデンス(医学的根拠)を示すのは難しい。でも、患者さまは少しでも楽になるはずだし、リハビリをしてほしいと願うご家族も多いのです」。より質の高いリハビリテーションをめざして、これからも変革を続けると話す伊藤部長。その姿を見ながら、若いリハビリスタッフたちもたくましく育っています。

伊藤隆

札幌西円山病院
リハビリテーション部 部長

常に革新を続けながら
高齢者リハビリテーションの
未来を追求する。

Human Story 5



溪仁会岡山クリニックでは、企業の健康づくりに積極的に
かかわれるよう、2013年4月から産業医活動を本格化さ
せました。活動の中心にいるのが、園田博医師と木村礼子
次長です。

園田医師は入職前から医療の可能性について考えて
いました。「留学先で、ホームレスや病气・障がいを抱える
人を施設に隔離せず、街全体で支援しているのを目にしま
した。医療は街やそこで生きる人々、つまり社会にもっと寄
り添えるのではと思い始めました」。そして働く人々の健康
を考える立場の産業医(P72参照)として活動を志すよう
になりました。企業におけるさまざまな労働環境の中で、一人
ひとりが健康を維持するために作業環境や健診データを
元に、企業の担当者と連携しながら健康管理を行います。

園田医師の活動を、木村次長は保健師として支えてい
ます。「保健師は保健相談で個別に相談を受けています
が、近年働く人たちがメンタルヘルスのサポートを求めてい

ると感じました」と勉強の必要性を感じ、産業カウンセラー
(P72参照)の資格を取得しました。

57の企業をサポートする中、溪仁会岡山クリニックに蓄
積されている企業健診のデータを生かして活動していると
2人は言います。個別のデータは一人ひとりの健康のパロ
メーターとして、企業単位でのデータはセミナーなどの企
業単位での支援を考えるために活用します。

「健康は業務のあり方と表裏一体。しかし私たちは業務
改善には介入できないので、ジレンマはあります」と木村次
長。企業のトップの意識を健康に向けていくためには、産
業医として担当者と連携を深め、企業に合った支援をし
ていく必要があります。「企業が生き残るために、産業医は
健康管理に関するリスクマネジメントをするともいえます。
私たちも法律などさまざまな知識を身につける必要もある
と思います」と園田医師も決意を示します。

働き方から健康を考える社会へ。
企業と働く人の健康を守る
産業医活動の可能性を信じる。

溪仁会岡山クリニック
医師

園田博

保健事業部次長

木村礼子

Human Story 6

れは当たり前のことでした」

現在の目標は、スタッフのモチベーションを上げなが
ら、看護やケアの質を高めていくこと。同病院は早くから身
体拘束廃止や褥瘡(P72参照)の予防などに取り組んでき
ましたが、まだやれることはたくさんあると桐生看護部長は
考えています。患者さまに選ばれるサービスを提供するた
めに、これからは看護部が主体となって、新しいプロジェ
クトにも取り組んでいきたい、と意欲的です。

「急性期、回復期、慢性期と、さまざまな医療現場を経験
して感じるの、どのようなシーンでも“患者さまのために”
という看護の視点は変わらない、ということです。おもてな
しの心で、自然に患者さまの気持ちに寄り添えるような環
境をめざして、看護に臨む姿勢や理念を現場に伝えていき
たいと思います」

桐生真由美看護部長は、溪仁会グループの急性期・慢
性期病院において、20年以上にわたり看護業務を経験。
そのキャリアとリーダーシップを活かし、今年の7月から定山
溪病院看護部の部長として現場をまとめています。

「これまで手稲溪仁会病院と札幌西岡山病院の副看護
部長を務めてきました。業務や人事など、マネジメントの経
験はありましたが、部長となると責任はより重大。悩みまし
たが、自分の看護キャリアの集大成としてお受けするべき
だろう、と決心しました」

32歳の時に手稲溪仁会病院の看護師長となって以来、
管理職としての責務を果たしながら、看護の質の向上をめ
ざしてきました。忙しく働く日々が続きましたが、「患者さまの
ためになることなら、と思うと苦にならなかった」と振り返り
ます。「自分に自信がなかった分、看護業務もマネジメントも、
熱心に勉強しました。看護師という仕事を選んだ以上、そ

急性期でも慢性期でも、
看護やケアの質は変わらない。
患者さまに選ばれる
存在をめざしたい。

定山溪病院 看護部 部長

桐生真由美

Human Story 7



皆さまを生涯にわたって 見守り続ける「ずっと。」

溪仁会グループは、生命の誕生のときから一生にわたって皆さまの健康を守り、支えています。最先端医療の提供や在宅医療のサポート、終末期の取り組みなどを通じて、皆さまの生涯に寄り添い続けます。



地域の医療と健康を守る中核病院として、使命を追求する

～「地域医療支援病院」承認

【手稲溪仁会病院】

医療機関の機能分化と連携で「地域完結型医療」をめざす

手稲溪仁会病院は1987年の開院以来、質の高い急性期総合医療を提供してきました。地域の皆さまの生命と健康を守り、医療サービスの向上に貢献するため、常に新しい試みに挑戦。救命救急センターの開設や地域がん診療連携拠点病院の指定、地域医療連携の推進など、民間の医療機関ながら、地域全体の医療を支える役割を果たしてきました。

こうした取り組みが認められ、2012年10月26日に、同病院は「地域医療支援病院」の承認を受けました。地域医療支援病院とは、医療機関の役割分担と連携を目的に、周辺の医療機関及びその医師（かかりつけ医）に対する医療支援を行う役割を担う病院のこと。身近な地域内で多様な医療が提供され完結する「地域完結型医療」を推進するための制度で、ご紹介いただいた患者さま中心の診療、救急医療や高度な専門医療の提供など、多くの要件があります。

同病院はかねてから地域医療支援病院の承認をめざし、周辺の医療機関との連携を深めてきました。身近な存在である「かかりつけ医」の普及・啓発活動もその一環です。かかりつ

け医からは専門的かつ高度な医療を必要とする患者さまをご紹介いただき、症状が軽い、または安定している方にはかかりつけ医にご紹介する（逆紹介）ことで、総合病院に集中することを解消し、地域の医療機関の得意とする機能を発揮してもらい狙いがあります。また、これは地域全体の医療を活性化し、医療資源を守ることにもつながります。地域医療支援病院の承認要件の中で、「患者さまの紹介・逆紹介」が最も重視されているのも、こうした理由からです。今回、同病院は紹介率60%以上かつ逆紹介率30%という要件を満たし、承認を受けました。

■地域医療支援病院の承認要件

- ・ 紹介患者中心の医療を提供していること（紹介率・逆紹介率が規定の比率以上であること）
- ・ 他の医療機関と医療機器や病床などを共同利用していること
- ・ 地域の医療従事者に対する研修などを実施していること
- ・ 救急医療の提供をしていること
- ・ 病床数が200床以上であること

地域医療に貢献する 中核病院としての役割が明確に

地域医療支援病院に承認されたことで、同病院は地域医療を支える医療機関としての機能をさらに強化することになります。ご紹介いただく患者さまを受け入れるだけでなく、これまで以上に積極的に逆紹介を行い、医療機関の機能分化の推進に取り組みます。

既に、今年の6月から泌尿器科と整形外科は完全予約制（紹介制）に移行しました。また、紹介状や予約がなく来院された患者さまの相談窓口として「受診相談コーナー」を開設し、最適な医療機関のご紹介を行っています。患者さまのニーズや地域の医療機関との連携も見据えながら、将来的には他の科も段階的に完全予約制に移行する予定です。



受診相談コーナー

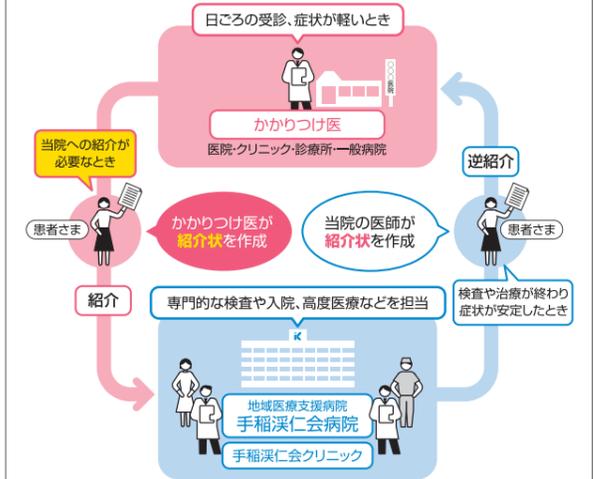
地域の医療機関や医療従事者への支援も大切な役割です。例えば、同院で保有している検査機器を地域の医療機関にも活用していただくことや、医療従事者に対する研修や講習会も定期的に開催し、地域全体の医療の質の向上にも取り組んでいます。

これからも地域の生命を守る急性期総合病院であり続けると同時に、地域の医療と住民の方々の健康を支える拠点としての使命を果たすために、手稲溪仁会病院は皆さまの声に耳を傾けながら、新しい挑戦を続けていきます。

手稲溪仁会病院の提携医療機関数
(2013年7月1日現在)

病院数	76
クリニック数	195
計	271

地域医療支援病院とかかりつけ医の連携体制



地域の患者さまや 提携医療機関から 信頼されるために

手稲溪仁会病院
副院長・地域連携福祉センター長
成田吉明



地域医療支援病院に承認されたことは、当院の25年以上にわたる取り組みの結果と捉えています。当院と長くお付き合いされてきた地域の患者さまの中には、「軽症の方はなるべく近くのかかりつけ医に診ていただこう」という方針にご不満を持たれる方もいらっしゃるでしょう。しかし、待ち時間の解消や本当に医療を必要とする方への迅速な対応など、長い目で見ると患者さまにとって必ずメリットのある制度だと考えています。地域の皆さまには、時間をかけて丁寧に説明をしながらご理解いただくように努力していきたいと思っています。

当院と連携している医療機関の皆さまとは、これまで以上に強固な協力体制を築いていきたいと考えています。例えば、医療機器の共同利用は、実際にはわかりにくく、使用しづらい制度でした。このシステムを全面的に見直し、本年10月1日から、利用しやすい申し込み方式に改めました。また、完全予約制となった泌尿器科と整形外科の担当医師が地域の医療機関を訪問して、「顔の見える関係」を築き取り組みも開始しています。当院の活動に、ご理解とご協力をいただきたいと思います。

今回の承認を機に、当院は基幹病院としての責任を再認識し、地域医療の未来に貢献したいと考えています。これまで以上に皆さまとコミュニケーションを図り、ニーズに応えてまいります。

多くの救急患者さまを受け入れるために

～ハイケアユニットの新設

手稲溪仁会病院は、手稲区のみならず小樽、石狩地域からも広く救急患者さまを受け入れています。救急科で続く満床状態を解消するため、救急受け入れ体制を強化することが課題でした。

そこで2013年2月1日に、救命救急センターにハイケアユニット(HCU)12床を新設しました。HCUはEU(救命救急専用病床)、ICU(集中治療室)と一般病棟の中継点に当たります。9床の個室と3床室を設け、個室2室は感染拡大防止装置を備え重症感染症の患者さまにも対応可能です。HCU室長は救急科部長の医師が兼務。院内各病棟から主任を含む看護師27名、看護助手2名を配置し、さまざま



【手稲溪仁会病院】

な病態に対応しています。

HCUを設けたことで、EUやICUで症状が安定した患者さまが一般病棟に移れるようになるまでの回復過程のケアがより手厚く行えるようになりました。また、ICU、救急病棟にHCUが加わり各科の重症な患者さまに幅広く対応できるようになりました。

ハイブリッド手術室・320列型CTを導入

【手稲溪仁会病院】

高度急性期医療を担う手稲溪仁会病院では、進歩する治療・検査技術に対応するため、医療機器を更新しています。

2012年3月には最新の320列型CTを導入。0.35秒間に320断面を撮影でき、コンピュータ上で立体画像も得られます。短時間・低被ばく量でより精密な画像診断が可能になり、従来カテーテルを入れて撮影していた心臓検査もCTで行えるようになりました。

6月には、手術室に血管造影検査室の機能を持たせた「ハイブリッド手術室」を稼働しました。カテーテルを用いた心臓血管外科治療の環境が向上することが期待されています。



ハイブリッド手術室

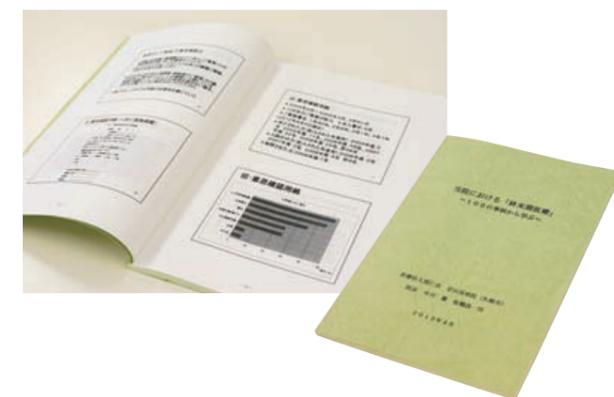
320列型CT

終末期医療の100の事例を一冊に

【定山溪病院】

定山溪病院では1990年代の後半から、終末期医療の取り組みを行ってきました。個別の患者さまのケアを検討する「ターミナルケアカンファレンス」や、終末期の医療・ケアについての「意思確認用紙」、亡くなられた後の「死亡後カンファレンス」など、病院全体で最善のターミナルケアを追求しています。

こうした取り組みの中から100の事例を一冊にまとめた「当院における「終末期医療」～100の事例から学ぶ～」を2013年4月に発行しました。全職員に配布し、ホスピスマインドのあり方を学ぶ一助とするともに、ターミナルケアの貴重な記録として医療の質向上に役立っています。



より安全・正確で、痛みの少ない手術を

～手術支援ロボット「da Vinci」の活用

【手稲溪仁会病院】

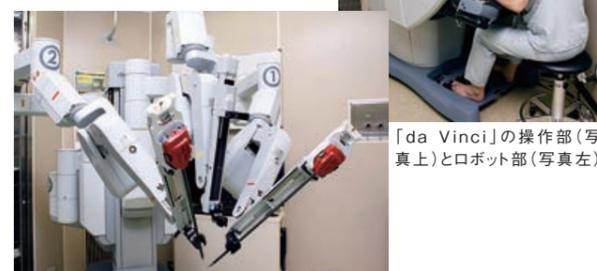


「da Vinci」は、内視鏡手術を発展させ、カメラや鉗子などを備えたロボットアームを遠隔操作して、体への負担が少ない手術を行う手術支援ロボットです。

「da Vinci」は関節の可動範囲が広く、人間では難しい角度から自由に鉗子などを動かすことができることから、より精緻な手術が可能です。また、従来の内視鏡手術では、動きの制約により操作に力が入り、患者さまの痛みにつながっていましたが、「da Vinci」ではそれがなく、患者さまの苦痛を減らすことができます。

2011年8月に北海道初の「da Vinci」が手稲溪仁会病院に導入されました。2011年11月に「da Vinci」を用いた前立腺がん手術を始め、自由診療で2012年3月までに14件を行い、2012年4月からは「da Vinci」を用いた前立腺がん手術が健康保険適用となり、2012年度の手術件数は93件と大幅に増えました。

また、婦人科と外科の領域にも活躍の場を広げ、道内初の手術を実施しました。この分野での手術は自由診療となりますが、患者さまの選択肢の一つとして提供できるよう、術者のトレーニングに励んでいます。



「da Vinci」の操作部(写真上)とロボット部(写真左)

「手稲区在宅医療連携拠点事業所」の活動

【手稲家庭医療クリニック】

厚生労働省は、医療と介護が連携した在宅医療を推進しています。手稲家庭医療クリニックは「平成24年度在宅医療連携拠点事業」の実施機関として採択を受け、手稲区の行政機関や医師会などと協力して在宅医療のあり方を検討してきました。

2013年度は、「手稲区在宅医療連携拠点事業所」を中心とした地域活動を継続し、専属の医師や看護師などがチームで訪問診療に対応しています。小嶋一院長は「ご自宅での看取り件数だけでも、これまでの倍のペースで増えています。在宅医療への理解が深まっているのを感じます」と話し、より充実したケア体制の構築をめざしています。



手稲区在宅医療連携拠点事業所「チームかりんば」のホームページ

「さくらの会」で子どもたちと交流

【札幌西円山病院】

2012年7月28日、北海道難病センターで、札幌西円山病院が主催する「第1回さくらの会」が開催されました。これは訪問リハビリを利用している子どもたちとその家族が、介助者と一緒に交流する催しで、小児在宅リハビリの認識を深め、地域連携構築のためのコミュニケーションづくりを目的としています。

2013年10月5日には、札幌西円山病院6Fリハビリ訓練室で「第2回さくらの会」が開催されました。前半は、最近の整形外科的治療について、医師による講義や当院の介入事例を紹介。その後の交流会では子どもたちがスタンプラリー方式のゲームを介助者・スタッフと共に楽しんだほか、ご家族同士の交流や医師・MSWへの相談コーナーも実施し、情報共有の機会となりました。

第2回さくらの会の様子





一般社団法人札幌薬剤師会会長
竹内 伸仁氏

「たけうち薬局さくら店」開業。手稲区在宅ケア連絡会の幹事として在宅医療のモデルづくりなどにかかわる。



手稲溪仁会病院副院長
成田 吉明

地域連携福祉センター長として、外部の医療機関との連携や機能分化を推進。地域全体の医療の質の向上も図る。



手稲家庭医療クリニック院長
小嶋 一

地域医療における経験をもとに、家庭医の育成や終末期ケアへの対応、在宅医療連携の推進などに取り組む。



社会福祉法人溪仁会 事業推進部担当部長
木村 弘

「手稲つむぎの杜」開設準備室室長として、地域ニーズを捉えた施設づくりをめざす。

ダイアログ

生涯を支える 溪仁会グループの使命

～「地域完結型」手稲モデルを考える

JR手稲駅の近辺では、手稲溪仁会病院が地域の基幹病院としての総合医療を、手稲家庭医療クリニックが地域に根ざした医療サービスを展開するなど、溪仁会グループとのかかわりが深い地域です。

2014年には社会福祉法人溪仁会が特別養護老人ホームを開設することで、皆さまの一生に寄り添うという当グループの使命を、地域で実現できるようになります。

本座談会では、手稲地域における各施設のリーダーと、当グループの活動を支えていただいている外部ステークホルダーの方に意見を交わしていただきました。

地域の方々には当グループをどのように評価しているのか、当グループのめざすべき姿とはどうあるべきかなど、当グループの活動の検証と将来のビジョンについて考える座談会となりました。

手稲地域における溪仁会グループの現状とコミュニケーション

成田 当院は開院25年目を迎えた昨年、地域医療支援病院に承認され、これまで以上に地域の医療機関との連携と機能分担を図ることになりました。急性期の患者さまや高度な専門医療を必要とする患者さまの診療に特化することで、「2時間待って診療は3分」というような状況は改善されると考えています。手稲区における唯一の急性期総合病院として、常に進化し続けることで、地域から頼りにされる存在であることを目標にしています。

小嶋 当クリニックはかかりつけ医の普及・育成の基地として設立されました。特徴は医療機関同士をつなぐ、医療と福祉の懸け橋となるなど、連携機能を強く打ち出していることです。医療が抱える問題に取り組むためにも、地域には当クリニックのような存在が必要だと考えています。理想通りにいかない面もありますが、着実に地域住民の方の信頼を得てきたと感じています。

竹内 私は生まれ育った地域に貢献したいという思いから、手稲で開局しました。手稲溪仁会病院とは開院当時から、患者さまの処方箋を通してお付き合いが続いています。手稲家庭医療クリニックができる際には自宅の土地の一部を提供させていただき、隣接して「さくら店」を開局しました。このことで小嶋先生と共に、在宅医療にも本格的に取り組むようになりました。

木村 来年開設予定の特別養護老人ホーム「手稲つむぎの杜」(P28参照)は、複合的な介護施設をめざしています。終の棲家として、自分らしくご自宅のように生き生きと生活していただけるサービスを提供したいと考えています。

成田 ここ数年の変化として、地域の医療機関との医療連携は驚くほど進みました。私たちが開業医の先生と積極的に交流を図り、顔の見える関係を築いてきました。地域医療を支えるにはお互いに補完し合う存在でなければならぬと、当院のスタッフの意識も変わってきたのだと思います。患者さまの紹介・逆紹介システムもスムーズになり、連携体制が整ってきました。

小嶋 開院から4年経ち、患者さまの層が当院がめざしていた方向に広がってきました。お子さんが受診されるうちにその親御さんも来院される。おじいちゃん、おばあちゃんが受診されていて、そのお子さんやお孫さんの世代も来られるようになる。宣伝も誘導もしていませんが、自然に伝わっていきました。

竹内 小嶋先生から「何かあったら連絡をくださいね」と、携帯電話の番号が書かれた名刺をもらったことを、薬局の窓口で話された患者さまがいらっしゃいました。患者さまとしてはすごく安心ですよ。そういうお話を聞くと、手稲家庭医療クリニックがこの地域に浸透し、信頼されていることを感じますね。

木村 開設準備を進めていて感じるのは、医療法人溪仁会への地域からの信頼が非常に強いということです。親しみを込めて「溪仁会さん」と呼んでくださる方がたくさんいらっしゃいます。地域に浸透しているなあ、と思いますね。

小嶋 最近驚くのは、高齢のご夫婦が札幌市外から手稲区に転居されてくるケースが増えていることです。理由を聞くと「大きな病院があるから」と。医療面の安心感を求めて、わざわざ手稲区に移ってこられるのです。ですから、手稲つむぎの杜ができるのも、とても大きな要素になると思います。

手稲区が直面する問題と課題は在宅医療の普及で解決できるのか

小嶋 手稲区は高齢化率が22%と、札幌市の平均とほぼ同じですし、全国から比べれば若い世代が多い地域だと思えます。しかし、今後は高齢者が増えていくでしょう。近年は、在宅での医療やケアが推進されていますが、全国の高齢者人口が約3,500万人に達する2025年を見据えると、手稲区の在宅医療はまだまだ手薄だと考えています。当クリニックに、訪問診療を希望される患者さまがひっきりなしにいらっしゃることも、在宅医療への潜在的なニーズの高さを感じています。

成田 開業されている先生方は、対応面の難しさもあり、在宅医療にはあまり積極的にかかわることができなかった面がありました。近年は、在宅医療に取り組む先生が少しずつ増え、患者さまの理解や関心も高まっているようですね。

小嶋 はい。当クリニックでも、今年是在宅での看取りが例年の倍になっています。「家でも最期を迎えられる」という考えが浸透してきたのだと思います。また、手稲溪仁会病院のソーシャルワーカーが、在宅という選択肢もあることを、患者さまやご家族にきちんと説明してくれているのも大きいですね。

木村 手稲区の特別養護老人ホームの整備率は、市内の区では2番目に高く、その点では恵まれていると言えます。ただし、札幌市全体の待機者は6,000人ともされており、いつまで待っても入所できない、という方もいらっしゃいます。施設が十分に受け入れられないことを考えると、医療と同様に、介護においても、訪問介護・リハや通所介護などの在宅サービスが重要になってくるでしょう。住み慣れたご自宅や地域でケアを受けたい、という要望は多いと思います。

竹内 在宅の患者さまに、適切な医療や介護のサービスを提供するには、医療と福祉の緊密な連携が必要です。手稲区でも医療と福祉の顔の見える関係をつくろう、ということで、在宅ケア連絡会を立ち上げ、小嶋先生などを中心に活動しています。手稲区は活動がうまく進んでいますが、これは昨年度、手稲家庭医療クリニックが「在宅医療連携拠点事業」に指定されたことで、行政もかかわるようになったことが非常に大きかったですね。

成田 ただ、いくら在宅へと誘導しても、「何かあったら病院で」という方が依然として多いのが実情です。当院は将来的に670

床に病床数を増やす計画ですが、決して急性期の方だけが対象ということではなく、病院でお看取りするというのも、依然としてあり続けるだろうと考えています。急性期医療の方針と住民のニーズとの折り合いをどうつけていくかというのは、簡単に線を引けるものではなく、難しい問題だと思えます。

竹内 少し残念に思うのは、手稲区にはここ数年でいろいろな施設が増えているのですが、それらがどういう施設なのかという情報が共有されていないことです。地域の一人人としては、もっときめ細かい情報提供があれば、より住みやすい街づくりができるでしょうし、溪仁会グループを核としながら医療と福祉の連携がさらに深まるのではないかと感じています。

成田 そうですね。情報を知らないために利用できないというケースは多いと思います。例えば、訪問看護や訪問診療を利用することで入院を先送りできたり、入院を回避できたりということが、実はもっとあるはずなんです。また、身体面だけを考えれば、退院後、ご自宅で療養していただける患者さまも相当数いらっしゃいます。患者さまの事情にもよりますが、当院もこれからは在宅医療の情報提供をしていく必要はあると考えています。

小嶋 「ここまでならご自宅でできますよ」という提案や、高齢者医療に対する考え方を整理することが必要で、それがかかりつけ医の役割でもあると思います。早い段階で手を打って悪化するのを防いだり、以前なら病院に行かないと治療してもらえなかったような症状でも、訪問看護やヘルパーをお願いして、経過を見ていったり。多様な考え方を提案して、特にご家族とすり合わせていくことが重要だと思いますね。



地域で完結し循環する医療・福祉サービス 人の一生に寄り添う存在であるために

木村 来年、手稲つむぎの杜ができると、この地域において溪仁会グループが医療と介護・福祉サービスを総合的に提供することになります。地域とも連携しながら、手稲独自のモデルを、新しいケアタウンを築くことができるのではないかと考えています。

小嶋 手稲つむぎの杜は、手稲溪仁会病院や当クリニックの医療サポートという強みを持つことになります。どこよりも医療的な質の高い施設をめざすことが可能ですし、私たちもいろいろ協力できると思います。また、在宅医療や高齢者医療などの情報を発信する基地としての活用も考えられます。手稲つむぎの杜に来れば何かおもしろいことがある、という流れになればいいですね。

木村 ぜひ、そうなればと思います。他の施設のモデルとなるような、思い切った施策も考えたいですね。手稲つむぎの杜では医療ニーズの高い方の受け入れも想定していますが、そのためには介護職員も医療的な知識を持つ必要があります。隣接する手稲家庭医療クリニックにいろいろ支援していただきながら、モデルになるような施設をめざしたいと思っています。

成田 このエリアを医療と福祉に特化した一つの地域と考えると、急性期の治療を終えた後の、回復期リハビリを担う部分が不足しています。そこを受け持つ医療機関が増えれば、本当に地域内で完結できるようになるのに、この何十年そこを受け持つところが現れていない。「こうなったら、うちでやるしかないか」と当院のスタッフ間では冗談交じりに話したりもしています。最短で治

療を完結しようと思っても、患者さまの行き場がない状況が毎日のように起きているのは、残念なことです。手を挙げてくれるところがあれば、ぜひお願いしたいですし、手稲区の医療環境、福祉環境がより良くなるという方向で何か対策ができれば、と考えています。

竹内 皆さんの構想をお聞きすると、急性期から回復期、そして在宅まで、本当に理想的なカタチだなと思います。まさに赤ちゃんからお年寄りまで、溪仁会グループが掲げている「ずーっと。」というスローガンそのものですね。住民の立場の安心感と、共に連携する者としての責任感を改めて感じました。

小嶋 私の立場から地域の医療や福祉の将来像を考えると、圧倒的に在宅診療を担当する医師が不足していると思います。そこが増えれば、手稲溪仁会病院が困っているような問題も少しは解消されるようになると思います。そのためにも、これから開業される先生方の支援に取り組みたいと思っています。この4年間でノウハウもできましたので、新たに開業して地域に来られる先生のお手伝いも、積極的にやっていきたいですね。

成田 当院は、地域医療支援病院の取り組みとして、今年の6月から外来の一部を完全紹介型に切り替えました。これから1、2年のうちに全科を紹介型に移行する予定ですが、住民の方の反発や混乱が大きいと予想しています。地域の皆さまの不安を払拭できるように説明しながら、近隣の先生方との医療連携もさらに強化したいと考えています。

木村 手稲つむぎの杜は、地域の皆さまをはじめ、医療機関や薬局、行政機関などとも協働しながら、安心と信頼をしていただける施設をめざしていきたいと考えています。地域の皆さまのご協力やご支援があって実現できることも多いと思いますので、グループ間だけでなく、さまざまな方面とも結びつきながら、魅力あるサービスを提供していきたいと思っています。

竹内 地域としては、溪仁会グループのスケールメリットや質の高いサービスに対する期待が大きいと思います。地域の開業医の先生と連携しながら、地域全体の医療や福祉のレベルアップなどをリードしていただければ、全国から「札幌市の手稲区はすごい」と言われるようになるのではないのでしょうか。溪仁会グループのこれからの活動にますます期待していますし、共に連携しながら社会貢献も果たしていきたいと考えています。

※本座談会は2013年8月9日(金)に医療法人溪仁会 法人本部にて開催いたしました。



医療・保健・福祉を途切れることなく提供する「ずーっと。」

溪仁会グループは、医療・保健・福祉にまたがる総合的なサービスを展開しています。グループ内はもちろん、外部とも積極的に連携を図りながら、医療・保健・福祉をスムーズに提供できる体制をめざしています。



地域の高齢者のために医療と福祉が連携し、充実したサービスを提供

～地域支援活動の展開

【定山溪病院】

歯科医師やリハビリスタッフが地域の介護予防などをサポート

定山溪病院には、札幌市からの委託機関として、地域の高齢者の方々とそのご家族を支えるための介護予防の機会を提供する「札幌市南区介護予防センター定山溪」が併設されています。同センターは、2006年の介護保険法の改正に伴い、簾舞・藤野・定山溪の3地区において、高齢者への介護予防の働きかけや生活環境の改善などを支援する活動を行ってきました。町内会や老人クラブ、高齢者サロンなど50以上の団体を対象に、年間約100回もの地域講話を実施。毎回、地域ごとの要望を踏まえながらさまざまなプログラムを提供し、ニーズに応じてきました。

2009年から定山溪地区福まち*で、定山溪地区の住民を対象と

した「福祉バス」の運行を開始。同センターでは車中で講話活動などを行っています。ショッピングセンターで買い物を楽しんだり、多世代交流の場として水族館や動物園に出かけたり、普段遠出ができないという方々に外出の機会を提供してきました。現在は、じょうてつバスのご協力をいただきながら、月に1回実施しています。今年度からは地域での活動に対し、定山溪病院の医療職もかわる取り組みがスタートしました。福祉バス運行の際に車中で歯科医師が口腔講話を行ったり、作業療法士による認知症予防講話を行うなど、今まで以上に専門性の高いプログラムを実施しています。介護予防センターと病院が連携することで、病院がこれまで以上に地域住民と積極的なかわりを持ち、高齢者が住みなれたご自宅で安心して暮らせるようにサポートすることをめざしています。

定山溪病院の講師派遣の実績 (2013年5月～8月)

実施日	内容
5月21日	定山溪地区の高齢者を対象に、南区役所訪庁と買い物支援の貸し切りバスを運行。歯科医師による車中での講話を実施
5月25日	町内会での地域講話会において、理学療法士・作業療法士による転倒・腰痛予防や認知症予防の講話などを実施
6月20日	地域の研修会での介護予防教室。理学療法士による転倒・腰痛予防講話などを実施
6月28日	地域の運動教室での転倒予防教室。理学療法士による転倒予防講話などを実施
7月5日	地域の老人クラブでの介護予防教室。理学療法士と言語聴覚士が参加
7月16日	定山溪地区の高齢者を対象に買い物支援の貸し切りバスを運行。作業療法士による車中での講話などを実施
8月7日	地域サロンでの介護予防教室。管理栄養士による高齢者の栄養指導などを実施

これからは病院も地域に出て活動を広げていくことが重要に

こうした取り組みに対し、参加者からは「専門的な話が聞けるので役に立つ」「説明がわかりやすく、自宅でも実践できる」と好評を得ています。連携するリハビリ部門なども、いつでも協力できる体制を整え、地域からの要望に応えたいとしています。今後は各地域に拠点を作り、半年1クールの健康教室を主催し、月ごとにテーマを決めて各専門職が講話を行ったり、体操や実習などを通じて、自らの健康について考える機会を提供していきたいと

考えています。

地域医療のあり方が問われるなかで、これからは病院も地域に出て行き、啓発活動などを含めた働きかけを行う姿勢が求められています。医療や福祉を担う者として、地域の生活を支えるということは最も大切な使命の一つです。定山溪病院は慢性期医療への取り組みなど、質の高い高齢者ケアを提供し、豊富なノウハウを培ってきました。これからは日本を代表する慢性期病院をめざして、行政機関や地域団体などとも連携しながら、地域の皆さまがいつまでも安心して暮らしていただけるように、さまざまなサポートを続けていきます。

福祉バスの活動レポート

①定山溪地区の高齢者を対象に、貸し切りバスを運行。普段、なかなか街中に買い物に行けないという方々のために、ショッピングセンターへ出かけました。



②移動時間を利用して、車中で認知症予防に関する講話を実施。定山溪病院の作業療法士が講師を務めました。わかりやすい資料の配布や簡単なトレーニングなどを通して、参加者は認知症への理解を深めていました。

③ショッピングセンターでは思い思いに買い物を楽しみました。帰りの車中では参加者から認知症予防についての質問があり、関心の高さがうかがえました。



地域を重視した活動で信頼関係を築いていきたい

定山溪病院 在宅ケア部 課長 佐藤菜穂子



今年度から、定山溪病院の医療職が介護予防活動にかかわることになり、参加者からは「病院の専門スタッフが、講話に来てくれてうれしい」という声をいただいています。これまでに介護予防センターが地域との連携を継続してきたという背景もあり、つながりの深さを実感されているのだと思います。また、介護予防センターでも提供できるプログラムの幅が広がり、新しいサービスの掘り起こしにもつながるのではないかと期待しています。

*福まち…一人暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯、障がい者の世帯、子育て世帯などを対象に、市民と行政が協力して安心して暮らせるまちづくりをする「福祉のまち推進事業」のこと。

地域の皆さまが元気に暮らしていくためのお手伝いを

定山溪病院 在宅ケア部 札幌市南区介護予防センター定山溪 北條拓也



当センターは地域の皆さまのニーズの一つひとつにお応えするために、さまざまなプログラムを実施してきました。町内会長さんや民生委員の方から心強いアドバイスなどをいただき、支えていただいていることに深く感謝しています。今回新たに、定山溪病院の医療職が介護予防活動に参加するようになったことで、地域の皆さまの関心がより高まったように感じます。講師を務めるスタッフも、わかりやすい資料を用意したり、ご自宅で参照してもらえるようにカードを作ったりしながら、誰もが楽しめるように工夫しています。また、実践的な内容や気軽に質問できることなども喜ばれているのだと思います。将来的には病院と連携し、医療・保健・福祉の専門職が一堂に会す介護予防イベントなども開催してみたいと考えています。

医療・介護・福祉の地域連携モデルをめざして

～特別養護老人ホーム「手稲つむぎの杜」開設予定

[社会福祉法人 溪仁会]

社会福祉法人 溪仁会は、2014年6月、札幌市手稲区前田に特別養護老人ホーム「手稲つむぎの杜」を開設する予定です。特別養護老人ホームを中心に、通所・短期入所、居宅介護支援事業所や介護予防センターを備えた複合施設です。隣接する手稲家庭医療クリニックや、手稲溪仁会病院・手稲溪仁会クリニックと連携し急性期から慢性期までの医療サポート体制のもと運営されます。

施設の特徴として、全室個室のユニットケアを採用し、手稲家

庭医療クリニックとの連携により「看取りケア」や「認知症ケア」にも力を入れていきます。

施設には福祉避難場所を設け、災害時に介護が必要な方の一時避難施設となるほか、普段は地域交流スペースとして活用していきます。さらにご利用者さまの「生きがいづくり」のサポートとして、園芸・畑作など自然との触れ合いを中心としたさまざまな活動を展開します。また、ご利用者さまによる地域貢献活動をプロデュースすることで、地域との交流を積極的に図り、施設と地域が相互に助け合う関係構築をめざします。



●手稲つむぎの杜の機能と定員

広域型特別養護老人ホーム	80名
短期入所生活介護(ショートステイ)	10名
通所介護	60名
認知症対応型通所介護	12名
介護予防センター	
居宅介護支援事業所	
福祉避難場所用スペース	

地域の暮らしを意識したリハビリテーションを

～第58回北海道リハビリテーション学会開催

[札幌西円山病院]

2013年7月27日・28日の2日間、札幌医科大学記念ホール・札幌市医師会館大ホールを会場に「第58回北海道リハビリテーション学会」が開催されました。

同学会は、札幌西円山病院に事務局を置き、リハビリテーションに関係するさまざまな職種により構成された学会です。

今年は50周年記念大会で、1日目の学術大会では、同学会の会長を務める札幌西円山病院の横申 算敏副院長が「北海道リハビリテーション学会と北海道のリハビリ医療」と題し特別講演を行いました。横申副院長は、北海道のリハビリ医療の歴史を振り返り、さらに先進的な取り組みについても紹介。急性期病院におけるリハビリ体制の強化のための職員確保や人材育成、地域に目を向けた活動の推進を呼びかけました。

また、2日目には、50周年記念大会の特別企画として、入場無料の市民公開講座が開催されました。日本リハビリテーション病院・施設協会副会長で医療法人 真正会 霞ヶ関南病院理事長の齊藤 正身先生が「住み慣れた地域でリハビリテーション活動を」と題し

た講演を行いました。

2日間で延べ172名が参加し、学術大会では20題の演題が発表されました。参加者は、リハビリの新しい取り組みについて学び、情報交換をすることができました。



レディスフロアをリニューアル

[溪仁会円山クリニック]

溪仁会円山クリニックでは、健診機能を充実させ、より快適な環境での受診を実現するため、2012年5月17日に施設をリニューアルしました。そして2013年5月には、婦人科健診専用フロア「レディスフロア」をリニューアルしました。

改装にあたっては、エステティックサロンを手掛けるコーディネーターに助言を受けました。待合室を拡充し、プライバシーを重視して一人掛けのソファを増やしたほか、更衣室を四つに増設しました。さらに女性の担当医を増員し、より相談しやすい体制を整えるなど、ハード・ソフト両面から、女性の受診者さまにより快適な検査環境を提供しています。



レディスフロアの待合室

ホームヘルパーの訪問介護

[株式会社ソーシャル]

高齢や障がいなどのために介護・支援を必要とする方が、住み慣れた家で生活し続けるためには、生活のさまざまな場面で手助けが必要です。株式会社ソーシャルでは、地域のケアマネジャーが作成したケアプランに沿って、ホームヘルパーがご利用者さま宅を訪れ、訪問介護・予防サービスを提供しています。食事・入浴・排せつなど体のお手伝いを行う「身体介護」と、炊事・掃除や買い物などの支援をする「生活援助」を、ご利用者さまの希望に合わせて実施します。コミュニケーションを取りながら、家族のように自然と手助けを求められる存在をめざしてサービス提供を行っています。



医療と福祉の垣根を越えた総合相談窓口

[溪仁会グループ]

高齢者や障がい者のための公的サービスは、それぞれも異なる制度が異なります。医療や介護、障がい者福祉が重なった場合は制度の使い分けが難しいため、それぞれの制度に精通した支援が望まれていました。そこで溪仁会グループでは、2013年1月7日、溪仁会ビル(札幌市手稲区前田)1階に医療・介護・障がい者福祉に関する支援機関を集めた「溪仁会在宅ケア・総合相談センター」を開設しました。手稲区在宅医療連携拠点事業所「チームかりんば」、指定居宅介護支援事業所「溪仁会在宅ケアセンター」、札幌市委託事業「札幌市手稲区介護予防センターまえた」、札幌市障がい者相談支援事業所「相談室こころ ていね」の4事業所が共同運営しています。



その人に合った車椅子をお届けする

[株式会社ハーティワークス]

介護が必要な方、障がいを持つ方が暮らしやすいように、福祉用具のレンタル・販売や住宅改修を行っているのが株式会社ハーティワークスです。

特に車椅子に関しては、多くのメーカーと提携し、一人ひとりの体型に合ったオーダーメイド製作を行います。採寸・製作をしてお届けをしても、フィッティングにより微調整やサポート部品の追加を行い、ご利用者さまにとって最良の車椅子をお届けします。また、市町村から必要な助成を受けるための書類を作成したり、納品後に出張修理をしたりと、細やかなサポートでご利用者さまを支えています。



手稲溪仁会病院との 提携医療機関

医療法人社団アルデバラン
手稲いなづみ病院

〒006-0813
札幌市手稲区前田3条4丁目2番6
<http://www.inazumi.or.jp/>



理事長・院長
齊藤 晋氏

最先端医療を提供する手稲溪仁会病院は心強い存在。 若い先生たちとの交流も図り、さらに連携を強化したい。

当院と手稲溪仁会病院とのかかわりは深く、ご紹介いただく患者さまのうち、3割以上が手稲溪仁会病院からとなっています。他の医療機関と比べて突出して多く、これは急性期の治療を終えてご自宅や施設に移られる前の、回復期の患者さまを受け持つ当院の機能をよく理解していただいているためだと思います。

手稲溪仁会病院のような急性期総合医療を担う医療機関が、同じ手稲地区にあるということは、医療者にとってたいへん心強く感じます。手稲溪仁会病院には日本を代表する医療機関として、さらに最先端医療を追求していただき、提携を結ぶ周辺の医療機関はそれを支えていく。そのことで、この地域全体の医療の質が向上すると期待しています。

要望を挙げるとするならば、若い先生たちともっと交流したいということ。キャリアのある先生とは顔の見える関係を築いていますが、最

近はシニアレジデント（後期臨床研修医）の先生が増えているので、もっとコミュニケーションを図ることができれば、患者さまの情報のやりとりもよりスムーズになると思います。

当院は、人工呼吸器を使用されている方や全介助が必要な方の人工透析など、受け入れる病院が少ない患者さまにも対応しています。「断らない医療」を目標に、これからも手稲溪仁会病院と協調しながら、より良い医療を提供したいと考えています。



ステーク ホルダーの声

提携医療機関の皆さまから



情報の共有を含めた密な連携体制ありがたい。 手稲全体の医療連携のまとめ役としても期待しています。

2005年に開院した当時から、手稲溪仁会病院にはたくさんの患者さまを紹介していただきました。当クリニックからも、より高次医療が必要な際には手稲溪仁会病院に紹介するので、自然と提携関係が築けたように思います。

クリニックで診療をしているのは、一人の患者さまを一人で診ることは不可能だということです。診療所の設備ではできない検査が多く、最先端のシステムを備えた急性期総合病院が身近にあるのは大変心強いことです。特に冠動脈CTを検査のみお願いできるようになったのは、診療をこちらで続けていけるので大変ありがたく感じました。

昨年度から「ID-Link(P71参照)」が導入され、診療情報を共有できるようになったことも地域診療の質を高めていると思います。無駄な検査を減らすことができ、共同で診ているという意識が強まります。共有できる情報をどんどん増や

していければ、さらなる安心につながってほしいと思います。

また、田中繁道院長には札幌市医師会の手稲支部長として、診療所同士の連携のまとめ役も務めていただいています。病診の縦の連携だけでなく、診療所がそれぞれの専門を生かして横の連携を築く、まさにクモの巣のようなネットワークが地域医療の理想型だと思います。手稲地区はそれがうまく築けていると感じますので、これからも地域連携を強め、患者さまが安心できる診療をしたいと思っています。



手稲溪仁会病院との 提携医療機関

医療法人社団
むらさき内科・
循環器クリニック

〒006-0022
札幌市手稲区手稲本町2条3丁目1番20

理事長
村崎 俊之氏



それぞれの病院が得意とする分野を生かしながら この地域内で質の高い医療を提供するのが目標。

札幌西円山病院と当院は地理的に近いという環境もあり、患者さまの症状に応じて、医師同士が相談して紹介し合う関係を続けてきました。これを、地域医療連携室のスタッフでも機能的に紹介できるようにしよう、という取り組みを始めることになりました。

近年は、患者さまの高齢化が進み、当院でも身体的な機能が低下して専門のケアを必要とする方が増えています。また逆に、札幌西円山病院に入院されていて、精神症状が出る患者さまもいらっしゃいます。そのような患者さまに対し、それぞれの病院の強みを生かして、最適な医療を提供することをめざしています。両院が連携することで、この地域で医療を完結できる患者さまが増えるでしょう。病院を移っても、大きな環境変化がないことは、患者さまにとってメリットになると思います。

一つ、難を言うとするならば、費用負担が当院

と比べて高くなる点を患者さまにどうご理解いただくかという悩みがある点です。札幌西円山病院を紹介する場合、当院との費用の体系の違いについてしっかり説明し、患者さまに納得して転院していただく必要があると思っています。

札幌西円山病院は高齢者医療の質の高さでは全国的にも知られ、症例などの豊富な情報をお持ちです。当院も高齢者の総合的なケアに参加させていただき、ノウハウを学びたいと考えています。



札幌西円山病院との 提携医療機関

医療法人北仁会
旭山病院
〒064-0946
札幌市中央区双子山4丁目3番33
<http://www.hokujin.or.jp/asahiyama/>

理事長・院長
山家 研司氏



溪仁会グループの各病院は、地域にある医療機関との医療連携を推進しています。それぞれの病院が受け持つ役割（機能）を明確にし、協力体制を築くことで、患者さまへのより最適なケアの提供をめざします。溪仁会グループと提携を結ぶ医療機関の皆さまからの声をご紹介します。

定山溪病院との 提携医療機関

市立札幌病院
〒060-8604
札幌市中央区北11条西13丁目1番1
<http://www.city.sapporo.jp/hospital/>



地域連携センター
退院調整担当係長
酒井 ひとみ氏

医療の質やサポート体制に対する評価が高く 確かなご紹介先として信頼しています。

当院では、急性期の治療を終え、症状が安定された患者さまに対して、専任の看護師と医療ソーシャルワーカーが、転院先の紹介や退院後の生活サポートを行っています。定山溪病院には、一人暮らしなどの理由で、すぐにご自宅での生活に復帰するのが難しい患者さまをご紹介することが多く、なかなか転院先が見つからないという場合などにご相談しています。週に1回、ベッドの空き状況を知らせていただけるので、スムーズに対応できるようになっています。

定山溪病院は質の高いリハビリテーションやケアを提供していること、神経内科医がいること、入院時から医療ソーシャルワーカーがかかり、切れ目なくサポートしていることなど、自信を持ってご紹介できる医療機関だと考えています。患者さまやご家族からも「少し遠いけれど、驚くほどきれい」という話を聞くことがあ

り、満足されている様子がわかります。また、窓口となっているスタッフの方々の対応が非常に丁寧で、ご相談しやすいと感じています。

急性期総合医療を担う当院の役割と、定山溪病院のように慢性期医療を提供する医療機関の役割は、それぞれ異なります。転院先をご紹介する時は誤解のないように、医療機関の役割の違いから入院費用のことまで説明するようにしています。さらに機能分化を図るためにも、定山溪病院のような提携医療機関との信頼関係を築いていきたいと思っています。





地域の医療・保健・福祉を支える ネットワークの「ずーっと。」

どこにいても、同じように医療や介護を受けられ、
誰もが健康について安心して住める街を増やしたい——
広大な北海道だからこそ発生するさまざまな地域の問題に、
溪仁会グループは地域との連携により、解決へと挑んでいます。



羊蹄山麓地域の医療・保健・福祉を支える取り組み

～きもべつ喜らめきの郷・喜茂別町立クリニックの運営

【溪仁会グループ】

医療・介護資源の少ない地域で ——喜茂別町の場合

医療機関や介護施設の少ない地域では、遠い病院へ長時間かけて通院したり、施設に入るには住み慣れた街を離れなければならなかったりと、不便な思いをしている方々がいます。

喜茂別町もそういう地域の一つでした。町内の医療機関は内科の無床診療所が一つ。専門医の診療を受けるためには、片道1時間半程度かけて札幌や倶知安へ通わなければいけま



せんでした。高齢者福祉に関しても、通所や訪問看護・介護のサービスはあっても、入所できる施設はありませんでした。

その喜茂別町初の特別養護老人ホームとして、社会福祉法人溪仁会は「きもべつ喜らめきの郷」を今年6月1日にオープンしました。



きもべつ喜らめきの郷の竣工式

地域とのつながりを守る 「きもべつ喜らめきの郷」

きもべつ喜らめきの郷は、介護が必要になった住民の方が喜茂別に住み続けるための「我が家」となることをめざしています。ご利用者さまのプライバシーや個性を守るため、完全個室型のユニットケアとしました。面会しやすい個室はご家族の方にも好評で、遠方から訪ねてくるご家族のために2室のゲストルームも備えています。

また、ご利用者さまと地域とのつながりを大切にしています。ユニットごとの活動や地域行事への参加などで、ご利用者さまが地域に出る機会を積極的につくります。施設でも共用部分のルーフパ



コニーや多目的ホールを、イベント時に開放していく予定です。町の協力により施設に隣接して整備された「きらめき公園」と合わせて、施設が町の交流の場・憩いの場となることが期待されます。

ご利用者さまは地元の方のほか、留寿都村特別養護老人ホーム銀河荘の廃止に伴い、37名の銀河荘入居者にもご利用いただいています。2014年には、銀河荘跡地に特別養護老人ホーム「るすつ銀河の杜」を開設し、きもべつ喜らめきの郷を本体としたサテライト施設として運営していきます。2自治体との協力の下、それぞれの地域に密着したサービスを提供していく予定です。



溪仁会グループの地域への展開

1998年 4月	コミュニティホーム八雲(二海郡八雲町)開設
1999年 4月	美唄市東地区生活支援センターすまいる(美唄市)開設
1999年 8月	おおしまハーティケアセンター(宮城県気仙沼市)開設
2000年 4月	コミュニティホーム美唄(美唄市)開設
2007年 4月	コミュニティホーム岩内(岩内郡岩内町)開設
2010年10月	泊村立茅沼診療所※手稲溪仁会病院が指定管理者
2012年 4月	岩内ふれ愛の郷(岩内郡岩内町)開設
2013年 4月	喜茂別町立クリニック※医療法人溪仁会が指定管理者
2013年 6月	きもべつ喜らめきの郷(虻田郡喜茂別町)開設
2014年 4月	るすつ銀河の杜開設予定(虻田郡留寿都村)

地域の暮らしの 安心材料となる施設へ

きもべつ喜らめきの郷
施設長
佐藤 秀幸



ご利用者さまは、地域で暮らし続けたいという思いで当施設に来られます。開設後にいただいた言葉で胸に残っているのが「これで、喜茂別で最期を迎えられる」というものです。終の棲家として可能な限り「看取りケア」を提供していくほか、喜茂別で介護が必要になったらここがある、という安心感を持っていただける施設になりたいと思います。当施設の職員も3分の2が地元の出身で、愛される施設になるには職員の成長が不可欠だと思います。職員には、自分たちがしたいと思う暮らしをご利用者さまに実現し、働く誇りを持てるケアを提供しようと伝えています。

「喜茂別町立クリニック」は 地域に必要な家庭医療の拠点に

きもべつ喜らめきの郷を、週1回の往診を含めて医療面でサポートするのが、今年4月6日に開院した「喜茂別町立クリニック」です。町に移管された診療所のサービスや経営の質を維持するため、管理・運営を企業や法人が代行する指定管理者制度により、溪仁会グループが運営を行っています。

喜茂別町立クリニックでは、町唯一の診療所として、子どもからお年寄りまでの幅広い年代、診療科を問わず急性期から慢性期までさまざまな傷病の診療に対応が必要です。つまりは手稲家庭医療クリニックが人材育成・普及に努めてきた家庭医療の実践の場となります。手稲家庭医療クリニックのバックアップの下、救急科専門医の認定を持つ石井道人院長が外来診療から往診、健診などの保健活動にも当たります。

きもべつ喜らめきの郷と喜茂別町立クリニック、さらに溪仁会グループの各病院の連携により、喜茂別町での医療・介護・福祉の切れ目ないサービスが実現します。今後も連携を強め、いつまでも過ごせる地域づくりの一端を担っていきたいと思います。



1対1の診療の満足度を 高め信頼を築きたい

喜茂別町立クリニック
院長
石井 道人



東京から赴任してきて、喜茂別の患者さまは、病気でも休めない農作業、専門医への通院に往復2時間強という負担など、地域特有の問題を抱えられていると感じます。その中には、かかりつけ医が綿密な医療管理を提供すれば解決できることもあり、患者さまにすべて相談してもらえる信頼関係がまず必要です。患者さまからは「話を聞いてくれてうれしい」という声をよくいただきます。患者さまが求めているのは高度な先進医療だけではなく、1対1の診療の質が大切なのだと改めて気づきました。日々の診療を一生懸命やるのが今の一番の仕事だと思っています。

広大な北海道で、医療の地域格差を解消する

～道央ドクターヘリ活動報告2013

[手稲溪仁会病院]

道央ドクターヘリは、広大な北海道の救命救急の切り札として、2005年4月から正式運航をしています。

ドクターヘリ機内には人工呼吸器、心電図モニター、超音波診断装置などの装備を搭載しています。救急現場に医師と看護師がヘリコプターで駆けつけ、初期治療開始時間を短縮し、一人でも多くの患者さまを救うために活動しています。

出動にあたっては、手稲溪仁会病院が基地病院となり、半径150kmの範囲を運航圏として、地域の消防機関との連携のもと出動しています。2012年度は501件の出動がありました。地域の医療の砦として、手稲溪仁会病院はこれからも救急医療体制の強化に取り組んでいきます。



地域の健康を支える巡回健診

～地方健診の取り組み

[溪仁会円山クリニック]

北海道内には医療機関が少ない地域が数多くあり、健診による疾患の早期発見や、疾患になる前の生活改善指導など、予防医療の重要性が増しています。しかし、地域によってはそうした健診を受けられる医療機関や施設が近くにない場合もあります。そこで溪仁会円山クリニックでは、

1997年から健診バスによる巡回健診を実施し、地域の健康維持・増進に努めてきました。道内の自治体や一般企業か



らの要請に応じて健診バスを派遣しています。健診バスには胃腸部・胸部X線、心電図、超音波診断装置などの機器を備え、都市部と変わらない検査サービスを提供しています。

●2012年度 地方自治体健診実績

対象	受診者数
市町村職員	110人
住民(岩内町)	600人
合計	710人

過去の教訓に学び、災害への備えを強める

～災害医療勉強会の開催

[手稲溪仁会病院]

2011年11月に地域災害拠点病院に指定された手稲溪仁会病院では、全職員を対象に災害医療勉強会を開催しています。

2012年度は参加者多数のため、2013年3月14日・18日の2回に分けて開催し、合計471名が参加しました。病院にとって災害対応が必要となる、多数の傷病者が発生した場合(受け入れと派遣)、病院が被災した場合(患者と職員の安全確保と病院機能の回復)について理解を深める基本事項を学びました。

災害医療では、「過去からの教訓に学ぶ」といわれます。東日本大震災をはじめ、北海道南西沖地震、阪神淡路大震災、地下鉄サリン事件などから学ぶべき教訓は多くあります。勉強会を今後の防

災訓練や防災マニュアルの作成・充実につなげ、地域の災害時に機能する医療機関であるよう備えたいと考えています。



入所から通所まで、地域の切れ目ないケアの拠点へ

～岩内コミュニティの丘

[社会福祉法人溪仁会]



内装をリニューアルした「岩内ふれ愛の郷」

2012年4月1日、社会福祉法人溪仁会は介護老人福祉施設「岩内ふれ愛の郷」を開設しました。これは町から移管された「岩内町特別養護老人ホーム」の内装を一新してオープンしたものです。

溪仁会グループは岩内町に、介護老人保健施設「コミュニティホーム岩内」を中心に、通所リハビリテーション、デイサービスセンターま〜れ、訪問看護ステーション岩内、岩内町地域包括支援センター、事業所内保育所ゆいま〜るといった施設・サービスの整備を進めていました。ここに「岩内ふれ愛の郷」が加わることで、高齢者福祉施設の包括的運営が可能になりました。

「岩内ふれ愛の郷」のオープンにより、入所から通所まで地域福祉にかかわる施設・サービスが岩内町野東の高台に揃いました。この高台を「岩内コミュニティの丘」と名付け、連携を強化し切れ目ないサービスを提供していきます。



「岩内ふれ愛の郷」開所式の様子

リハビリテーションで復興者支援

～震災支援ボランティア活動

[札幌西円山病院]

2011年の東日本大震災により、被災地の医療・介護体制はいまだ大きなダメージを残しています。また被災された方(以下、復興者)においても、長期にわたる仮設住宅での生活により、運動不足に陥り、特に高齢者の方々の健康問題の一因となっています。

札幌西円山病院ではリハビリテーション部が中心となり、復興者支援ボランティアを継続しています。2012年度は南相馬市、陸前高田市、気仙沼市で活動しました。理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、健康運動指導士合計10名が10月～11月の延べ60日間参加し、それぞれの職能を生かし、仮設住宅での運動支援や、職員が不足している市立病院でのリハビリ支援を行いました。

2013年度は11月に10名が活動を行う予定です。社会貢献は溪仁会の理念であり、継続して実施していくとともに、東日本大震災を教訓に震災コーディネーターの育成を進めたいと考えています。



村内唯一の診療所が、いつまでも診療を続けるために

～泊村立茅沼診療所の運営管理

[医療法人溪仁会]

泊村立茅沼診療所は、泊村唯一の医療機関として、村内全域のほか、周辺3町村をはじめとした村外域も含めた地域の健康を支えています。2010年10月より、医療法人溪仁会 手稲溪仁会病院が指定管理者としてその運営を行い、医療サービスの質と運営の維持に貢献しています。

診療所にはCTやMRIなどの検査機器を備え、地域に質の高い初期医療を提供する体制を整えています。さらに2次医療以降では手稲溪仁会病院、岩宇地域の医療機関と連携を図り、地域

格差のない医療サービスの提供をめざしています。

また、村の保健行政と協力しながら各種健診・予防接種を実施。そのほか、住民への健康講話や、職員や役場・老人ホーム職員を対象にした勉強会を行うなど、予防医療を含めた地域の健康の拠点となっています。



地域で活動する皆さんから

地域医療のサポートや救急医療への対応、高齢者施設の運営など皆さんが安心できる医療・保健・福祉サービスの実現のために、
溪仁会グループは地域での取り組みも重視しています。
地域で活躍する方々に、溪仁会グループに対する評価をうかがいました。



保健・福祉に携わる方からの評価

医療法人溪仁会は、今年4月に喜茂別町から町立診療所の指定管理者を受託し、「喜茂別町立クリニック」の運営を開始しました。また、6月には社会福祉法人溪仁会が介護老人福祉施設「きもべつ喜らめきの郷」を開業。医療・保健・福祉を担うグループとして、喜茂別町の皆さまの生活に深くかかわる活動を展開しています。

喜茂別町

**住民の健康を全面的にサポートしてもらえることが心強い。
疾病予防や在宅医療など、新たな可能性に期待しています。**



喜茂別町役場
健康推進課 包括支援係
係長 保健師
菊田 有美さん

今回、豊富なノウハウを持つ医療法人溪仁会に喜茂別町立クリニックの運営を行っていただくことになり、たいへん心強く感じています。

これまで喜茂別町では病気になる、わざわざ札幌市の病院を受診するという傾向がありました。今回、町立クリニックができたことで、初期診療は地元で受けよう、という流れになっていくと考えています。乳幼児を含む小児を診てもらえるようになったことなど、同クリニックが地域のかかりつけ医としての役割を果たせるようになったためです。

受診した人たちからは「じっくり話を聞いてもらえて良かった」という声が多く、満足されているようです。その一方で、「待ち時間が長くなった」という評価もありますが、これは、まず患者さんの背景を理解しよう、という姿勢の表れ。次第にスムーズになっていくと思います。この問題を解消するために、町のIP電話を使い、現在の待ち人数をお知らせするサービスも始まりました。

町立クリニックとの連携は、月に1回、情報交換の場を設けています。まだ始まったばかりですが、これからはより連携を深めて、町全体の問題を共有していくことが理想です。将来的には、町特有の疾病の原因を解明して、発病に至る前に予防ができるようにしたいと考えています。

私は現在、高齢者の介護予防や健康・生活面の支援などに携わっています。「きもべつ喜らめきの郷」ができ、町民の皆さんの期待する声もたくさん耳にしています。入所者は喜茂別町で暮らしてきた方



喜茂別町内の家庭と事業所に設置されているIP電話を使い、町立クリニックの待ち人数を定期的に配信

が多く、また、他の地域から入所された方も現在は喜茂別町の町民です。施設に入所していても、町民として地域と交流できるような取り組みが大切だと思います。地域の人々の意識や気持ちも考えながら、環境づくりをする必要があると考えています。

溪仁会グループとの連携が始まったことで、新たな取り組みができると期待しています。在宅医療や看取りなど、地域のニーズに応えるために協調していきたいと思っています。

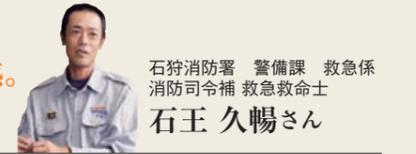


救急隊の方からの評価

手稲溪仁会病院は隣接する石狩市や後志地域などからの救急搬送も多く、ドクターヘリの運航圏内も含めると、広域の救急医療を担っています。一人でも多くの方の生命を救うために、救急隊の皆さんとの密接な連携をめざしています。

石狩市

**24時間、365日、傷病者の受け入れ体制があるという安心感。
地域における生命の砦として、最も頼りにする存在です。**



石狩消防署 警備課 救急係
消防司令補 救急救命士
石王 久暢さん

石狩市の救急出動要請は、約半数が急病によるものとなっています。2012年度は病院への搬送者数が1,994人。そのうち518人を手稲溪仁会病院に受け入れてもらいました。全体の4分の1を超えており、搬送先として信頼している医療機関です。

これには救命救急センターの存在が大きく、特に重症な3次救

急の場合などは、真っ先に受け入れをお願いしています。また、石狩市民にとって直近の総合病院のため、傷病者が手稲溪仁会病院への搬送を希望することも多くなっています。しかし、その一方で、安易な搬送は避けなければならないと考えています。救命救急センターが常に混雑していること、現場の医師やスタッフの方々が必死で努力されている様子を見ているため、症状が軽微な方はなるべく地域の医療機関にお願いするようにしています。

感謝しているのは、救急用にICUのベッドを必ず1つは確保してくれていることです。それだけでも大きな心の支えになっています。また、救急隊員の研修会や病院実習の受け入れなど、スキルアップにも積極的にご協力いただいています。

手稲溪仁会病院のような医療機関は、地域にとって貴重な医療資源です。私たちはその資源を守るためにも、適切な搬送の判断や傷病者の誘導を心がけていきたいと考えています。



倶知安町

**迷うことなくドクターヘリを要請できるのが最大の強み。
救命救急センターの対応力に支えられています。**



倶知安消防署 救急係
士長 救急救命士
川口 英樹さん

当署では、頭部の外傷など町内の病院で処置できない傷病者は、小樽や札幌の病院に搬送しています。2012年度の搬送総数が2,016件で、そのうち小樽や札幌に搬送した数は600件ほどでした。手稲溪仁会病院には、毎年60~70件ほどの搬送実績があり、特に救命救急センターができてからは、受け入れを依頼する頻度が高まっています。これは、1次から3次救急まで対応しているため、判断に悩むような場合は手稲溪仁会病院に連絡しています。

ドクターヘリが運航されたことで、救命率は向上しています。当管内の救急搬送の特徴として、スキー事故などによる外傷が多いのですが、ドクターヘリは試験運航の時から積極的に要請させていただいています。おそらく、他の地域と比べて当署からの出動要請は非常に多いと思いますが、キーワードに一致するかどうかで要請を判断できるキーワード方式が導入されたことで、迷わずに傷病者を搬送できるようになりました。

救命救急センターの開設とドクターヘリの運航によって、これまでは亡くなっていたケースの方も救えるようになってきました。医師やスタッフの方々の対応も誠実で、的確なアドバイスをいただけることにも助けられています。地域の生命を守る存在として、重要な医療機関だと考えています。



大島は気仙沼港からフェリーで約25分。震災では船舶が使えなくなったことで、長期間にわたって孤立しました。2018年に予定されている本土と島とを結ぶ橋の完成によって、救急医療や物流などの不安が解消されると期待されています。

東日本大震災を乗り越えて地域の福祉を支え続ける力に



宮城県気仙沼市の湾内に浮かぶ離島「大島」には、溪仁会グループが唯一、道外で運営する施設「おしまハーティケアセンター」があります。

2011年3月11日の東日本大震災では、同センターがある高台にも津波が押し寄せました。震災直後から、地域の高齢者の暮らしと生命を守り続けてきた同センターの活動をご紹介します。

「生命を守るために今できることを」職員一人ひとりが同じ思いに

宮城県の北東部、気仙沼湾に位置する大島は、約3,000人が暮らす自然豊かな島です。東日本大震災では津波による大きな被害を受け、今も仮設住宅での暮らしを余儀なくされている人たちがいます。

島で唯一の高齢者福祉施設「おしまハーティケアセンター」は、津波で1階部分が浸水。機器や設備が損壊する被害を受けましたが、ご利用者さまと職員は小学校の体育館に避難し、全員無事でした。避難直後から、職員はご利用者さまや高齢の方のケアにあたりました。一部の職員は自分の家族の安否確認すらできない状況でしたが、誰もが職務を果たそうとしていました。

佐藤壮平センター長は、「家族を亡くした職員もいましたが、みんな心をつなげて、どうやって島の人を支えていくかを考えました。自主的にご利用者さまの状況把握に回るなど、率先して動くとする姿に頭が下がりました」と振り返ります。

その後、医療チームと連携し、職員は住民の健康状態の把握や医療サポートを行いました。また、4月には仮設のデイサービスをボランティアで開始。これも職員が「何かできることを」と発案したものでした。

同センターは施設の復旧工事を急ピッチで行い、同年9月にデイサービスを、10月にはショートステイを再開。待ちわびていたご利用者さまも多く、涙を流して喜ばれる方もいらっしゃいました。1999年の開設から12年。未曾有の震災を経て、同センターは島の人たちにとって大きな存在になっていました。



佐藤壮平センター長

震災以降の小さな変化に気づき、きめ細かなサポートを提供したい

震災後、大島では65歳以上の人が人口の40%を超えるなど、地域の高齢化が進んでいます。もともと平均寿命が高く、畑仕事に励むなど身体的には健康な高齢者が多い土地柄。その一方で、周囲が気づかないうちに認知症が進行する方も多いいいます。島の高齢者の生活を見守り続けてきた高橋倫子生活相談員は「震災後、認知症の方の増加が目立つようになりました。これは家族と一緒に過ごす時間が増え、今まで気づかなかった変化が目についてきたことが背景にあります」と分析します。また、近隣の人や親戚などが気づいて相談をしてくるケースが増えているのも特徴です。

医療施設の不足も人々の不安要素になっています。現在は島に1軒だけある診療所が人々の健康を支えています。重篤な症状の場合



高橋倫子生活相談員(左)

合は気仙沼市街まで救急艇で搬送することになります。しかし所要時間が長く、手遅れになるケースがあるのも実情です。

大谷千信看護師は、疾病や持病がある方への訪問看護を担当。地域の生活に密着したサポートを行っています。震災以降の高齢者の変化として「気持ちが弱くなって、体調を崩しやすくなる人も多くなっています。特に猛暑だった去年は、秋口になって亡くなる方が増えました」と言います。

大島は今もコミュニティの結びつきが強く、支え合いの意識が高い地域です。同センターでは地域特有の風習や考え方を尊重しながら、人々の生活環境や心身面の変化にも心を配り、きめ細かなサポートをするように心がけています。



大谷千信看護師

高齢者の心のよりどころとして、未来に続く福祉の姿を考える

震災の影響からご利用者さまが減少した時期もありましたが、昨年からは震災前より多くのご利用をいただくようになっています。「今は認知症などの可能性があれば、積極的に介入するようにしています。職員が確保できれば、地域での介護予防教室なども回数を増やしていきたい」と高橋相談員は言います。大谷看護師も「体調が悪くても我慢をして、症状が悪化してから頼ってくる人が多い。これからはもっと啓発活動を行い、特に高齢の方の意識を変えていきたい」と展望を語ります。少しずつですが、未来を見据えた取り組みが始まろうとしています。

「数少ない交流の場として、当センターを心のよりどころにしてい

るご利用者さまもいます。頼ってくれる方やこの島のために、将来の福祉ビジョンを描く手助けをしたい」。大島の福祉のあり方について、地域の人たちと共に考えていきたいと佐藤センター長は話します。

溪仁会グループの一施設として東北の島に根を下ろし、地域に浸透してきたおしまハーティケアセンター。これからも大島に暮らす高齢者とそのご家族を支え続けていきます。



大島での支援活動を行っているバイオリニスト、ビルマン聡平さんのコンサートが開かれました

支援して下さる方の声

センターは高齢者の心の支え
島の誰もが感謝しています

大島地区老人クラブ連合会
会長
千葉 勝衛さん



おしまハーティケアセンターが開設された頃は、介護保険制度が始まったばかりということもあり、利用者がなかなか集まりませんでした。私も職員の方と一緒に地区内の家を回って、センターの利用を勧めたこともありました。

震災の後、佐藤センター長に会ったとき、思わず手を握り、肩を叩いて「必ずセンターを再開してください」とお願いしました。センターがなくなると、島は孤立無援になってしまう。だから「大丈夫、必ずまたやります」という答えに心から勇気づけられました。

過疎化が進む大島では、高齢者の福祉は大きな課題です。私たちの老人クラブでも震災前、「大島の福祉を考える会」という活動を行っていました。今は中断していますが、機会を見て再開し、佐藤センター長も交えて福祉の展望を話し合っていきたいと思っています。

ご家族の声

介護サービスが生活に定着
家族も助けられています

菊池 和子さん



義母がデイサービスやショートステイを利用しています。島に施設ができると聞いたときはうれしかったですね。周囲からは「(親の介護を任せて)楽をしたいのだろう」と言われた時期もありましたが、今では島中でセンターを利用することへの理解が進みました。

震災の時は、センターの看護師の方や医療チームが連携して義母のケアをしてくださいました。不便な生活の中で褥瘡がひどくなったり肺炎になりかけたこともありましたが、皆さんの協力でなんとか乗り切ることができました。また、仮設のデイサービスなども提供してもらい、私たち家族は本当に助けられました。

今は義母が楽しそうにデイサービスに通い続けているのが何より。そしていつか、寝たきりになったときは、訪問看護や介護サービスも利用しながら、在宅で看取ってあげたいと考えています。



いつまでも皆さまの近くに 存在し続ける「すーっと。」

医療・介護・福祉を支え続けるためには、
溪仁会グループが存在し続けなければいけません。
“人財”を育て、確かな運営と社会貢献をグループ全体で行い、
皆さまにとって親しみやすい存在であり続けることをめざします。



地域の方々と共に健康や介護を考える

「みんなの健康フェスタ2012」開催

2012年9月23日、手稲区民センターで「みんなの健康フェスタ2012」を開催しました。溪仁会グループと手稲家庭医療クリニック、FM三角山放送局の共催で、“学ぶ・楽しむ・健康と向き合う”をテーマに、地域の方々と一緒に医療と介護の連携を考えるイベントです。

会場はステージと体験・展示&販売ゾーンに分かれて、さまざまな催しを行いました。ステージでは手稲家庭医療クリニックの小嶋院長やクッキングキャスターの星澤幸子さんなどの講演、溪仁会円山クリニックの健康運動指導士によるストレッチ体操を実施。体験ゾーンには、身体測定や介護体験などのほか、溪仁会グループの専門職による介護相談コーナーや在宅医療啓発コーナーを設けました。場外ツアーとして、手稲溪仁会病院で行ったドクターヘリ見学ツアーも人気を集めました。

多くの方々に来場いただいたほか、イベントの様子は後HFMRラジオでも放送され、たくさんの方に健康について考えていただくきっかけづくりができました。



(上)ノルディックウォーキング体験会 (右)北海道盲導犬協会の講演 (下)星澤幸子さんの講演



【溪仁会グループ】

社会福祉法人30周年の記念植樹 【社会福祉法人溪仁会】

2012年は社会福祉法人溪仁会の創立30周年であり、さまざまな記念事業を行いました。その締めくくりとなる活動として、地域貢献につながり、野山で活動することで参加者の心身にも良い影響を与えるということから、植樹活動が選ばれました。そこで、9月30日に道民の森・神居尻地区(当別町)で植樹会が行われました。

この植樹会は、段ボール製の植栽用ポット「カミネコン」を利用したものです。クルミ、ヤマザクラ、ヤチダモ、アカエゾマツをそれぞれ75本ずつ、合計300本の苗木を植えました。各施設で行われた植栽用ポットの準備には、ご利用者さまにも参加していただき、多くの人にかかわっていただける記念行事となりました。



法人本部や各施設から合計55名が参加

おたるドリームビーチの清掃活動 【溪仁会グループ】

溪仁会グループでは、2008年度から定期的に年1回以上、グループ全体による環境保護活動として「おたるドリームビーチ清掃活動」を行っています。2013年度は6月15日に実施しました。

この行事は、有志職員がおたるドリームビーチのおよそ3kmにわたってゴミ拾いを行うものです。地域への貢献とともに、体を動かす取り組みを通じて環境意識を高める狙いがあります。2013年は昨年を大幅に上回る174名が参加し、集められたゴミは45リットル袋で300袋分と、かつて



ない総量となりました(P49参照)。

この行事は、職員が各病院・施設の壁を越えて、同じ目的のもとに活動することで親睦を深め、グループ内の連帯感を強めることに役立っています。また、職員家族、北海道薬科大学の学生の参加もあるなど、環境意識向上を広める活動ともなっています。今後も積極的に社会貢献活動を進めていきたいと思ひます。

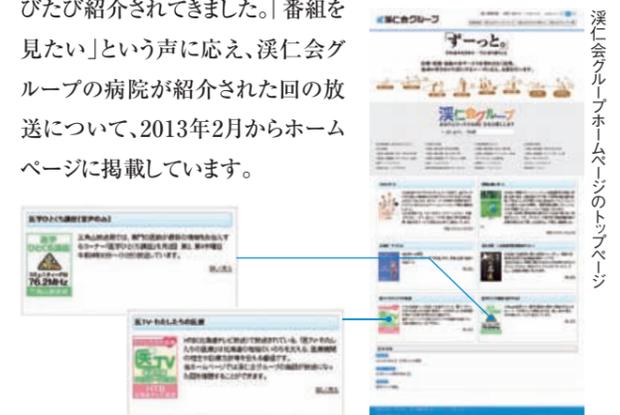


WEB・ラジオで最新情報を提供 【溪仁会グループ】

溪仁会グループでは、ホームページや広報誌「サラネット」などで、グループ内の最新情報や、医療・介護・福祉の情報を発信してきました。

それに加え、2012年4月からは、FM三角山放送局でラジオ番組「医学ひとくち講座」を開始しました。こちらは「サラネット」のコーナーをラジオ番組化したもので、医療や健康のテーマに基づき、グループ内の専門職が番組パーソナリティからの質問に答えます。

また、北海道テレビ放送(HTB)で放送されている番組「医学TV・わたしたちの医療」では、溪仁会グループの医療機関がたびたび紹介されてきました。「番組を見たい」という声に応え、溪仁会グループの病院が紹介された回の放送について、2013年2月からホームページに掲載しています。



溪仁会グループホームページのトップページ

職員一人ひとりが成長を続ける組織へ

～教育・研修制度による人材育成

[溪仁会グループ]

溪仁会グループは、職員一人ひとりが常に学びながら、キャリアアップと人間としての成長を図ることができる組織づくりを行ってきました。その中で職員研修は最も重要な人材(財)育成の取り組みとして継続的に行っています。

当グループは職員の意欲を尊重しています。研修によって一人ひとりが、自分で考え、判断し、行動できる“自立(律)能動型”の能力、PDCAサイクルを実践し自分を律する“自己管理型”の能力、そしてコミュニケーション能力を持つ職員となることをめざしています。サービスの質向上、そして働きながら成長し続けることへの喜び・意義を職員に感じてほしいと考えています。



溪仁会グループ本部主催研修会

医療法人 法人本部主催により、入職後から系統立てて実施される研修です。グループ共通の課題を取り上げ、年齢やキャリアなどに応じた最適な研修を設定しています。

「階層別研修」は、新人研修や役職者研修など各階層に合ったテーマについて研修を行います。「年代別研修」は、20代から40代の職員を対象に、年代ごとのキャリア形成支援をしています。そのほか、全職員を対象にした職員合同研修会や、幹部職員セミナーといった「テーマ別研修」もあります。



2013年度溪仁会グループ本部主催研修体系図

階層別研修		年代別キャリアデザイン研修	
階層(勤続年数・役職など)別に、チーム活動に必要なスキルや、役職者としての行動の基本・考え方などについて学ぶ。		年代に応じて自分のキャリア(人生・仕事)について考え、これからのキャリア開発の方向性などを学ぶ。	
名称	対象職員	名称	対象職員
新人・新人フォローアップ	新人職員	年代別キャリア研修Ⅰ	20歳代の一般職員
若手選抜者	入職3～5年目の一般職員	年代別キャリア研修Ⅱ	30歳代の一般職員
中堅選抜者	勤続5年以上の一般職員	年代別キャリア研修Ⅲ	40歳代の一般職員
新任役職者 新任役職者 フォローアップ	新任役職者	テーマ別研修	
看護管理者	役職者以上	溪仁会グループの職員にとって共通のテーマについて考え、学ぶ。	
中堅役職者	主任代理～課長	名称	対象職員
		職員合同研修会	参加可能な全職員
		幹部職員セミナー	役職者以上

2012年度 溪仁会グループ本部主催研修実績

名称	回数	参加人数
新人フォローアップ	全7回	248名
若手選抜者	全3回	85名
中堅選抜者A	全1回	25名
中堅選抜者B	全1回	56名
中堅選抜者C	全2回	60名
新任役職者	全1回	36名
新任役職者フォローアップ	全1回	30名
中堅役職者A	全1回	40名
中堅役職者B	全1回	40名
看護管理者研修会	全2回	120名
年代別キャリアデザインⅠ	全2回	92名
年代別キャリアデザインⅡ	全2回	43名
年代別キャリアデザインⅢ	全1回	19名
幹部職員セミナー	全1回	256名
職員合同研修会	全1回	428名
	計27回	計1,578名

職能研修

「職能研修」は、看護職、リハビリ職、相談職など、対象となる職種・部門ごとに、必要なテーマに的を絞って研修を行います。各職場ごとに、その職場環境に合った研修を行うほか、グループ内の病院・施設から職員が参加する組織横断的な研修も行います。同じ職種同士による情報交換や技術交流など、コミュニケーションを図る機会にもなっています。

CSR経営を組織に根付かせていくために

～溪仁会マネジメントシステムの推進

[溪仁会グループ]

溪仁会グループは、適正な組織運営をめざし、さまざまな取り組みを行っています。品質や環境に関する国際マネジメント規格や、個人情報保護に関するプライバシーマークなどにもいち早く取り組み、信頼されるための組織づくりに活かしてきました。

2010年からは、そうした第三者評価で培った経験をもとに、当グループの組織に合致した独自のマネジメントシステム「溪仁会マネジメントシステム=KMS」の確立に向けたプロジェクトがスタート。品質に関するISO9001はそのまま維持し、環境に関するISO14001とプライバシーマークについては更新を終了した上で新たに当グループ独自の評価基準を設け、品質と環境と個人情報とを一つのマネジメントシステムとして統合することをめざしています。

これは、組織の社会的責任(CSR)の国際規格ISO26000の自己宣言に向けた取り組みの一環であり、KMSを組織全体に浸透させることで、当グループが志すCSR経営を確かなものにしようとするものです。同時に、ISO26000に示されている7つの中核主題を当グループの事業活動にどのように適合させ、日常の活動にどう取り入れていくかという検討も行っています。

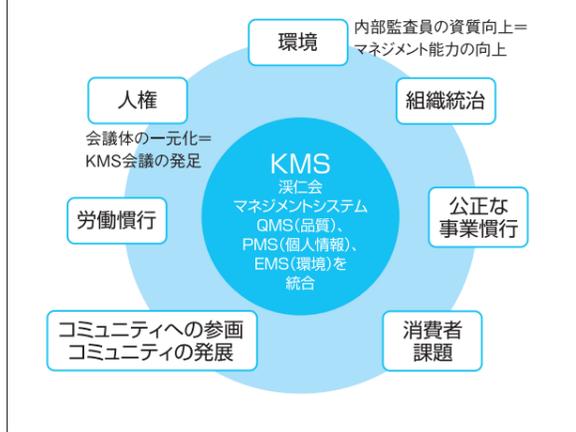
こうしたマネジメントシステムをグループに根付かせるには、職員への教育や啓発が重要になります。グループ内広報誌などを通じて、継続的に情報発信を行ってきましたが、今年度からは内部監査を中心にKMSの推進を図っています。内部監査の実施については、個別の組織ごとに担当者を選出し、内部監査員の

研修を実施。研修を通じて監査業務に必要な知識や技術を身に付けることで、適切に内部監査を遂行し、評価や改善ができるようになっています。職員が自ら行う内部監査を切り口にしてKMSを深く理解してもらい、組織全体に浸透させるのが目標です。

医療法人溪仁会は、既に7、8月で内部監査を終了。関連会社は冬期に実施する予定です。また、社会福祉法人については、業務監査とKMSの内部監査を統合することを検討しています。

■溪仁会グループ独自の「KMS」の構築

CSR経営の実現のために、ISO26000の7つの原則、7つの中核主題を適用し、独自のマネジメントシステムとしてアプローチする。



社会から信頼される組織をめざして

～コンプライアンス体制の堅持

[溪仁会グループ]

人々の生活に深くかかわり合う溪仁会グループにとって、コンプライアンスの実践は社会的な責務であり、組織活動を支える重要な基盤です。

当グループでは2004年からコンプライアンス体制の確立に向けて、研修や啓発活動、マニュアルの策定、相談報告体制の整備などに取り組んできました。

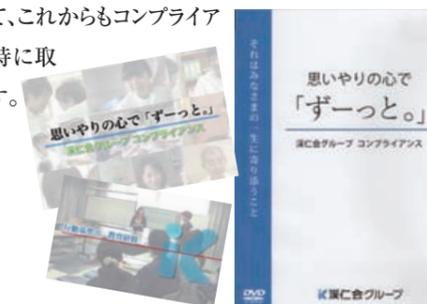
こうした活動が一定の成果を得たことで、医療や介護に携わる組織によりふさわしいコンプライアンス体制をめざすことになりました。その端緒として、コンプライアンスマニュアルの改訂とコンプライアンスDVDの制作に着手。

当グループの「行動基準」に具体的事例を示すことで理解を深め、職員個人や職場単位で、それぞれの現場に即したコンプライアンスの実践を主体的に取り組んでもらうことを主眼にした内容になっています。

当グループはCSR経営のビジョンにおいて、コンプライアンス体制の堅持を重要な課題の一つに掲げています。

地域社会から信頼される組織であることはもちろん、職員一人ひとりが誇りと喜びを感じ、安心して働くことができる職場環境をつくることも大切な責務と捉えています。

ステークホルダーの皆さまからの信頼に応える組織であり続けることをめざして、これからもコンプライアンス体制の堅持に取り組んでいきます。



パートナーシップを結ぶ皆さんから

溪仁会グループは地域の企業や機関と確かなパートナーシップを築くことで、
未来に向けて持続し、発展し続ける組織体制を構築しています。
パートナーの方々に、当グループに対する評価をうかがいました。



教育・研究における連携教育機関からの評価



手稲溪仁会病院と北海道薬科大学は2010年4月に「教育・研究に関する連携協定」を締結し、人材交流や教育・医療・学術研究分野での協力を推進してきました。2015年4月には、同大学の手稲区前田へのキャンパス移転が予定されており、より緊密な連携が可能になると期待されています。

北海道薬科大学

手稲溪仁会病院との連携で、魅力あるカリキュラムの提供や臨床とリンクした薬学研究の機会につなげていきたい。



学長
渡辺 泰裕氏

手稲溪仁会病院とは、学生の実務実習や研究などを含めて、さまざまな場面で連携を図ってきました。特に、同病院の薬剤部との共同研究や、臨床経験のない教員の研修受け入れなど、臨床とかわる貴重な機会をご提供いただいています。また、ハンディキャップを持つ学生の実務実習にご協力いただくなど、薬学教育にたいへんご理解をいただいていると感じています。

本学は2015年にキャンパス移転を予定しています。同病院とは地理的に非常に近くなるため、これまで以上に密に交流できるようになると考えています。例えば、学生が直接臨床の場とかわりながら研究を進められるようにしようという取り組みが、全国の薬学系の大学で考えられています。本学で

も将来、臨床と密着した教育プログラムを提供できるようにしたいという思いがあります。これによって、従来の大学の中で行われてきた薬学研究の枠にとどまらず、新たな発見や価値の創造ができるようになることを期待しています。また、研究結果を臨床にフィードバックすることで、同病院や患者さまにとっても多くのメリットがあると思います。

残念に思うのは、実務実習や同病院で活躍する薬剤師の講師派遣といった連携が、それぞれの担当レベルでの対応になっていることです。もっと組織的かつ恒常的にかかわることができるようになれば、両者の連携はよりスムーズになるでしょう。2015年のキャンパス移転を機により密接な関係性を築き、薬学と薬剤師業務の発展に取り組んでいきたいと考えています。

病棟業務や他職種との連携など、多様な経験ができるのが魅力。学生にとって貴重な学びの場をご提供いただいています。



生涯学習センター長
実務実習委員長
教授
早川 達氏

手稲溪仁会病院には、薬剤師の養成課程が4年制の頃から（現在は6年制）、学生の実習先としてお世話になってきました。同病院は多くの薬剤師が活躍し、チーム医療でも大切な役割を果たしています。学生からは「実習で薬剤師がいかにかかりにされているかを知り、責任の大きさを実感した」といった感想が聞かれます。

他職種や他部門との連携、病院全体の機能や組織などについて学ぶ機会があるのも急性期総合病院ならではの特色です。多様な経験が、医療人としての覚悟や責任感を養うのに役立っています。

また、札幌西円山病院も実習の受け入れ施設になっています。学生は、慢性期医療の現場を体験し、医療は急性期だけではないことを学んで帰ってきます。

学生は、実習以外ではなかなか臨床現場とかわることができないため、移転を機に手稲溪仁会病院との結びつきをより緊密にしたいと考えています。学生や現場の薬剤師が行き来しながら情報交換や共同研究などもできるようになるのが理想です。さらに生涯学習という観点から、薬剤師の方々に、知識や技術を深める機会なども提供していきたいと思っています。

ビジネスパートナーからの評価



株式会社北洋銀行は溪仁会グループのメインバンクとして、新施設の開設や最先端医療機器の導入など、さまざまなプロジェクトをご支援いただいています。同行ではCSR活動の一つとして地域医療への取り組みを重視していることから、当グループの活動にも深くご理解をいただいています。

株式会社北洋銀行



本店営業部
副本店長
高嶋 伸二氏

取り組みの一つ一つが社会貢献につながっている。溪仁会グループは、存在自体がCSRそのものといえます。

当行と溪仁会グループとの取引は古く、1980年代のグループ設立の頃です。以来、病院や施設の開設、プロジェクトの推進などをお手伝いしてきました。

当行ではCSR活動の重点テーマの一つとして、地域医療への取り組みを掲げています。同グループが医療や福祉サービスの向上をめざし、前向きなチャレンジを続けていることにたいへん共感するところも多く、当行としてもできる限りのサポートをしたいと考えています。近年は特に大きな投資が必要な事業が続いていますが、財務内容を常に開示していただき、明確な将来ビジョンを描いていただけるので、パートナーとして全幅の信頼を置いています。

同グループの活動について感じるのは、CSR経営が組織全体に根付いているということです。CSRというと、慈善事業に傾きがちであったり、理念的な内容が中心であったりしますが、同グループの場合は、その取り組みの一つ一つが社会的責任を果たすことにつながっています。これは、グループの存在そのものがCSRであり、しっかりとした経営ポリシーに基づき、スローガンである「ずーっと。」を実践していることの表れだと思います。

ぜひ同グループには立ち止まることなく、日本をリードする存在として挑戦を続けていただきたい。当行は長年のパートナーとして、これからも事業をバックアップしていく考えです。

緊密な連携を図ることでビジネスモデルの創出も。



本店営業部
法人営業部 部長
飯田 祐司氏

溪仁会グループは多くの患者さまや利用者さま、ご家族に寄り添う活動を続けられています。当行も生活に密着した存在として、医療や福祉サービスを利用される方々に特化した新しいサービスをつくれなかと考えています。

これからは高齢化が加速し、資産管理が困難になる方が増えると予想されています。また、高度先

進医療などを受けるための資金が必要になる場合もあるでしょう。そうした方々のニーズに応えられるような新たなビジネスモデルができれば、地域の皆さまにより安心して暮らしていただけるはず。同グループとの新しい提携のあり方として実現できればと考えています。

地域医療は両者共通のテーマ。連携による地域貢献も視野に。



経営企画部
CSR推進室 室長
渡辺 知博氏

当行では昨年度よりCSR推進室を開設し、CSR活動の一層の推進を図ってきました。溪仁会グループは、医療・福祉分野においていち早くCSR経営を打ち出し、ビジョンを日常業務にまで浸透させてきたプロセスなど、見習うべきところが多いと感じています。

北海道は医療過疎や高齢化など多くの問題を

抱えています。このことから当行は、地域医療をCSR活動の重点項目の一つとして専門部署を設け、事業者へのサポート、大学との連携、移植医療への協力などを行っています。同じく、地域の医療や福祉への貢献をめざす存在として、両者が手を取り合いながら協働できる場面もあるのではないかと期待しています。

仕事のやりがい。

それは一人ひと

パワーの源

りが輝いてこそ。

漢仁会グループには、さまざまな趣味や才能を持つ人たちがいます。特技を仕事に活かしたり、プライベートでリフレッシュしたり。ちょっとユニークな活動を続けながら、仕事も人生も充実させている人のとっておきの“元気の源”をご紹介します。

テニス大会への参加で、やる気とスキルが向上。心身の健康維持にも役立っています。

大学の医学部にテニス部があったことから、20代で硬式テニスを始めました。でも、若いころは仕事が忙しく、あまり熱心にはできませんでした。

手稲漢仁会病院はテニス経験者が多く、同じ科の先輩医師から誘いを受けたこともあり、医療関係者のチームに加わることに。2、3年前から、札幌市内のテニス大会に参加しています。8部リーグからスタートして、現在は6部に昇格しました。チーム名は、^{もんだうごめ}と書いて「チーム悶齋」。誰にも読めない名前にしよう、と決めたのですが、「何と読むのですか?」と聞かれることが多く、実はちょっと恥ずかしいです(笑)。

40代になると健康に気をつかうようになるもの。少しハードでも体を動かすことが大切なんだな、と思います。何より精神的なストレスが発散でき、肉体が疲れることでスッキリ、リフレッシュできますね。

大会に出ると、「もっとうまくなりたい」とモチベーションが上がります。今は週に1回、テニススクールでレッスンを受けて、スキルアップを図っています。上位のリーグをめざしながら、楽しくテニスを続けていきたいと思っています。



2012年秋の加盟団体テニス男子7部で準優勝しました



手稲漢仁会病院
整形外科 医師
蔡 栄浩

聞いてくれる人の笑顔が二胡を演奏する喜び。人を幸せにする音色を奏で続けたいですね。

11年前に雑誌で「二胡」という楽器を初めて目にしました。二胡のことはまったく知りませんでしたが、なぜか気になって。習ってみたい、と札幌市内で教えてくれる人を探していたところ、中国人の演奏家が教室を開くことを知りました。体験レッスンで先生の演奏に感動し、すぐに「やろう!」と決心。運命的なものを感じました。

現在は月2回、レッスンを受けています。最初はギコギコという音が鳴るばかりで愛犬も逃げ出すほどでしたが、5年ほど経ったころ、家族から「キコキコになったね」と褒められました(笑)。今では本格的な楽曲も弾けるようになり、レパートリーも増えています。

二胡の魅力は「楽器が育つ」ところ。張ってある蛇の皮に振動を与えて音を出すのですが、毎日欠かさず弾くことで音色が変わってくるのがわかります。逆に怠けても音が出る。それが面白いですね。

2007年から、教室の仲間たちと当院の病院祭などで演奏会を行っています。患者さまがとても喜んでくださるのがうれしくて、私も楽しく演奏しています。また、外部での演奏会もこれまでに30回ほど開きました。これからも聞いてくれる人が笑顔になってくれるように、楽しい音楽を提供していきたいですね。

二胡演奏グループ「花音(かおん)」の仲間と共に



定山漢病院
歯科診療部長
久米 麻也子

文化や歴史の違いを感じるのが海外旅行の醍醐味。大切な旅の思い出をカメラに収めています。

これまで、サッカーや野球、ゴルフと、いろいろなことに挑戦しながら、長続きしなかった私が、唯一「趣味」と言えるもの。それは旅行です。学生時代に行った韓国で、海外旅行の楽しさを知りました。日本とは全く違う建物や食事、言葉など、何もかもが新鮮で、「文化の違いって、何ておもしろいんだろう!」と感動しました。

それ以来、仲間と計画を立てて旅行に出かけるのが定番に。アジア圏を中心に、旅を楽しんできました。

旅行と同時に興味を持ったのが写真撮影でした。旅先で見た建造物を写真に残したいと思い、必ずカメラを携行するようになりました。旅行中は記録としてあまりアングルにこだわらず撮影していますが、「もっと上手に撮れたら!」と思うことも多いです。

今年の6月には思い切って1週間以上の休暇を取り、ヨーロッパ旅行に出かけました。世界遺産にも登録されている歴史的な建造物や古い街並みの美しさに圧倒されて、夢中でシャッターを切りました。

どんな国に行っても、旅行は楽しくて、楽しくて。だから旅行から帰ると仕事に力が入りますし、「また旅に行くために頑張ろう!」という、やる気にもつながっていると思います。



今年のヨーロッパ旅行ではフランスとイギリスを訪れました



タイ旅行の時に撮影した「ワット・ヤイ・チャイ・モンコン」の石仏

社会福祉法人漢仁会
菊水こまちの郷
施設長
神 謙一郎

動画を撮るのも、編集作業も、やるほどおもしろい。みんなを楽しませる作品を作っていきたいですね。

学生時代からパソコンやビデオに興味があり、デジタル機器の普及もあって、撮影した動画や画像の編集を始めました。もともと映画の予告編が好きで、短い時間の中に見どころが凝縮されているような作品を自分も作りたいと思ったのがきっかけでした。テレビのドキュメンタリー番組などをよく見ていて、さまざまな要素を組み合わせる編集の面白さにも惹かれました。

趣味で子どもの成長記録などを撮っていましたが、8年ほど前に病院から頼まれて、ホームページ用の看護部の紹介ビデオを作ることに。それがなかなか好評で、研修用のビデオや歓迎迎用のビデオなどを手掛けるようになりました。

こだわりは、例えば人物を撮影する場合なら、話している時だけでなく、話し終わってリラックスした一瞬の表情を捉えるようにしています。その人の素顔が見えるように、なるべく素の姿を伝えたいと思っています。

編集作業は夜中にするのが多く、寝不足気味になることも。でも、みんなが喜んでくれるのがうれしくて、頼まれるとつい引き受けてしまいます。今は「当院の紹介ビデオを」という依頼もあり、どんな内容にしようか構想を練っています。



昨年の秋には、看護部の祝賀会用にメッセージビデオを作成しました



札幌西円山病院のホームページで公開されている、浅野さん作の「看護部紹介ビデオ」

札幌西円山病院
リハビリテーションセンター
看護主任
回復期リハビリテーション
病棟協会
回復期リハ看護師認定
浅野 紳次郎

データで見る 溪仁会グループ

グループ全体の規模がわかるものから、法人ごとのデータまで、溪仁会グループの“今の姿”が見える数字を集めてみました。

基本データ編

● 溪仁会グループ施設の使用総敷地面積



溪仁会グループの事業所・施設は道内各地に広がりを見せています。総敷地面積は、大通公園(大通西1丁目~大通西12丁目)の面積と比較すると、約2.2倍の面積になります。

● 溪仁会グループの総事業所数



● 溪仁会グループで働く職員の総数



医療法人編

● 総ベッド数



手稲家庭医療クリニックの19床から、札幌西円山病院の854床まで、提供する医療サービスやニーズに合わせたベッド数を備えています。多くのベッドを擁する医療グループとして、社会からの期待に応えながら、サービスの充実を図っています。

● 医師の総数



1ベッド当たりの医師数は0.16人と、全国平均並ですが、急性期医療が中心の手稲溪仁会病院の医師数だけを見ると、1ベッド当たり0.4人となり、大きく全国平均を上回っています。

● 看護職の総数



● リハビリ職の総数



● 1日あたりの外来患者数



● 1日あたりの入院患者数



社会福祉法人編

● 施設の年間入所者数



● 年間利用者数 ※2012年度実績、社会福祉法人全体の延べ人数総計



財務データ編

● 2012年度の 溪仁会グループ総売上



医療法人 溪仁会 経常収益 **33,546** 経常利益 **1,570**

社会福祉法人 溪仁会 経常収益 **5,487** 経常利益 **▲56**

株式会社 ハーティワークス 売上高 **280** 株式会社 ソーシャル 売上高 **202**

環境データ編

● 電気使用量 (CO₂換算)



● 都市ガス13A使用量 (CO₂換算)



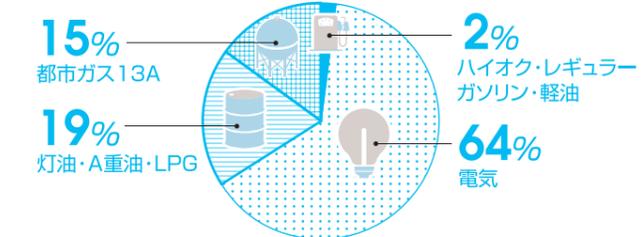
● 車両燃料 (CO₂換算)



● その他燃料 (CO₂換算)



● 使用エネルギー種類別割合 ※2012年度/医療法人



● 省エネルギーの推進



環境活動

● リングプル収集 (溪仁会グループ)



自動販売機や休憩スペース等に収集容器を設置して、リングプルの収集を行っています。690kg(138万個)でアルミ自走式車1台と交換することができます。これまでに5台の車いすを公共施設に寄贈できました。

● ペットボトルキャップ収集数 (手稲溪仁会病院)



ペットボトルキャップの回収により、資源の循環利用と、障がい者の自立支援に貢献しています。リサイクル収益金は世界の子どもたちへのポリオワクチン送付資金や、障がいを持つ北海道の子どもたちの医療ケア付きキャンプ招待費用に活用しました。

● おたるドリームビーチ清掃活動参加者 (溪仁会グループ)



地域環境に重点を置いた活動として、2008年度にスタートした清掃活動。実施8回目となった2013年は、グループ職員やその家族、取引先の方など、174名が参加し、砂浜のゴミ拾いを行いました。

● 集めたゴミ



こうした活動以外にも、各施設において、環境改善活動やエコ意識の向上を図っています。

手稲溪仁会医療センター

TEINE KEIJINKAI MEDICAL CENTER



沿革

1987年 12月 手稲溪仁会病院開院	11月 地域連携福祉センター開設
1988年 7月 救命救急センター開設	脳卒中ケアユニット開設
1990年 3月 総合病院承認	12月 外来化学療法室開設
1997年 4月 厚生省臨床研修病院指定 救急部開設	2008年 4月 小児NICUセンター開設(2012年4月小児 在宅医療・人工呼吸器センターに改称) がん治療管理センター開設
1998年 4月 メディカル手稲開設	2009年 4月 地域がん診療連携拠点病院指定
1999年 7月 開放型病床承認	10月 手稲家庭医療クリニック開設
2000年 5月 手稲溪仁会クリニック開院	2010年 7月 NICU開設
2001年 2月 ISO9001 審査登録	2011年 11月 地域災害拠点病院指定
4月 北米方式臨床研修システム導入	2012年 10月 地域医療支援病院承認
2005年 3月 救命救急センター指定	2013年 2月 HCU開設
4月 ドクターヘリ正式運航開始	
9月 日本医療機能評価機構認定	
2006年 4月 DPC対象病院指定	
2007年 5月 救命救急センター開設	

院内保育所を新築移転

手稲溪仁会病院では、職員の子育て支援の取り組みとして、24時間保育体制の院内保育所を設けています。保育環境の向上と定員増をめざし、2013年9月22日に保育所を移転・増床しました。病院横に新たに3階建ての建物を建設し、その1・2階の延べ床面積1,010.95㎡を保育所にあてます。定員も最大200名を受け入れるよう、保育士の配置なども拡充しています。



治療とケア

手稲溪仁会病院

〒006-8555 札幌市手稲区前田1条12丁目1番40号 TEL 011-681-8111 http://www.keiinkai.com/teine/



手稲溪仁会病院
院長 田中繁道

先進医療と医療連携で、中核病院の使命を果たす。

手稲溪仁会病院は、札幌市北西部および後志・石狩地域における急性期総合医療を担う拠点病院です。より高度な先進医療の提供をめざし、組織の機能強化とハード面の整備に取り組んでいます。

2012年10月には「地域医療支援病院」の承認を受け、当院の医療連携に対する取り組みや専門性の高い医療などが改めて認められました。今後はさらに提携医療機関と協力しながら医療機能の分化を図り、地域医療全体の発展に貢献する役割を果たしていきます。

施設面では、昨年末にハイケアユニット(HCU)12床の新設や、本年6月にハイブリッド手術室の導入を行い、既にフル稼働しています。また、ITを活用した独自の情報管理システムの導入も来年1月に完了します。

これからも病床の増床や最先端医療の提供、新部門の開設などに取り組み、地域から信頼される医療機関でありたいと考えています。

2012年度 診療実績

- 1日平均外来患者数 …… 761名
- 地域別外来患者数
札幌市 7,770名(手稲区5,281名、
西区1,145名、北区609名、その他
735名) / 石狩市884名 / 小樽市954
名 / その他道内988名 / 道外113名
(合計10,709名)
- 1日平均入院患者数 …… 523名
- 地域別入院患者数
札幌市867名(手稲区514名、西区145
名、北区93名、その他115名) / 石狩市
119名 / 小樽市134名 / その他道内
235名 / 道外20名 (合計1,375名)
- 月平均新入院患者数 …… 1,375名

- 平均在院日数 …… 10.6日
- 病床稼働率 …… 94.5%
- 紹介率 …… 61.3%
- 逆紹介率 …… 40.2%
- 救急患者数 …… 23,520名
(内救急車 / ヘリ搬送患者数 …… 4,553名)
- ドクターヘリ要請件数 …… 737件
- ドクターヘリ出動件数 …… 374件
- 年間手術件数 …… 7,975件
- 年間消化器内視鏡検査数 …… 19,925件
- 年間分娩件数 …… 550件
- NICU稼働率 …… 99.7%
- クリニカルバス施行数 …… 7,235件
- クリニカルバス施行率 …… 49.3%
- クリニカルバス種類 …… 246種類

DATA

- 病床数 …… 562床
内 救命救急センター …… 19床
ICU(集中治療室) …… 12床
HCU(ハイケアユニット) …… 12床
SCU(脳卒中ケアユニット) …… 9床
NICU(新生児特定集中治療室) …… 3床
小児入院医療管理料算定病床 …… 25床

●診療科目

内科・呼吸器内科・循環器内科・消化器内科・外科・呼吸器外科・心臓血管外科・整形外科・脳神経外科・形成外科・精神保健科・リウマチ科・小児科・皮膚科・泌尿器科・産科・婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・リハビリテーション科・麻酔科・歯科・口腔外科・小児歯科・血液内科・腎臓内科・消化器外科・頭頸部外科・放射線診断科・放射線治療科・病理診断科・救急科・腫瘍内科

●主な特徴

厚生労働省指定 臨床研修病院
厚生労働省指定 地域がん診療連携拠点病院
北海道指定 地域災害拠点病院(地域災害医療センター)
北海道指定 地域医療支援病院
ISO9001 認証(審査登録)

●職員状況

職員数：1,449名
医師220名(研修医・歯科医含む)、看護師・准看護師686名、薬剤師37名、リハビリスタッフ45名、臨床放射線技師28名、臨床検査技師32名、臨床工学技師17名、管理栄養士・栄養士12名、他医療技術職18名、社会福祉士16名、経営管理部門職210名、看護助手86名、その他42名



治療とケア

手稲溪仁会クリニック

〒006-0811 札幌市手稲区前田1条12丁目2番15号 TEL 011-685-3888



手稲溪仁会医療センターの外来部門を受け持つクリニックです。現在は12の診療科において、本院である手稲溪仁会病院と連動した質の高い医療を提供しています。外来診療に特化することで、患者さまにはよりスムーズに受診していただける体制を築いています。今後も機能面の強化や設備の見直しなどを図りながら、地域の皆さまに支持される医療サービスをめざしていきます。

DATA

- 病床数 …… 無床
- 診療科目
内科・呼吸器内科・消化器内科・循環器内科・

リウマチ科・小児科・外科・形成外科・皮膚科・眼科・血液内科・腎臓内科

●主な特徴

ISO9001 認証(審査登録)

●職員状況

職員数：96名 医師5名、看護師・准看護師33名、薬剤師2名、その他56名

2012年度 診療実績

- 1日平均外来患者数 …… 650名
- 地域別外来患者数
札幌市7,786名(手稲区5,576
名、西区1,042名、北区590名、
その他578名) / 石狩市977名
 / 小樽市1,043名 / その他道
内1,030名 / 道外113名(合計
10,949名)

手稲家庭医療クリニック

〒006-0812 札幌市手稲区前田2条10丁目1番10号 TEL 011-685-3920 <http://www.keijinkai.com/teine-karinpa/>



手稲家庭医療クリニック
院長 小嶋 一

地域の皆さまが安心して暮らしていける医療を。

手稲家庭医療クリニックは、家庭の“かかりつけ医”として、あらゆる年代・疾患の外来診療に対応しています。また、ターミナル期の患者さまのための入院病棟と、ご自宅への訪問診療を行う訪問看護ステーションを併設し、多様な医療ニーズに応えています。

開院から4年が経ち、当クリニックの役割やかかりつけ医の存在が、地域の皆さまに浸透してきたことを感じます。地域医療を志す医師などのスタッフも増え、より充実した診療体制を築いています。

昨年度は厚生労働省の在宅医療連携拠点事業に指定され、行政機関や福祉施設、他の医療機関と連携しながら在宅医療のモデルづくりを行いました。今年度も事業内容を継続し、積極的に地域活動を展開しています。在宅医療のニーズが高まっていますので、訪問診療専任チームが中心となって質の高いケアを提供しています。



DATA

- 開設
2009年10月
- 診療科目
内科、小児科、産婦人科
- 病床数……………19床
- 主な特徴
在宅療養支援診療所(機能強化型)、有床診療所緩和ケア診療加算基準施設、はまなす訪問看護ステーション併設、平成24年度厚生労働省在宅医療連携拠点事業実施機関、日本プライマリケア連合学会認定家庭医療後期研修プログラム実施
- 職員状況
職員数：47名
医師4名、看護師15名、看護助手7名、管理栄養士1名、技術員8名、その他12名

沿革

2009年 10月 手稲家庭医療クリニック開院
2012年 4月 在宅医療連携拠点事業指定

2012年度 診療概要

- 外来延べ患者数…19,069名
- 訪問診療(往診含)延べ患者数……………1,934名
- 入院延べ患者数…5,350名
- 予防接種実施人数…304名

※2013年3月31日現在

札幌西円山病院

〒064-8557 札幌市中央区円山西町4丁目7番25号 TEL 011-642-4121 <http://www.keijinkai.com/nishimaru-yama/>



DATA

- 稼働病床数……………854床
内 介護療養型医療施設……………306床
医療療養病床……………292床
医療一般病床……………169床
回復期リハビリテーション病棟……………87床

●診療科目

内科・神経内科・リハビリテーション科・循環器内科・歯科

●主な特徴

日本医療機能評価機構認定病院(療養)、ISO9001認証(審査登録)、通所リハビリ・居宅介護支援事業所併設 など

●職員状況

職員数：911名
医師35名(歯科医含む)、看護師・准看護師295名、薬剤師18名、医療技術職194名、介護福祉士8名、事務職員61名、その他300名

沿革

- 1979年 6月 西円山病院開院
- 1990年 7月 医療福祉サービスセンター開設
12月 患者家族の会設立
- 2000年 6月 NSTチーム(nutrition support team)立ち上げ
- 2001年 1月 ISO9001 審査登録
- 2007年 3月 日本医療機能評価機構認定
10月 院内保育所
「西円山ピッコロ保育園」新築
- 2009年 11月 札幌西円山病院に改称
- 2012年 10月 「リハビリテーション・ケア合同研究大会 札幌 2012」開催(参加者2,187名)

2025年を見据えた医療・ケアのあり方を求めて。

札幌西円山病院は開院以来、質の高い高齢者医療を提供してきました。脳血管疾患や認知症、神経難病、骨折など、高齢者に多いさまざまな病態に対応し、充実したリハビリテーションを組み合わせることで、きめ細かな医療とケアを行っています。

今年度は、院内環境をより快適にするために、病棟などの改修を実施。患者さまやご家族の療養環境、そして職員の職場環境に配慮しながら、医療・ケアの質向上をめざし、設備や機器類の整備を進めています。

当院では、2025年を見据えたプロジェクトを開始しました。日本をリードする慢性期病院を目標に掲げ、増大し続ける高齢者に対応するための体制を強化しています。また、介護予防の啓発活動や制度理解の促進など、地域社会に向けた情報発信にも積極的に取り組み、地域医療に貢献していきたいと考えています。



札幌西円山病院
院長 峯廻 攻守

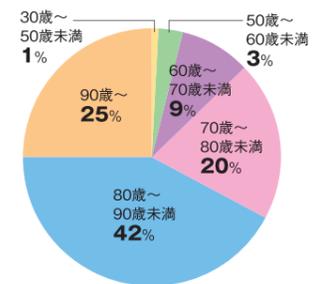
2012年度 診療概要

- 入院患者延べ数……………831名/日
- 外来患者延べ数……………124名/日
- 入院患者平均年齢……………82.1歳
- 患者分類別状況
医療療養病床入院患者 医療区分1/14.48%、医療区分2/45.22%、医療区分3/40.28%
- 介護療養病床入院患者 平均要介護度3.9

●地域別患者数 札幌市662名(中央区244名、西区114名、その他304名) / 石狩41名 / 後志30名 / 空知33名 / 胆振・日高13名 / その他道内 23名 / 道外 3名(合計805名)

※2013年3月31日現在

■年齢別入院患者数比





定山溪病院
院長 中川 翼

地域全体を療養病床と捉え、質の高い医療の展開へ。

療養病床を中心とする慢性期病院として、専門的な医療やリハビリテーション、ケアを行っています。これまで身体拘束廃止や終末期医療など、全国に先駆けた取り組みを実施。第三者評価では、2010年に「慢性期医療認定病院」第1号となったのに続き、今年度は日本医療機能評価機構「機能種別版評価」慢性期病院種別第1号認定を受けました。

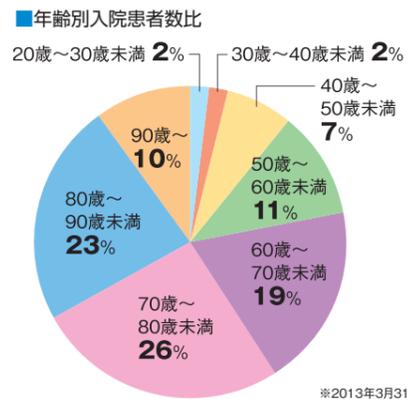
高齢化が進む地域社会では、さまざまな“暮らしの場”との連携が必要になっています。その一環として、当院は福祉施設や高齢者住宅などに対する医療支援や協力を開始しました。また、訪問診療や訪問リハビリといった在宅サービスも充実させたいと考えています。

これからは積極的に地域との連携を図り、多様なサービスを外部にも展開していくことが重要です。地域すべてが療養病床であると考え、より多くの方に質の高い医療を提供したいと考えています。

2012年度 診療概要

- 入院患者延べ数……… 382名/日
- 外来患者延べ数……… 33名/日
- 入院患者平均年齢……… 71歳
- 地域別患者数

札幌市289名(南区136名、その他153名) / 後志33名 / 空知16名 / 石狩18名 / 胆振・日高12名 / 網走・宗谷4名 / 上川・留萌4名 / 渡島・松山3名 / 十勝・釧路・根室3名 / 道外2名 (合計384名)



DATA

- 稼働病床数……… 386床
- 内 医療療養病床……… 245床
- 医療一般病床 (特殊疾患病棟) …… 141床

●診療科目

内科・神経内科・リハビリテーション科・歯科

●主な特徴

日本医療機能評価機構認定病院(慢性期病院)、ISO9001認証(審査登録)、慢性期医療認定病院、通所リハビリ、居宅介護支援事業所、介護予防センター併設 など

●職員状況

職員数：336名
医師15名(歯科医含む)、看護師・准看護師116名、作業療法士31名、理学療法士20名、言語聴覚士11名、放射線・臨床検査技師2名、薬剤師7名、管理栄養士3名、歯科衛生士3名、ケアワーカーほか100名、事務職員28名

沿革

- 1981年 5月 定山溪病院開院
- 1996年 10月 新棟完成
- 1998年 11月 日本医療機能評価機構認定
- 1999年 7月 抑制廃止宣言
- 2001年 1月 ISO9001審査登録
- 2006年 10月 新々棟完成
- 2010年 5月 慢性期医療認定病院
- 2013年 9月 機能種別版評価項目「慢性期病院」認定



溪仁会円山クリニック
院長 道家 充

精度の高い検査と充実のフォローで選ばれる施設に。

病気の予防と早期発見を目的とした人間ドックや各種健康診断の実施、およびその結果に基づく改善指導を行っています。また、企業と提携し、専任の医師が健康管理の指導やアドバイスを行う産業医活動、地方にお住まいの方に対する住民健診なども展開しています。

今年度は検査面・施設面ともに、さらなる充実を図っています。新たな検査として4月にホルター心電図と遺伝子検査(アルコール・肥満)、10月には心臓エコー検査を導入。また、5月にはレディースフロアのリニューアルや電子案内板の設置を行いました。

ここ数年の取り組みに、再検査や精密検査が必要な方への働きかけの強化があります。郵送による促しのほか、結果によっては保健師が直接連絡を取り、受診を勧めています。今後はさらにご理解いただけるよう、広報や啓発活動にも力を入れたいと考えています。

DATA

- 機能
- 健康診断専門施設 病床数6床(宿泊ドック利用)

●事業

人間ドック(日帰り、1泊2日)の実施、各種健診(生活習慣病健診、一般健診、特定健診)の実施、特殊検診の実施、保険診療(生活習慣病外来、禁煙外来、再検査)の実施、ヘルプサポート(保健指導、栄養指導、運動指導、体力測定)の実施、自治体が所有する保健施設の運動指導業務の受託

●主な特徴

人間ドック健診施設機能評価認定施設、優良総合健診施設、運動型健康増進施設、委嘱人間ドック専門医制度研究施設、委嘱専門医制度研修施設、マンモグラフィ検診施設 画像認定施設、生活習慣病予防健診実施施設、ISO9001認証取得 など

●職員状況

職員数：125名
医師5名、看護師13名、医療技術職25名、メディカルクラーク4名、保健師5名、管理栄養士3名、健康運動指導士6名、運動指導員12名、事務職員52名

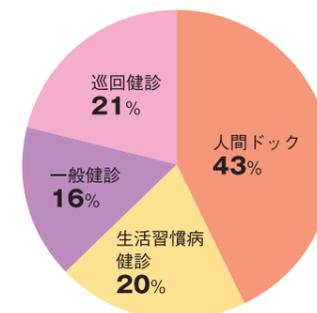
沿革

- 1990年 1月 円山クリニック開設
- 2001年 2月 ISO9001審査登録
- 2002年 4月 溪仁会円山クリニックに名称変更
- 2010年 6月 生活習慣病外来・禁煙外来を設置
- 2012年 7月 メディカルフィットネス開設

2012年度 診療概要

- 人間ドック …… 16,410名
 - 生活習慣病健診 …… 7,806名
 - 一般健診 …… 5,890名
 - 巡回健診 …… 8,070名
 - 契約団体数
- 保険者約370団体、事業所約2,000団体
- オプション検査数
- 婦人科(乳がん、子宮がん、卵巣がん) 13,503件 / CT(頭部・胸部・腹部) 3,070件 / その他(胃カメラ、前立腺マーカー、骨粗しょう症ほか) 24,421件

■健診別受診者数比



地域医療 村立診療所指定管理者
泊村立茅沼診療所

〒045-0202 古宇郡泊村大字茅沼村711番地3 TEL 0135-75-3651 http://www.keijinkai.com/tomarimura/

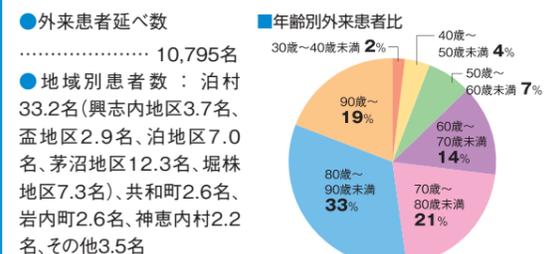


泊村立茅沼診療所は、泊村で唯一の診療所です。2010年10月から、医療法人溪仁会 手稲溪仁会病院がこの診療所の指定管理者となり、運営をスタートさせました。月曜から金曜の外来診療では、一日平均44名ほどの通院に対応。健診やワクチン接種なども行っています。CT(コンピュータ断層撮影)やMRI(核磁気共鳴画像法)をはじめとした、医療機器の充実ぶりが特徴のひとつです。そのほか、保育所や小中学校での健診や、隣接する養護老人ホーム・特別養護老人ホームでの診察を担うなど、茅沼診療所は地域医療の拠点となっています。

DATA

- 診療科目
内科、循環器科、呼吸器科、消化器科
- 主な特徴
指定管理者制度により運営(公の施設の管理・運営を、企業や法人などが代行する制度)
- 職員状況
職員数：9名 医師1名、看護師3名、放射線技師1名、事務職員4名

2012年度 診療実績



地域医療 町立診療所指定管理者
喜茂別町立クリニック

〒044-0201 虻田郡喜茂別町字喜茂別13番地3 TEL 0136-33-2225 http://www.keijinkai.com/kimobetsuclinic/



医療法人溪仁会を指定管理者として、2013年4月8日に開院しました。運営は手稲家庭医療クリニック(P54)がサポートしています。地域の「かかりつけ医」として、あらゆる疾患の初期診療のほか、患者さまの体の身近な悩みに対応する開かれたクリニックをめざします。さらに予防接種や健康診断などの保健活動も実施し、自治体の福祉部門や地域の保健師など地域社会との連携により町民の健康を支えています。さらに家庭医療専門医の実践の場として人材育成にも取り組んでいます。

喜茂別町立クリニックのめざすもの

- 身近な悩みに対応
- ひらかれたクリニック
- 町と一緒に
- 日本、世界のモデルとなる地域へ

DATA

- 診療科目
内科
- 主な特徴
指定管理者制度により運営(公の施設の管理・運営を企業や法人などが代行する制度)
- 職員状況
職員数：10名 医師3名(非常勤含む)、看護師2名、事務職員4名(非常勤含む)、用務員1名

診療実績 (2013年4月8日～8月31日)

- 外来・往診・訪問診療・特養患者延べ数
..... 3,533名
- 保健予防：予防接種延べ98名、健康診断延べ30名、バースデイ健診10名、学校内科健診134名、学校心臓健診29名、保育園健診44名、乳幼児健診56名

介護 介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)
西円山敬樹園

〒064-0944 札幌市中央区円山西町4丁目3番20号 TEL 011-631-1021 http://keijinkai.com/keijuen/



西円山敬樹園
園長 菊池達行

多様なニーズに応え、安らぎと安心のサービスを。

西円山敬樹園は、社会福祉法人溪仁会(当時は南静会)初の特別養護老人ホームとして開設されました。以来31年にわたり、日常生活の介助が必要な高齢の方に、きめ細かなケアを提供してきました。

当園は札幌西円山病院に隣接し、スムーズに医療サポートを受けられる環境が支持されています。また、長年積み重ねてきた豊富な経験と知識、ご利用者さま一人ひとりに心を配る職員の努力などによって、質の高いサービスを実現しています。ハード面では、昨年度から一部設備のリニューアルを開始。「安らぎと安心」をモットーに、施設やサービス体制などの改善を進めていく考えです。

近年は、福祉施設においても地域社会とのコミュニケーションが重視されています。当園も積極的に近隣住民の方々との交流を図り、地域から信頼され、頼りにされる施設づくりをめざしています。



DATA

- 開設 1982年4月
- 定員
施設入所..... 123名
短期入所生活介護..... 14名
通所介護..... 30名
- 主な特徴
ISO9001認証(審査登録)、指定居宅介護支援事業所、居宅介護支援事業所、訪問介護・介護予防センター・ホームヘルプステーション・認知症対応型共同生活介護(グループホーム)など

沿革

- 1982年 4月 西円山敬樹園開設
- 1994年 10月 西円山敬樹園ホームヘルプステーション開設
- 1996年 4月 西円山敬樹園デイサービスセンター開設
- 2000年 4月 居宅介護支援事業所西円山敬樹園開設
- 2002年 7月 グループホーム西円山の丘開設
- 2007年 4月 ケアセンターこころ開設
- 2008年 7月 指定居宅介護支援事業所ケアプランセンターこころ開設

2012年度 運営概要

- 職員状況
職員数：175名
医師、看護職員、介護員、介護支援専門員、生活相談員、療法士ほか
- 研修参加・実施状況
外部研修参加47回延べ50名、内部研修延べ464名、その他各部署にて実施
- 2012年度実績
入所：120.5名/日 短期入所生活介護：6.8名/日 通所介護：23.3名/日 訪問介護：25.7回/日、(ケアセンターこころ22.6回/日) 居宅介護支援：延べ1,273件、(ケアプランセンターこころ延べ1,252件) 介護予防センター延べ相談件数：円山192件、曙・幌西187件



きもべつ喜らめきの郷

〒044-0221 虻田郡喜茂別町字伏見272番地1 TEL 0136-33-2711 <http://www.keijinkai.com/kirameki/>



羊蹄山を望み、すぐ近くを尻別川が流れる緑あふれる環境に、2013年6月1日に開設した特別養護老人ホームです。完全個室型のユニットケアを導入し、扇形に開いた施設の左右に10名単位のユニットを8つ配置し、リビング・トイレはユニットごとに設置しました。すべてのユニットのリビングと、共用部分のルーフバルコニーや多目的ホールからは、羊蹄山の素晴らしい眺望が楽しめる設計です。また、冷暖房システムには地中熱を利用する最新ヒートポンプシステムを導入するなど、環境に優しい施設としても注目されています。



DATA

- 開設 2013年6月1日
- 定員 施設入所…………… 80名
- 協力医療機関 喜茂別町立クリニック、定山溪病院

運営概要 (2013年6月1日～8月31日)

- 職員状況 職員数：74名 施設長・医師・看護職員・管理栄養士・介護職員・生活相談員ほか
- 研修参加・実施状況 ユニットリーダー研修、認知症介護実践研修、認知症介護実践リーダー研修
- 開設後の利用状況 入居者数：実人数80名(平均63.2名/日) 地域別利用者比：喜茂別町30%、留寿都村20%、札幌市13%、その他37% 要介護度状況：平均2.6



るすつ銀河の杜

留寿都村立特別養護老人ホーム「銀河荘」の移譲を受け、施設を建て替えて新たな特別養護老人ホーム「るすつ銀河の杜」を開設します。「きもべつ喜らめきの郷」を本体とした地域密着型サテライトの小規模施設として運営します。「きもべつ喜らめきの郷」と同様に全室個室でユニットケアを導入し、ご利用者さまが地域とのつながりを保ちながら、安心して生活できる質の高いケアの提供をめざします。

- 2014年4月 開設予定
- DATA ●所在地 〒048-1731 虻田郡留寿都村字留寿都186番95 ●定員 施設入所29名 ●職員計画 予定職員数：26名 医師、看護師、介護員、生活相談員 ほか



岩内コミュニティの丘

介護老人保健施設「コミュニティホーム岩内」と特別養護老人ホーム「岩内ふれ愛の郷」を中心に、溪仁会グループは岩内町で入居から通所まであらゆる高齢者福祉施設・サービスを運営・提供しています。中心の2施設が並ぶ高台を「岩内コミュニティの丘」と名付け、連携強化に努めています。

施設一覧

介護老人保健施設コミュニティホーム岩内、通所リハビリテーション、介護老人福祉施設岩内ふれ愛の郷、介護老人福祉施設岩内ふれ愛の郷ショートステイセンター、デイサービスセンターま〜れ、ケアプランセンターさつき、訪問看護ステーション岩内、岩内町地域包括支援センター、事業所内保育所ゆいまる

介護老人保健施設 コミュニティホーム岩内

〒045-0024 岩内郡岩内町字野東69番地の26 TEL 0135-62-3800 <http://www.keijinkai.com/c-iwanai/>



岩内町と隣接する町村を中心とした後志地区の介護拠点として機能を担っている介護老人保健施設です。部屋は全室個室で10床を1ユニットとしたユニットケアやリハビリ等を実施し、住み慣れた家庭や地域で生活が継続できるよう各職員が取り組みを行っています。

- DATA ●開設 2007年4月 ●協力医療機関 岩内協会病院
- 定員 施設入所…………… 100名
- 通所リハビリテーション …… 50名
- 通所介護…………… 10名

2012年度 運営概要

- 職員状況 職員数：123名 医師、理学療法士、言語聴覚士、作業療法士、栄養士、看護師、介護員、支援相談員、事務職員
- 研修参加・実施状況 看護・介護基礎研修、新人研修、全職員を対象としたユニットケア研修、ユニットリーダー研修(前後期1名ずつ)を実施
- 2012年度実績 入所：99.7名/日 通所リハビリテーション：38.9名/日 地域包括支援センター：相談件数延べ106件 訪問看護：13.3名/日 通所介護(ま〜れ)：8.2名/日

介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム) 岩内ふれ愛の郷

〒045-0024 岩内郡岩内町字野東69番地の4 TEL 0135-62-3131 <http://www.keijinkai.com/iwanai/>



岩内町が30年にわたって運営してきた特別養護老人ホームが、社会福祉法人溪仁会に全面移譲され、新たに運営開始となった施設です。リハビリによって心身機能の維持・回復が見込まれるご利用者さまには、その持てる残存機能を大いに発揮していただけるよう、全職員がさまざまな立場で取り組んでいます。

- DATA ●開設 2012年4月 ●主な特徴 介護老人福祉施設岩内ふれ愛の郷ショートステイセンター、障害福祉サービス事業所併設
- 定員 施設入所…………… 50名
- 短期入所生活介護…………… 10名
- 協力医療機関 指定管理者 医療法人溪仁会 手稲溪仁会病院 泊村立茅沼診療所

2012年度 運営概要

- 職員状況 職員数：36名 医師(嘱託)、看護職員、介護員、相談員、栄養士、理学療法士ほか
- 研修参加・実施状況 キャリア支援室研修、認知症ケア研修、楽になるクレーン対応研修会に参加
- 2012年度実績 入所：50.7名/日 短期入所生活介護：6.8名/日

介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム) 月寒あさがおの郷

〒062-0021 札幌市豊平区月寒西1条11丁目2番35号 TEL 011-858-3333 <http://www.keijinkai.com/asagao/>



ご利用者さま一人ひとりが地域社会とのつながりの中で暮らせるように、閑静な住宅街に立地しています。家族のようなふれあいを感じるユニットケアで日常生活をお手伝いし、居室は一人ひとりのプライバシーが尊重されるよう全室個室となっています。季節ごとの行事を大切に、笑顔と安心のある施設づくりに努めています。

DATA

- 開設 2011年8月
- 定員 施設入所……………80名
短期入所生活介護……………8名
通所介護(一般型)……………40名

●協力医療機関
ごとう内科クリニック、定山溪病院、札幌歯科口腔外科クリニック

2012年度 運営概要

- 職員状況 職員数：77名
医師、看護師、介護員、生活相談員、管理栄養士、ケアマネジャーほか
- 研修参加・実施状況 外部研修参加は47回延べ111名、内部研修参加は看取りケア研修・感染症研修・車椅子シーティング研修などを実施し延べ437名
- 2012年度実績 入所：79.1名/日 短期入所生活介護：3.8名/日 通所介護：18.7名/日

介護老人福祉施設(地域密着型特別養護老人ホーム) 菊水こまちの郷

〒003-0814 札幌市白石区菊水上町4条3丁目94番地64 TEL 011-811-8110 <http://www.keijinkai.com/kikusuikomachi/>



介護が必要になった方が、住み慣れた地域で家庭的な雰囲気のもと暮らすことができるように、10名が1つの生活単位(ユニット)として暮らしの仲間になり、専属スタッフが日常生活のお手伝いをいたします。食事・入浴など、ごく普通の暮らし方を顔なじみのスタッフがサポートしています。

DATA

- 開設 2007年7月
- 定員 施設入所……………29名
小規模多機能型居宅介護……………25名
(通い15名、泊まり全室個室5名)

●協力医療機関
広川内科クリニック、白石中央病院、白石江仁会病院、札幌ひばりが丘病院、札幌歯科口腔外科クリニック

2012年度 運営概要

- 職員状況 職員数：40名
医師、看護師、介護員、生活相談員、管理栄養士、ケアマネジャーほか
- 研修参加・実施状況 外部研修は参加38回延べ98名、内部研修は接遇、リスクマネジメント、認知症の理解、緊急時対応、感染対策など実施10回延べ278名
- 2012年度実績 入所：27.8名/日 小規模多機能型居宅介護：23.5名/日

2014年
6月
開設予定

介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム) 手稲つむぎの杜

札幌市手稲区前田に「手稲つむぎの杜」を開設予定です。広域型特別養護老人ホームとして、手稲区内はもちろん、その他地域からのご利用者さまの受け入れも担います。施設では「ひとりひとりの個性が生かせる居場所作り」をコンセプトに、完全個室のユニットケアを提供します。1階には災害時に介護が必要な方たちを収容する福祉避難場所を設けます。また、在宅医療連携拠点として、居宅介護支援事業所や介護予防センターを併設し、医療と福祉が密に連携したケアの提供をめざします。



DATA

- 所在地 札幌市手稲区前田2条10丁目
- 定員 施設入所80名、短期入所生活介護(ショートステイ)10名、通所介護60名、認知症対応型通所介護12名

●職員計画 予定職員数：104名 医師、看護師、介護員、介護支援専門員、生活相談員、療法士、管理栄養士 ほか

介護老人保健施設 コミュニティホーム白石

〒003-0024 札幌市白石区本郷通3丁目南1番35号 TEL 011-864-5321 <http://www.keijinkai.com/c-shiroishi/>



白石区の中心部にある介護老人保健施設として、地域の信頼と連携を大切にした施設サービスと在宅サービスを提供しています。すべてのスタッフが協働して在宅復帰、在宅生活の継続を積極的かつ総合的に支援します。また、趣味活動等を通して明るく楽しい生活ができるよう援助しています。

DATA

- 開設 1989年4月
- 定員 施設入所(短期入所療養介護含む)……………100名
通所リハビリテーション……………50名

●主な特徴
ISO9001認証(審査登録)、居宅介護支援、ホームヘルパーステーション、グループホーム白石の郷(定員18名)、デイサービスセンター白石の郷(定員55名)、ショートステイセンター(定員19名)併設

2012年度 運営概要

- 職員状況 職員数：182名 医師、看護師、介護員、支援相談員、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士、管理栄養士、ケアマネジャーほか
- 研修参加・実施状況 外部研修参加83回延べ335名、内部研修実施4回延べ221名
- 2012年度実績 入所：95.4名/日 通所リハビリテーション：36.0名/日 短期入所生活介護：14.6名/日 訪問介護：41.9回/日 居宅介護支援：延べ2,614件 地域包括支援センター：相談件数延べ741件 介護予防センター延べ相談件数：白石中央77件

介護老人保健施設 コミュニティホーム八雲

〒049-3117 北海道八雲町栄町13番地1 TEL 0137-65-2000 <http://www.keijinkai.com/c-yakumo/>



高齢になっても住み慣れた地域でいつまでも自分らしく生活できるようお手伝いする介護老人保健施設です。大勢のケアのプロフェッショナルが、チームワークを生かして医療とリハビリテーション、日常生活の援助など総合的なケアサービスを提供しています。

DATA

- 開設 1998年4月
- 定員 施設入所(短期入所療養介護含む)……………90名
通所リハビリテーション……………40名

●主な特徴
訪問リハビリテーション、居宅介護支援事業所、ホームヘルパーステーション(2013年4月1日開設)

●協力医療機関
八雲総合病院、ヤクモ歯科クリニック

2012年度 運営概要

- 職員状況 職員数：71名 医師、看護師、療法士、ケアマネジャー、介護員、相談員、管理栄養士ほか
- 研修参加・実施状況 外部研修参加62回延べ109名、内部研修は救急救命実践、スキルアップ、抑制廃止など実施10回延べ204人
- 2012年度実績 入所：86.5名/日 通所リハビリテーション：23.3名/日 訪問リハビリテーション(2012年8月1日事業開始)：20.5名/月 居宅介護支援：延べ851件

介護老人保健施設 コミュニティホーム美唄

〒072-0016 美唄市東5条南7丁目5番1号 TEL 0126-66-2001 <http://www.keijinkai.com/c-bibai/>



介護が必要な状態になっても住み慣れた地域で生活しながら家庭生活への復帰をめざせるよう、美唄市とその近郊にお住まいの方に信頼度の高いサービスを提供する介護老人保健施設です。開設当初から雪氷冷熱エネルギーを利用した「雪冷房システム」を採用して、地球環境に配慮した施設運営も行っています。

DATA

- 開設 2000年4月
- 定員 施設入所(短期入所療養介護含む)……………80名
通所リハビリテーション……………50名

●協力医療機関
市立美唄病院、宝崎歯科分院

2012年度 運営概要

- 職員状況 職員数：84名
医師、療法士、看護師、介護員、管理栄養士、支援相談員、事務職員ほか
- 研修参加・実施状況 内外合わせて51回延べ71名、人材育成のため積極的に各種研修を受講している
- 2012年度実績 入所：78.2名/日 通所リハビリテーション：34.7名/日

社会復帰生活支援 軽費老人ホーム(ケアハウス)
カームヒル西円山

〒064-0944 札幌市中央区円山西町4丁目3番21号 TEL 011-640-5500 <http://www.keijinkai.com/calm-nishimaruyama>



食事の提供、入浴の準備、緊急時の対応、相談助言を基本サービスとして、自立維持できる施設(ケアハウス)です。

入居者ができるだけ末永くケアハウスで生活できるように「特定施設入居者生活介護」の提供施設として指定を受け、介護を必要とする方々にサービスを提供しています。

- DATA**
- 開設 1996年4月
 - 定員 100名(特定施設含む)
 - 主な特徴 「特定施設入居者生活介護」の提供施設 など
 - 協力医療機関 札幌西円山病院

2012年度 運営概要

- 職員状況 職員数：16名 看護師、介護員、相談員、事務職員ほか
- 研修参加・実施状況 内外合わせて参加31回延べ107名、介護福祉士・介護支援専門員各1名資格取得、その他自主研修に積極参加
- 2012年度実績 入所：98.3名/日(うち特定入居者32.9名/日)

社会復帰生活支援 **美唄市東地区生活支援センター すまいる**

〒072-0015 美唄市東4条南5丁目1番4号 TEL 0126-66-2525 <http://www.keijinkai.com/smile/>



高齢者や障がいのある方、そのご家族の代理人として、医療・保健・福祉にわたるサービスの紹介・相談・調整・手続きなどを行っています。電話相談は、365日・24時間・無休で対応しています。また、通院介助を対象とした制度外訪問介護事業、地域の高齢者や障がい者を対象とした福祉入浴事業も実施しています。

- DATA**
- 開設 1999年4月
 - 事業内容 通所介護(一般型35名)、訪問介護、居宅介護支援、ライフサポートアドバイザー、福祉入浴

2012年度 運営概要

- 職員状況 職員数：51名 ケアマネジャー、訪問介護員、看護師、介護員ほか
- 研修参加・実施状況 各種研修参加延べ58名、その他訪問介護、通所介護、居宅介護支援の各事業所内研修を毎月1回開催
- 2012年度実績 通所介護：21.0名/日 訪問介護：47.8名/日 居宅介護支援：延べ2,142件 福祉入浴：14.2名/日 高齢者世話付住宅生活援助員派遣事業：3,844件

溪仁会グループでは、地域に根ざした6つの「ハーティケアセンター」がデイサービスやショートステイといったサービスを提供。ご利用者さまとご家族が少しでも快適な在宅生活を続けられるように支援を行っています。

生活支援通所介護 **青葉ハーティケアセンター**

〒004-0021 札幌市厚別区青葉町4丁目10番27号 TEL 011-893-5000 <http://www.keijinkai.com/aoba/>



- DATA**
- 開設 1999年12月
 - デイサービス 通所介護(一般型)……………65名
 - 協力医療機関 札幌西円山病院
 - 主な特徴 指定居宅介護支援事業所・訪問看護ステーション併設

2012年度 運営概要

- 職員状況 職員数：41名 生活相談員、看護職員、介護職員、ケアマネジャー、作業療法士ほか
- 研修参加・実施状況 通所介護、居宅介護、訪問看護におけるグループ内外主催の研修に多数参加
- 2012年度実績 通所介護：48.7名/日 居宅介護支援：延べ1,720件 訪問看護(あおば)：10.1名/日

生活支援通所介護 **豊平ハーティケアセンター**

〒062-0009 札幌市豊平区美園9条5丁目4番21号 TEL 011-831-5000 <http://www.keijinkai.com/toyohira-h/>



- DATA**
- 開設 2009年4月
 - デイサービス 通所介護(一般型)……………70名

2012年度 運営概要

- 職員状況 職員数：24名 相談員、看護職員、介護職員ほか
- 研修参加・実施状況 内部研修10名、外部研修8名参加
- 2012年度実績 通所介護：56.4名/日

生活支援通所介護 **円山ハーティケアセンター**

〒060-0001 札幌市中央区北1条西19丁目1番地2号ファミール第2大通 TEL 011-632-5500 <http://www.keijinkai.com/maruyama-h/>



- DATA**
- 開設 2009年4月
 - デイサービス 通所介護(一般型)……………75名
 - 主な特徴 指定居宅介護支援事業所併設

2012年度 運営概要

- 職員状況 職員数：35名 生活相談員、看護職員、介護職員ほか
- 研修参加・実施状況 各種外部研修へ参加のほか、施設内勉強会を年7回実施
- 2012年度実績 通所介護：59.6名/日 居宅介護支援：延べ189件

生活支援通所介護 **手稲溪仁会ハーティケアセンター**

〒006-0811 札幌市手稲区前田1条12丁目1番40号 TEL 011-685-2568 <http://www.keijinkai.com/teine-h/>



- DATA**
- 開設 2009年4月
 - デイサービス 通所介護(一般型)……………65名
 - 主な特徴 指定居宅介護支援事業所・介護予防センター・障がい者相談支援事業所併設

2012年度 運営概要

- 職員状況 職員数：40名 生活相談員、看護職員、介護職員、ケアマネジャー、支援相談員ほか
- 研修参加・実施状況 グループ内外主催の研修会に多数参加、内部勉強会として事例検討会議を2回開催
- 2012年度実績 通所介護：53.5名/日 居宅介護支援：延べ1,322件 介護予防センター延べ相談件数：まだ63件 障がい者相談支援事業：延べ244件

生活支援通所介護 **新琴似ハーティケアセンター**

〒001-0912 札幌市北区新琴似12条7丁目1番45号 TEL 011-763-5500 <http://www.keijinkai.com/shinkotoni-h/>



- DATA**
- 開設 2009年4月
 - デイサービス 通所介護(一般型)……………60名
 - 協力医療機関 新琴似ファミリークリニック

2012年度 運営概要

- 職員状況 職員数：32名 生活相談員、看護職員、介護職員ほか
- 研修参加・実施状況 グループ内外主催の研修会に参加、施設内勉強会は5回開催
- 2012年度実績 通所介護：46.1名/日

生活支援通所介護 **おおしまハーティケアセンター**

〒988-0604 宮城県気仙沼市廻館55番2号 TEL 0226-26-2272 <http://www.keijinkai.com/ooshima-h/>



- DATA**
- 開設 1999年8月
 - デイサービス 通所介護(一般型)……………30名
 - ショートステイ ………………9室
 - 主な特徴 ISO9001認証(審査登録)、指定居宅介護支援事業所・訪問介護・訪問看護・在宅介護支援センター併設

2012年度 運営概要

- 職員状況 職員数：42名 看護職員、介護職員、ケアマネジャー、相談員ほか
- 2012年度実績 通所介護：26名/日 訪問介護：5名/日 居宅介護支援：108件/月 訪問看護：2名/日 短期入所：8名/日 在宅介護支援センター：相談件数延べ286件
- 地域との交流 廻館地区ミニデイ(23名参加)、高井地区老人クラブ七福会講演(13名参加)など積極的に交流

2013年1月7日オープン **溪仁会在宅ケア・総合相談センター**

病気や介護、障がいについて、4つの支援機関が医療・介護・福祉の制度の垣根を越えて連携し相談・支援を行う「溪仁会在宅ケア・総合相談センター」を開設しました。

- 手稲区在宅医療連携拠点事業所「チームかりんば」**
看護師・社会福祉士が医療や自宅での治療など、在宅医療について幅広く相談を受けています。
- 指定居宅介護支援事業所「溪仁会在宅ケアセンター」**
ケアマネジャーが常勤し、ケアプランの作成や、介護保険にかかわるサービスの調整・申請手続きを行います。
- 札幌市委託事業「札幌市手稲区介護予防センターまえた」**
介護予防教室の開催や老人クラブへの出前講話など、高齢者へさまざまな介護予防活動を行っています。
- 札幌市障がい者相談支援事業所「相談室こころ ていね」**
障がいの区分なくさまざまな相談に幅広く対応し、内容に応じて支援機関などへ橋渡しをします。



- DATA**
- 所在地 札幌市手稲区前田1条12丁目2番地30号 溪仁会ビル1F
 - 問い合わせ チームかりんば…………… TEL 011-685-3920 溪仁会在宅ケアセンター…………… TEL 011-685-2322 札幌市手稲区介護予防センターまえた…………… TEL 011-685-3141 相談室こころ ていね…………… TEL 011-685-2861

活動報告 すーと。【一】

活動報告 すーと。【二】

活動報告 すーと。【三】

活動報告 すーと。【四】

溪仁会グループ施設運営概要

トップメッセージ

活動報告 すーと。【一】

活動報告 すーと。【二】

活動報告 すーと。【三】

活動報告 すーと。【四】

溪仁会グループ施設運営概要

トップメッセージ



身体障がい者支援

医療法人稲生会

生涯医療クリニックさっぽろ

〒006-0811 札幌市手稲区前田1条12丁目357番地22 TEL 011-685-2799 <http://www.toseikai.net>



医療法人稲生会
生涯医療クリニックさっぽろ
院長 土島 智幸

在宅呼吸ケアの新たな支援体制を築く

当クリニックは、小児NIV患者さまや、人工呼吸器を装着する成人患者さまの在宅療養を支援するため、2013年11月1日に開設しました。手稲浜仁会病院「小児在宅医療・人工呼吸器センター」を前身とし、在宅人工呼吸器の導入や訪問診療による管理・調整などのケアを続けるほか、支援団体と協働し、訪問看護・訪問介護のサービスを行います。さらにご家族の介護負担を減らすため、小児患者さまを一時的に預かるレスパイトを行うほか、ご家族のフォローを専門に担当する職員を置き、支援を強化していきます。

診療所内にはフリースペースを設け、ご家族の情報交換や地域の方々への啓発に利用します。行政や関係機関と連携を図り、患者さまやご家族、地域住民の皆さまと共に、より良い障がい者支援の形を考えていきたいと思っております。

DATA

- 開設
2013年11月1日
- 職員状況
職員数：21名 医師3名、看護師12名、理学療法士1名、作業療法士1名、介護士2名、ソーシャルワーカー1名、チャイルド・ライフ・スペシャリスト1名
- 事業内容
在宅療養支援診療所（無床）
訪問看護ステーション*
居宅介護事業所*
医療型日中一時短期入所（レスパイト、主に未就学児対象）
*NPO法人「くまさんの手」との協力により提供
- その他の取り組み
小児在宅医療勉強会（年3回）
子ども在宅ケアネットワーク（年4回）
家族交流会（年1回）
手稲区と共同企画による地域振興イベントに協力



福祉用具

株式会社ハーティワークス

〒003-0030 札幌市白石区流通センター1丁目7番54号 北新ビル1F TEL 011-863-8010 <http://www.keijinkai.com/heartyworks/>



福祉用具のレンタルや販売を中心に
自宅での暮らしの安心を支えています。

福祉用具のレンタル・販売、車いすのオーダーメイド製作や出張修理、住宅改修などの在宅サービスを中心に提供しています。介護が必要な方や障がいのある方が自分らしい生活を送ることができるよう、ニーズに合った質の高いサービス提供をめざしています。

DATA

- 開設 2005年1月
- 職員状況
職員数：16名 ホームヘルパー1・2級資格者、ケアマネジャー資格者、福祉用具専門相談員ほか
- 業務概要
福祉用具のレンタルおよび販売／住宅改修全般の相談・施工／病院・施設内の備品、家具、福祉機器、ユニフォームの販売／車いすのオーダーメイド製作および修理
- 主な特徴
ISO9001認証（審査登録）、介護保険 指定居宅サービス事業者（福祉用具貸与・販売、住宅改修）、障害者自立支援法 補装具委託事業者、障害者自立支援法 日常生活用具委託事業者

2012年度 運営概要

福祉用具貸与利用者	7,944名
特定福祉用具件数	162件
住宅改修件数	105件
日常生活用具件数	136件
車いす製作件数	231件

在宅支援生活支援

株式会社 ソーシャル

■ソーシャルヘルパーサービス白石／〒003-0808 札幌市白石区菊水8条2丁目2番6号 TEL 011-817-7270
■ソーシャルヘルパーサービス中央／〒060-0007 札幌市中央区北7条西17丁目11番地 TEL 011-633-1771
■ソーシャルヘルパーサービス西／〒063-0828 札幌市西区発寒8条10丁目4番20号 TEL 011-669-3530
<http://www.keijinkai.com/social/>



ヘルパーがご利用者さまのご自宅を訪問。
身体介護や生活援助をご提供しています。

地域のケアマネジャーが作成したケアプランに沿って、介護福祉士およびホームヘルパー2級以上の資格を持ったヘルパーがご利用者さまの自宅を訪問し、訪問介護・予防サービスを提供する「訪問介護事業」を行っています。また、介護が必要となる前に要支援の認定を受けた方には、介護予防訪問介護として家事のお手伝いを行います。

DATA

- 開設 1998年7月
- 職員状況 職員数：117名 ホームヘルパー1・2級資格者、介護福祉士ほか
- 業務概要 ホームヘルパーサービス事業



福利厚生

浜仁会健康保険組合

〒006-0811 札幌市手稲区前田1条12丁目2番30号 浜仁会ビル3F TEL 011-699-1180

独自の健康保険組合の運営によって
誰もが健やかに働ける環境づくりをめざしています。

浜仁会健康保険組合は、職員の福利厚生の充実をめざして設立されたもので、医療と福祉の法人では北海道初のケースです。当グループは、職員とその家族の健康を守ることは医療・福祉サービスの提供者としての責任ととらえています。被保険者の職員とその家族に対し、生活習慣病予防や健康管理などニーズに適した柔軟かつきめ細やかなサービスを実施し、これからは職員が安心して仕事に臨むことができる環境を整えていきます。

DATA

- 設立 2009年10月
- 加入対象
医療法人浜仁会、社会福祉法人浜仁会、株式会社ハーティワークス、株式会社ソーシャルの職員（被保険者）と家族（被扶養者）
- 加入者数
被保険者 3,897名
被扶養者 1,882名
計5,779名（2013年3月末現在）

Top Message CSRの旗印が

CSRレポートの発行について

溪仁会グループの「CSRレポート」は私たちの活動を紹介します。現在、わが国の多くの企業では自社の活動を「CSRレポート」として広報していますが、医療・保健・介護福祉の分野でCSR(事業体の社会的責任)の取り組みに着目したレポートを発行しているのはまだ数少ないと思います。

何年前かに東京ビッグサイトの国際モダンホスピタルショウに行ったとき、同じ会場で日本経営協会主催の経営ソリューション・セミナー「CSR経営」が開催されていました。そこで、世界の潮流になっているCSR経営に取り組んでいる多くの企業の活動を紹介します。CSRレポートを見る機会がありました。

組織経営という観点からは、企業や自治体などの組織体と、医療機関や介護施設とは全く同じです。「CSR経営セミナー」に参加して、私たちは一般企業と同じ目線のCSR経営を行い、その活動内容を広報するCSRレポートを発行することは、医療・介護の領域に限らない広い視野に広がる経営の方向性と確信したのです。

溪仁会グループがめざすのは、「地域に価値ある存在であり続け、社会から信頼される存在であり続けること」です。そのために、「質の高い、安全な医療や介護サービスの提供を期待する社会からの要請に誠実に応え」とともに、社会資本として地域に存在し続けて貢献するのが私たちの役割であり、地域への責任である」というCSRの取り組みを溪仁会グループの経営の根幹に据えています。この方針に基づいて、グループの各病院や介護施設では、「患者さま・ご利用者さま本位」の考えによる運営を行っています。このような溪仁会グループの活動の内容を2006年から毎年、CSRレポートとして紹介しているのです。

CSRの旗印を掲げる

溪仁会グループは札幌市をはじめ北海道の各地域で医療・保健・介護福祉の広い領域を担当し、また各病院、施設、事業所には非常に多くの専門職種がかかわっており、

約4,300名の職員が働いています。すなわち、きわめて多様で大規模な組織体です。

このような組織では、全体が同じ理念に基づいて、同じベクトルに向かって進み、価値感を共有することがきわめて重要であり、そのためには組織の一体感を導く旗印が必要です。「CSR=社会的責任」は溪仁会グループが掲げる志の旗印なのです。

2008年に行われた溪仁会グループの第20回記念職員合同研究発表会の記念講演「CSR経営で病院が変わる」で、田中宏司先生(経営倫理実践研究センター 主席研究員)は、「CSRを旗印に掲げた経営をすれば、病院はおのずと変わっていく。溪仁会グループの全員がCSRの本質をきちんと理解すれば、仕事を通じて自然に変わらざるを得ない。そうすることが生き残る道であり、発展につながる」と私たちに大きな示唆をいただきました。

私たちが「CSR」の旗印を掲げてから、間もなく10年が経ちます。当初は「CSRって何?」というのが大方の反応でしたが、最近では「私たちの社会における役割と責任」の志を端的に表す言葉として組織に広く浸透し、CSRの理念が「心のよりどころ」となって溪仁会グループの成長、発展を支えています。

CSRの理念の浸透

1979年の西円山病院(現 札幌西円山病院)の開院が、溪仁会グループの始まりです。その当時、老人病院は暗いイメージでしたが、創業者の加藤隆正先生は、病院の理念を「親切、丁寧、敬愛」とし、老人を大切にす明るい病院をめざしたのです。すなわち、創業時からCSR経営の考えが病院全体に行き渡り、誠実な医療を行う精神風土が培われていったのです。

2000年に加藤隆正先生が退任され、セコムとの業務提携により経営形態がオーナー経営から組織経営に代わった機会に、CSRの考え方に基づいたコンプライアンスマニュアル(事業理念・サービス憲章・行動規範)を制定(P43参照)しました。この理念を分かりやすく、「ずーっと。」という言葉で表して、溪仁会グループがめざすスローガンにしています。そ

溪仁会を支える

の後、溪仁会グループは、このCSRの理念に支えられて大きく発展しましたが、グループ全体にCSR、すなわち「社会的な役割と責任」の考え方を強く意識づけたのは、手稲溪仁会病院によるドクターヘリの運航でした。

当初は、一民間病院に補助金を伴う公的事業を任せることへの疑念から、ドクターヘリ事業はなかなか認可されませんでした。しかし、手稲溪仁会病院は北海道の広域救急医療のためにドクターヘリは絶対に必要という信念で3年間自主運航をしたのです。この救急医療への熱意と実績が周辺の自治体、消防、医療機関および北海道議会から広く支持された結果、2005年にドクターヘリ事業が知事から認可されて、正式に運航を開始したのです。

北海道で最初のドクターヘリ事業は道民からも広く支持され、歓迎されました。これが契機となって、手稲溪仁会病院のみならず溪仁会グループ全体が道民のために公益性の医療を行っているという信用と信頼が得られたのだと思います。この結果、「地域に価値ある存在であり続け、地域から信頼される存在であり続けること」が私たちの社会的な責務であり、責任であるというCSRの理念を溪仁会グループの職員が実感として受け止めるようになりました。そして、社会のために尽くしているという誇りと価値感が職員の中に浸透していったのです。それが現在の溪仁会グループの精神風土になっています。

医療の質と経営の質の向上をめざして

医療や介護に従事する人々は、自分の職業に対して強い使命感をもっています。その仕事から認められ、信頼されることが大きな励みになります。ドクターヘリ事業の取り組みが社会から高く評価されたことは、手稲溪仁会病院をはじめ溪仁会グループの全職員に仕事のやりがいと自信をもたらしたと思います。

その結果、「質の高い医療と介護サービスを提供するとともに、地域に存在し続けて地域に貢献する」さまざまな取り組みが積極的に行われるようになりました。現在は、北海道の地域医療計画と介護保険計画の中核を担う医療機関・介護機関として地域における公共的な役割を果たすようになっています。

すなわち、溪仁会グループは2004年にCSR経営の旗印を

掲げて以来、医療の質と経営の質の向上をめざす取り組みを積極的に積み重ねてまいりました。さらにCSRの理念を具体的に経営戦略として実現するために、ISOの品質(医療の質・経営の質)管理・環境保全・個人情報保護のマネジメントシステムに取り組みました。現在はこれを統合して溪仁会独自のマネジメントシステム(KMS)として発展しています。

また、経営の理念と方針を実現するための戦略として、4つの視点(顧客、業務システム、学習と成長、財務)から戦略目標・戦略指標を定め、それを実施し検証するバランススコアカードの取り組みが、それぞれの病院、施設および各部門で定着しています。

このような医療の質と経営の質の向上の緻密な取り組みが、溪仁会グループ全体の組織で行われているのは、職員にCSRの意識が浸透しているからであり、またそれぞれの地域において医療と介護のサービスを誠実に提供し、地域の信頼を得ていることが、職員の支えになっているからであると思います。

「理念(志=旗印)のない病院は滅び、戦略のない病院に明日はない」と言われます。CSRの旗印を支えとして、溪仁会グループはさらに成長していくための努力を着実に積み重ねていかなければと思っています。

溪仁会グループ最高責任者
医療法人 溪仁会 理事長

秋野豊明



第三者意見



駿河台大学経済経営学部・同大学院経済学研究科教授
日本経営倫理学会副会長

水尾順一 (みずお・じゅんいち)氏

【プロフィール】

(株)資生堂を経て1999年駿河台大学に奉職、現在に至る。博士(経営学)。(社)経営倫理実践研究センター上席研究員、日本経営品質学会副会長、2010年ロンドン大学客員研究員他。著書『人にやさしい会社』(白桃書房:共編著)、『逆境経営 7つの法則』(朝日新書)、『CSRで経営力を高める』(東洋経済新報社)、『マーケティング倫理』(中央経済社)など。

「人にやさしい組織」をめざして医療・保健・福祉サービスを進める
溪仁会グループのCSR報告書は、同グループらしさにあふれた報告書となっています。

企業でCSRを実践し、大学と学会でその理論構築をしながら、「CSRの理論と実践の融合」を社会に促進してきた立場から、以下に第三者意見を申し述べます。

高く評価できる点①

コーポレート・スローガン「ずーっと。」の実践活動が、当レポート全体を通して十分に情報開示・報告されています。

CSRを進める重要な概念の一つにサステナビリティ(持続可能性)があります。組織の持続可能性だけでなく、お客さま(患者さま)、地域社会、取引先、従業員、株主などあらゆるステークホルダー(利害関係者)と一体になって持続可能性を相互に享受することです。

その意味から、同グループの「ずーっと。」は、CSRを進める上で賞賛されるべき上質のコーポレート・スローガンといえます。しかもミッションとして一体化され、サービス憲章と行動基準として具体的に明示されることで、全職員が共通の目標に向かうエネルギーを生み出します。

特に今年度のCSRレポートでは、「ずーっと。」を導く明日への力として4つの柱で特集記事が報告され、随所に職員の「顔が見える活動」が紹介されており、コーポレート・スローガンに対する同グループの思いを十分に感じ取ることができます。

これらの4つのメッセージは、ミッションで「シームレス」という言葉で表現されています。いつの時代にあっても高品質なサービスを絶え間なく提供し続けることで、同グループを取り巻くさまざまなステークホルダーからの信頼やコーポレート・レピュテーション(企業評価)の向上に結びつきます。

それは「啓発的自己利益」という表現で示されるように、最終的には同グループの持続可能な発展の源泉ともなりうるものです。

高く評価できる点②

CSR経営につながる、KMS(溪仁会マネジメントシステム)の進化がうかがえます。

組織の持続可能な発展には、マネジメントのシステム化が不可欠です。現在は、ISOをはじめとして世界のさまざまなマネジメント規格

がありますが、同グループは、これまでもISO9001や14001、個人情報保護のプライバシーマークの取得などに早くから取り組んできました。

特に2010年以降は、ISO9001の品質規格を継続しながら、ISO26000の社会的責任規格をもとに、7つの原則と中核主題を適用し、環境と個人情報も含めた同グループ独自の総合的なKMSへの取り組みを進めています。このような“同グループらしさ”を感じさせる独自のマネジメントシステムは、医療・保健・福祉サービスを進める上でも、よりどころとなる秀逸な活動といえます。

この活動を職員と一体になって取り組むことで、「ずーっと。」につながるCSR経営の継続的な改善を進めることができます。

今後に期待する点

次年度への課題発見に結びつける
マネジメント・サイクルの実践を期待します。

KMSによる経営改善を進める上で重要なことは、組織自らのイノベーションの創造です。そのためには、CSRの現状分析を行いながら、計画(Plan)－実行(Do)－監査(Check)－見直し(Act)によるマネジメント・サイクルを活用し、同グループの残された課題を一覧で明確にすることです。

その上で、短期の課題は次年度の活動計画に反映させ、その実践に向けたグループや職員一人ひとりの取り組みを明確にすれば、職員の参画意欲も高まり、ステークホルダー・エンゲージメントにつながります。

また、中・長期の課題は、将来のロードマップを描きつつ各部門で共有することで、「ずーっと。」の実践に向けた目標が明確になります。

全グループのレベルから各部門、そして職員個人が丸となったマネジメント・サイクルの実践を通じた活動が、同グループの持続可能な発展に結びつくことを心から祈念申し上げます。

溪仁会グループの活動を
よりわかりやすく
お伝えするために

医療・保健・福祉サービスの用語集



【1次・2次・3次救急】

日本の救急医療体制は、都道府県が策定する医療計画に基づき、患者の重症度に応じて3段階の体制をとっています。

1次救急は初期救急ともいい、入院や手術を伴わない軽症の患者さまへの診療を受け持ち、休日夜間急病センターや在宅当番医が行います。2次救急は、一般病棟への入院を必要とするような患者さまへの診療を担当します。いくつかの病院が当番日を決めて受け持つ病院群輪番制や、中核となる施設に当番の医師が集まる共同利用型病院方式があります。3次救急は、重篤な疾患や多発外傷など2次救急では対応できない診療を受け持ちます。救命救急センターや高度救命救急センターが担当します。

【2025年問題】

2025年にはベビーブーム世代(団塊の世代)が75歳以上の後期高齢者となり、高齢者人口が3,500万人に達すると推計されています。それにより医療費と社会保障費は増加するほか、高齢者の住居や介護などたくさん問題が生まれると予測されています。



【ID-Link(アイディーリンク)】

医療機関同士をインターネット回線で接続し、複数病院の診療情報を一括して閲覧できるようにすることで、検査データや処方情報、画像データ

などのやり取りを可能にし、緊密な医療連携体制をサポートするシステムです。

【医療連携】

地域にあるさまざまな医療機関が自分たちの機能や特色を明確にし、役割分担をしながら、互いに協力・連携して治療に取り組む医療体制のこと。医療機関は得意分野に専念することができ、患者さまはスムーズに質の高い医療サービスを受けることができます。

【胃ろう】

口から食べ物を摂ることが難しい場合、直接栄養や水分などを送り込むために胃に開ける小さな穴のこと。あるいはその処置自体のことを指して使われる場合もあります。

【インフォームドコンセント】

医師が患者さまに対して治療方法などの説明を行い、正しく理解してもらったうえで、納得と同意を得ること。医師が一方向的に決めるのではなく、患者さまの意思を尊重するための概念として、日本では1990年代から取り入れられるようになりました。

【ADL(エーディー・エル)】

「Activities of Daily Living」の略で、日本語では日常生活動作といえます。食事や移動、排泄、入浴といった日常生活に必要な最低限の基本動作のことで、こうした動作ができるかどうか、高齢者や障がいを持つ人の動作能力を判定する指標になります。

【エビデンス】

医学的根拠のこと。治療法、薬剤、検査方法など、「それが良い」「勧められる」という根拠を、臨床データなどを元にして示すことをいいます。

【介護老人福祉施設】

心身に重い障がいがあるため常時介護が必要で、ご自宅での生活が困難な65歳以上のご利用者さまに、看護や介護、リハビリテーションなどを提供する施設。要介護度1～5と認定された方が対象になります。一般には「特別養護老人ホーム」と呼ばれています。



【介護老人保健施設】

介護が必要なご利用者さまがご自宅に復帰できるように、看護や介護、リハビリテーションなどで支援する施設。介護保険の被保険者で、入院治療の必要がない要介護度1～5と認定された方が対象になります。

【回復期病院】

急性期を過ぎて、自宅復帰をめざす段階の患者さまを対象にした病院のこと。「回復期リハビリテーション病院(病棟)」は、主に脳卒中や脊髄・骨盤骨折などの急性期治療を終えた患者さまに、専門的なリハビリテーションを提供します。

【かかりつけ医】

風邪や発熱など、さまざまな病気の初期症状に対応し、日常から健康状態の把握やアドバイスを行う身近な存在の医師のこと。必要があれば、適切な治療が受けられるように専門的な医療機関を紹介し、患者さまの情報提供などを行います。



【カテーテル】

血管や尿管などに挿入して、治療や検査、体液の排出などを行うための細く柔らかい管。手術を行わずに治療などができるため、身体への負担がかりにくく、心臓や脳、血管、消化器など、幅広い分野で普及が進んでいます。

【かんし 鉗子】

手術に用いる道具で、ものをつかんだり、牽引したりする際に使用します。

【カンファレンス】

病院内で開かれる症例検討会のこと。担当する症例を持ち寄り、診断や治療方法について幅広い視点から話し合います。医師同士のほか、他職種を交えて行うチームカンファレンスなどもあり、スタッフ間の情報共有の場としても活用されています。

【かんわ 緩和ケア】

患者さまの心身の苦痛を取り除き、できるだけ安楽に過ごしていただくことを目的とした医療的な処置のこと。多くは末期がんなどで余命が短い方に対して行われます。入院に限らず、ご自宅や通院でも対応し、ご本人やご家族の要望を重視しながら、充足した時間を過ごしていただけるように支援します。

医療・保健・福祉サービスの用語集



【QOL(キュー・オー・エル)】

「Quality Of Life(生活の質)」の略。精神面や身体面なども含めたその人らしい豊かな生活(人生)、という概念。医療や福祉の世界では、患者さまご利用者さまの価値観を尊重しながら、その人らしく生きることを支えるという考え方としても使われます。

【急性期病院】

病気の発症から急激に症状が進み、重症な状態にある患者さまに対して、入院や手術などの専門的で高度な医療を行う病院のこと。



【クリニカル・バス】

患者さまが入院してから退院するまでの検査や手術、リハビリテーションなどのスケジュールをまとめた診療計画表のこと。クリニカル・バスともいいます。患者さまと医療者側の双方が持ち、意識や情報を共有しながら、スムーズな治療をめざすためのものです。

【グループホーム】

病気が障がいを抱える人たちが、福祉サービスの支援を受けながら、地域において、少人数単位の集団で生活するケアの形態。日本では介護保険の給付対象になっていることから、認知症の高齢者を対象にした居住型施設という限定的な意味でも使われています。

【ケアマネジャー】

介護支援専門員ともいいます。介護が必要と認定された方が適切なサービスを受けられるように、介護サービス計画(ケアプラン)を作成します。在宅介護サービス事業者や福祉施設、行政機関などとの連絡役を果たし、ご利用者さまとご家族を支えます。

【血管造影】

動脈から挿入したカテーテルを経由して目的の臓器にX線を透過しない造影剤を入れ、血管内部の状態が見えるように撮影する方法です。

【言語聴覚士(ST)】

話したり聞いたり、言葉を理解したりといった言葉のコミュニケーションに障がいがある人へのリハビリテーションを担当します。脳卒中による失語症

や発声障害のほか、摂食・嚥(えん)障害のケアなどにも関わります。

【誤嚥】

食べ物や飲み物などを飲み込む際に、食道ではなく誤って気管に入ってしまうこと。飲み込む力が弱くなった場合などに起きやすくなります。食べ物などが気管に入ると肺炎になったり、窒息の原因になることもあります。

【コメディカル】

医師と歯科医師以外の、医療に携わる専門職種の種類。看護師、薬剤師のほか、リハビリテーションに関わる理学療法士や作業療法士、歯科診療に関わる歯科衛生士、検査業務を担当する臨床検査技師など、数多くの職種が含まれます。

【災害拠点病院】

災害時の初期救急医療体制の充実強化を図るための医療機関。24時間いつでも災害に対する緊急対応ができ、消防機関と連携し、傷病者の受け入れ・搬送をヘリコプターなどで実施できるなど、必要な機能が定められています。

【在宅ケア(医療)】

患者さまのご自宅で提供する医療のこと。特に、症状の重い患者さまがご自宅での生活を続けられることを目的に行う、訪問診療や訪問看護などを意味する場合もあります。



【作業療法士(OT)】

身体や精神に障がいがある人や高齢者などに、趣味的な活動や日常生活動作(前ページ「ADL」の項参照)の訓練などを通してリハビリテーションを行います。身体面だけでなく、精神面への働きかけも重視し、その人らしい生活が送れるように支援します。

【産業医】

事業所で労働者が健康・快適な状態で業務ができるよう、専門的な指導と助言を行う医師。産業医となるためには、厚生労働大臣が定める産業医研修の修了者、労働衛生コンサルタント試験

合格者など、産業医となるための要件のいずれかをクリアする必要があります。

【産業カウンセラー】

一般社団法人 日本産業カウンセラー協会が認定する民間資格。働く人やその家族の心のケアや、キャリア・カウンセリングを行います。



【シームレスなサービス】

「シームレス」とは継ぎ目がない、という意味。深仁会グループでは、医療・保健・福祉サービスを途切れることなくつなぎ、スムーズに提供しています。これはグループ内にとどまらず、外部の医療機関や福祉施設、行政機関とも連携を深め、スムーズなサービスの提供をめざしています。

【自由診療】

健康保険が適用されない診療のこと。認可前の新薬の使用や、最先端の診療を受けることが可能ですが、全額が自己負担になります。

【終末期】

治療での回復の見込みがなく、数週間から数カ月以内に死亡が予期される状態になった時期。ターミナル期ともいいます(次ページ「ターミナルケア」の項参照)。

【紹介状】

正式には診療情報提供書といえます。かかりつけ医などから、より高度な医療を提供する医療機関に患者さまを紹介する際、症状や診断、治療経過などを明記し、スムーズに治療が引き継がれるようにするためのものです。総合病院などでは、紹介状がないと特定医療費を請求されることがあります。これは初期診療を受け持つ医療機関と高度医療を行う医療機関の役割分担を促すという目的からのものです。

【小規模多機能型居宅介護】

通い(デイサービス)を中心に、必要に応じて訪問介護やショートステイを組み合わせる利用可能な地域密着型の介護保険サービスです。

【褥瘡】

病気などで長期間、寝たきりになっていたために、腰やお尻、手足などの皮膚が圧迫されて壊死を起こした状態。床ずれともいいます。

【侵襲】

けがや手術などの治療、検査などの外部からの刺激によって、痛みや発熱、出血など体への負担がもたらされること。

【セカンドオピニオン】

現在かかっている病院での診断や治療方針について、それが適切かどうかを判断するために、他の病院の医師の意見を聞くこと。

【摂食・嚥下】

摂食は食べ物を摂ること。嚥下は食べ物を口から飲み込んで胃まで運ぶまでの機能のこと。高齢者などに多い摂食・嚥下障害は、この機能が正常に働かず、食べ物や飲み物がうまく飲み込めなかったり、誤って気管などに入ってしまう(前ページ「誤嚥」の項参照)症状のことをいいます。

【ソーシャルワーカー】

生活上や身体上などの問題を抱えている人を、相談やアドバイスによって支え、社会復帰や自立した生活に向けて援助する役割の総称。医療・保健・福祉などの専門的な知識を持つ専門職で、医療機関ではメディカルソーシャルワーカーとも呼ばれます。



【尊厳死】

余命が短いと診断された患者さまが、延命だけを図るための医療的な処置を受けることを望まず、人間としての尊厳を保ちながら人生を終えられること。医療者側は、何よりも患者さま(ご家族)の意思を尊重して、安らかな最期を迎えられるように支えます。

【ターミナルケア】

終末期の患者さまに対する医療や看護、介護などのこと。延命的な医療処置よりも、苦痛や恐怖を取り除き、患者さまがその方らしさを保ちながら人生を終えられるようにするためのケアを中心に提供します。

【地域医療支援病院】

患者さまの身近な地域で医療が提供されることが望ましいという観点のもと、かかりつけ医・かかりつけ歯科医を支援し、地域医療を確保する能力・設備を備える役割を担い、高度医療・専門医療を提供する中核病院として都道府県知事により承認された病院です。紹介された患者さまに対する医療提供、医療機器の共同利用の実施などを行います(関連情報P18-19)。

【地域包括ケアシステム】

2025年をめどに、高齢者が可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを最期まで続けられるように構築された、地域の包括的な支援・サービス提供体制。高齢者の尊厳を重要視し、できるだけ自立生活を送れるように支援します。

【地域包括支援センター】

地域の高齢者が安心して暮らせるように、総合的な支援を行う窓口。市町村、あるいは市町村から委託を受けた医療・福祉法人などによって運営されます。介護予防の観点から、自宅で生活される高齢者またはその家族の相談に応じ、医療・福祉サービスなどが適切に提供されるようにします。

【特定健診/特定保健指導】

特定健診は生活習慣病予防のために2008年度から始められた健康診査。成人病のリスクが高いとされるメタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)の予防に重点を置いているため、「メタボ健診」とも呼ばれます。この特定健診で危険度が高いと判定されると、特定保健指導によって食生活や運動などの指導を受け、生活習慣の改善をめざすことになります。

【トリアージ】

災害などで多くの負傷者が出た場合、症状に応じて分類し、治療や搬送の優先順位をつけること。治療や搬送の効率を高め、一人でも多くの重傷者を救うために必要な処置として採用されています。



【プライマリ・ケア】

身近にいて、さまざまな病気の診療や相談に対応してくれる医師(かかりつけ医)による総合医療のこと。プライマリ・ケアを行う医師は、専門のトレーニングを受け、あらゆる初期診療に対応できる能力を身につけています。

【ホスピスケア】

末期がんなど、治る見込みがない疾患の患者さまから身体的・精神的な苦痛を取り除き、尊厳を保ちながら最期を迎えることをめざすケア。緩和ケアともいいます。

【慢性期病院(療養病床)】

急性期を過ぎて症状は安定しているものの、経過の見守りが必要で自宅復帰が難しい患者さまに、長期間にわたって入院・治療を提供する病院のこと。

【看取り】

病気になった人の世話をすること。または亡くなるまでそばで看病し、見守ること。最近では後者の意味で使われることが多く、自宅のほか、病院や福祉施設などで亡くられる方への対応を指す場合もあります。

【メンタルヘルス】

精神(心)の健康、精神保健。生活や仕事の中で抱えるストレスが心の健康に影響し、40人に1人は心の病気を抱えるといわれます。特に職場でのメンタルヘルス対策が推進されています。

【ユニットケア】

自宅に近い環境で、少人数の入居者・介護スタッフと共同生活をしながら、一人ひとりの個性や生活のリズムに合わせた暮らしをサポートするケア。10人前後を1ユニット(生活単位)とし、プライバシーを守るための個室と、ユニット単位の居間を備えます。また、さまざまな活動もユニット単位で行います。

【予後】

治療後などの症状についての医学的な見通し。あるいは、病後の経過を指して使われる場合もあります。

【理学療法士(PT)】

身体に障がいがある人や高齢者などに、主に身体機能の回復や維持などを目的としたリハビリテーションを提供します。歩行訓練や体操などによる運動療法と、患部を温めたり電気刺激を当てたりする物理療法を行うほか、住宅改修のアドバイスなども担当します。

【リハビリ】

リハビリテーションの略。身体的な機能を回復したり、障がいを軽減したり、症状が悪化しないように維持するための訓練や治療のこと。リハビリテーションを担当するスタッフには、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などがいます。



【レスパイト】

介護が必要な障がいを持った人を一時的に預かり、日常的に介護している家族が休息できるよう支援すること。家族の介護疲れを防ぐために重要です。

保 健 健康のチェックと病気の早期発見、健康管理、予防に関するサービスを提供しています。
総合健診施設 溪仁会円山クリニック
 札幌市中央区大通西26丁目3-16
 ☎011-611-7766

治療とケア 最新の医療技術と機器を備え総合医療を提供しています。救急指定医療機関として、365日・24時間体制であらゆる疾患・外傷の患者さまを受け入れています。
総合医療 手稲溪仁会病院 | **手稲溪仁会クリニック** | **手稲家庭医療クリニック**
 札幌市手稲区前田1条12丁目1-40 | 札幌市手稲区前田1条12丁目2-15 | 札幌市手稲区前田2条10丁目1-10
 ☎011-681-8111 | ☎011-685-3888 | ☎011-685-3920

療養とケア 長期療養が必要な方に、看護・介護・リハビリテーションを中心とした医療サービスを提供しています。
療養病床 札幌西円山病院 | **療養病床 定山溪病院**
 札幌市中央区円山西町4丁目7-25 | 札幌市南区定山溪温泉西3丁目71
 ☎011-642-4121 | ☎011-598-3323

介 護 ●介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)
 日常生活に常時介護が必要で、自宅では介護が困難なお年寄りが入所し、食事・入浴・排せつなどの日常生活の介護や健康管理が受けられます。
西円山敬樹園 | **岩内ふれ愛の郷**
 札幌市中央区円山西町4丁目3-20 | 岩内郡岩内町字野東69-4
 ☎011-631-1021 | ☎0135-62-3131

●介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)
 10名が1つの生活単位(ユニット)として暮らし、顔なじみのスタッフが日常生活のお手伝いをします。
月寒あさがおの郷 | **きもべつ喜らめきの郷**
 札幌市豊平区月寒西1条11丁目2-35 | 虻田郡喜茂別町字伏見272-1
 ☎011-858-3333 | ☎0136-33-2711

●地域密着型介護老人福祉施設
 定員29名以下の小規模な介護老人福祉施設で、介護・看護・機能訓練等のサービスを提供するとともに地域や家庭との結びつきを重視した施設です。
菊水こまちの郷
 札幌市白石区菊水上町4条3丁目94-64
 ☎011-811-8110

●介護老人保健施設
 病状の安定期にあり、入院治療を必要のない方に保健・医療・福祉の幅広いサービスを提供する、介護保険適用の施設です。
コミュニティホーム白石 | **コミュニティホーム八雲** | **コミュニティホーム岩内** | **コミュニティホーム美瑛**
 札幌市白石区本郷通3丁目南1-35 | 二海郡八雲町栄町13-1 | 岩内郡岩内町字野東69-26 | 美瑛市東5条南7丁目5-1
 ☎011-864-5321 | ☎0137-65-2000 | ☎0135-62-3800 | ☎0126-66-2001

●軽費老人ホーム(ケアハウス)
 食事の提供、入浴の準備、緊急時の対応、健康管理および相談助言を基本サービスとして、自立の維持ができる施設です。
カムビル西円山
 札幌市中央区円山西町4丁目3-21
 ☎011-640-5500

●認知症対応型共同生活介護(グループホーム)
 認知症の方が、小規模な生活の場において食事の支度・掃除・洗濯などを共同で行い、家庭的な雰囲気の中で穏やかな生活を過ごせるよう支えます。
グループホーム 白石の郷 | **グループホーム 西円山の丘**
 札幌市白石区本郷通3丁目南1-16 | 札幌市中央区円山西町4丁目3-21
 ☎011-864-5861 | ☎011-640-2200

●短期入所生活介護(ショートステイ)
 事情により介護ができないときに短期間入所していただき、ご家族に代わって食事・入浴等日常生活のお世話をいたします。
西円山敬樹園ショートステイセンター | **おおしまショートステイセンター** | **月寒あさがおの郷ショートステイセンター** | **岩内ふれ愛の郷ショートステイセンター**
 札幌市中央区円山西町4丁目3-20 | 宮城県気仙沼市廻館55-2 | 札幌市豊平区月寒西1条11丁目2-35 | 岩内郡岩内町字野東69-4
 ☎011-631-1021 | ☎0226-26-2272 | ☎011-858-3333 | ☎0135-62-3131

●小規模生活単位型指定短期入所生活介護(ショートステイ)
 全室個室のユニットケアで家庭的な環境のなか、手軽にご利用していただき、ご家庭に帰るまでの間、健康で・楽しく・明るく過ごしていただけます。
コミュニティホーム白石ショートステイセンター
 札幌市白石区本郷通3丁目南1-35
 ☎011-864-5321

●地域包括支援センター
 高齢者の誰もが、住み慣れた地域でその人らしい尊厳ある生活を継続できるよう支援しています。
札幌市白石区 第1地域包括支援センター | **岩内町地域包括支援センター** | **札幌市白石区 第3地域包括支援センター**
 札幌市白石区本郷通3丁目南1-35 | 岩内郡岩内町字野東69-26 | 札幌市白石区本郷通9丁目南3-6
 ☎011-864-4614 | ☎0135-61-4567 | ☎011-860-1611

●在宅介護支援センター
 家庭で介護を必要とされるお年寄りなどやそのご家族の方に対し、在宅介護に関する総合的なご相談に応じます。
宮城県気仙沼市 在宅介護支援センターおおしま
 宮城県気仙沼市廻館55-2
 ☎0226-26-2272

●介護予防センター
 高齢になっても、住み慣れた地域で、その人らしい自立した生活が継続できるように介護予防事業を行っています。
札幌市中央区 介護予防センター円山 | **札幌市中央区 介護予防センター曙・幌西** | **札幌市白石区 介護予防センター白石中央**
 札幌市中央区円山西町4丁目3-20 | 札幌市中央区円山西町4丁目3-20 | 札幌市白石区本郷通3丁目南1-35
 ☎011-633-6056 | ☎011-633-6055 | ☎011-864-5535

札幌市南区 介護予防センター定山溪 | **札幌市手稲区 介護予防センターまえた**
 札幌市南区定山溪温泉西3丁目71 | 札幌市手稲区前田1条12丁目2-30 溪仁会ビル1F
 ☎011-598-3311 | ☎011-685-3141

●通所介護(デイサービス)
 要支援1・2、要介護1～5と認定された40歳以上の方を対象に、食事や入浴、機能訓練や趣味活動などのサービスを提供します。
あおばデイサービスセンター | **豊平溪仁会デイサービス** | **円山溪仁会デイサービス** | **手稲溪仁会デイサービス**
 札幌市厚別区青葉町4丁目10-27 | 札幌市豊平区美園9条5丁目4-21 | 札幌市中央区北1条西19丁目1-2 | 札幌市手稲区前田1条12丁目1-40
 ☎011-893-5000 | ☎011-831-5000 | ☎011-632-5500 | ☎011-685-2568

●小規模多機能型居宅介護
 「通い」「訪問」「泊まり」のサービスを組み合わせて、365日24時間住み慣れた地域での生活維持を目的とする地域密着型サービスを提供します。
小規模多機能型居宅介護 菊水こまちの郷
 札幌市白石区菊水上町4条3丁目94-64
 ☎011-811-8110

●指定居宅介護支援事業所
 介護支援専門員(ケアマネジャー)が、介護保険サービス利用の申請手続きや、ケアプランの作成など介護保険に関する様々な相談に応じています。
溪仁会在宅ケアセンター | **札幌西円山病院在宅ケアセンター** | **定山溪病院在宅ケアセンター**
 札幌市手稲区前田1条12丁目2-30 溪仁会ビル1F | 札幌市中央区円山西町4丁目7-25 | 札幌市南区定山溪温泉西3丁目71
 ☎011-685-2322 | ☎011-642-5000 | ☎011-598-5500

●札幌市障がい者相談支援事業所・札幌市障がい者住宅入居等支援事業所
 障がいがあっても、住み慣れた地域で自立した生活ができるよう、様々な相談に応じています。
相談室こころ ていね
 札幌市手稲区前田1条12丁目2-30 溪仁会ビル1F
 ☎011-685-2861

●訪問看護ステーション
 看護師がご自宅に訪問し、主治医の指示に基づき、医療処置・医療機器を必要とされる方の看護を行っています。
はまなす訪問看護ステーション | **訪問看護ステーションあおば** | **訪問看護ステーションおおしま** | **訪問看護ステーション岩内**
 札幌市手稲区前田2条10丁目1-10 | 札幌市厚別区青葉町4丁目10-27 | 宮城県気仙沼市廻館55-2 | 岩内郡岩内町字野東69-26
 ☎011-684-0118 | ☎011-893-5500 | ☎0226-26-2270 | ☎0135-62-5030

●訪問介護(ホームヘルパーステーション)
 ご家族で介護を必要とされる方が、快適な生活を過ごせるようご家庭に訪問し、日常生活をサポートします。
西円山敬樹園ホームヘルパーステーション | **コミュニティホーム白石ホームヘルパーステーション** | **ホームヘルパーステーションすまいる**
 札幌市中央区円山西町4丁目3-21 | 札幌市白石区本郷通3丁目南1-35 | 美瑛市東4条南5丁目1-4
 ☎011-644-6110 | ☎011-864-2008 | ☎0126-66-2525

ホームヘルパーステーションおおしま | **ケアセンターこころ** | **コミュニティホーム八雲ホームヘルパーステーション**
 宮城県気仙沼市廻館55-2 | 札幌市西区八軒1条西1丁目2-10 | 二海郡八雲町栄町13-1
 ☎0226-26-2272 | ☎011-632-0605 | ☎0137-65-2122

ケアセンターこころ ようてい | **ソーシャルヘルパーサービス白石** | **ソーシャルヘルパーサービス中央** | **ソーシャルヘルパーサービス西**
 虻田郡喜茂別町字喜茂別15-1 | 札幌市白石区菊水8条2丁目2-6 | 札幌市中央区北7条西17丁目11 | 札幌市西区発寒8条10丁目4-20
 ☎0136-33-2112 | ☎011-817-7270 | ☎011-633-1771 | ☎011-669-3530

福祉用具 福祉用具のレンタル・販売から、車いすのオーダーメイド製作・出張修理、住宅改修事業まで自宅での生活の安心を支えます。
株式会社 ハーティワークス
 札幌市白石区流通センター1丁目7-54 北新ビル1F
 ☎011-863-8010

地域医療支援 公立診療所の指定管理者として地域の医療を支えます。
泊村立茅沼診療所 | **喜茂別町立クリニック**
 古宇郡泊村大字茅沼村711-3 | 虻田郡喜茂別町字喜茂別13-3
 ☎0135-75-3651 | ☎0136-33-2225

身体障がい者支援 身体障がいを抱えた方の在宅療養を包括的に支援します。
医療法人稲生会
 ■生涯医療クリニックさっぽろ | ■訪問看護ステーションくまさんの手 | ■居宅介護事業所くまさんの手 | ■短期入所施設どんぐりの森
 ☎011-685-2799 | ☎011-685-2791 | ☎011-685-2791 | ☎011-685-2791

溪仁会グループ
医療法人溪仁会 法人本部
 〒006-0811 札幌市手稲区前田1条12丁目2-30 溪仁会ビル3F / ☎ 011-699-7500(代表)
社会福祉法人溪仁会 法人本部
 〒064-0823 札幌市中央区北3条西28丁目2-1 サンビル5F / ☎ 011-640-6767



【シンボルマークについて】

溪仁会の頭文字であるKをモチーフに、当グループの理念を表現しています。その形状は人と人の支え合いに基づいた「安心感と満足の提供」、勢いよく真っ直ぐに立ち上がるさまは「変革の精神」を表しています。ブルーのカラーリングは、「プロフェッショナル・マインド」および「信頼の確立」をひたむきに追求する、誠実さをイメージしています。

溪仁会グループ

〒006-0811 札幌市手稲区前田1条12丁目2番30号 溪仁会ビル3F
TEL 011-699-7500 FAX 011-699-7501

[溪仁会グループホームページ](#)

溪仁会グループ

検索

<http://www.keijinkai.com>

